

人権に関する市民意識調査
報 告 書

令和2年1月

瑞 浪 市

目次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査内容	1
4	回収結果	2
5	標本誤差	2
6	調査結果の表示方法	3

II 調査結果の要約

1.	人権全般について	3
2.	女性の人権について	4
3.	子どもの人権について	4
4.	高齢者の人権について	4
5.	障がい者の人権について	5
6.	インターネットによる人権侵害について	5
7.	同和について	5
8.	アイヌの人々・外国人などの人権について	6
9.	災害時の人権について	6
10.	人権教育・人権啓発の方法について	7

Ⅲ 調査結果

(1) 回答者属性.....	8
(2) 人権全般について.....	10
(3) 女性の人権について.....	39
(4) 子どもの人権について.....	44
(5) 高齢者の人権について.....	50
(6) 障がい者の人権について.....	54
(7) インターネットによる人権侵害について.....	58
(8) 同和問題について.....	62
(9) アイヌの人々の人権について.....	67
(10) 外国人の人権について.....	69
(11) 犯罪被害者とその家族の人権について.....	71
(12) 感染症患者などの人権について.....	74
(13) 刑を終えて出所した人の人権について.....	75
(14) 災害時の人権問題について.....	78
(15) 性的指向の異なる人（同性愛、両性愛など）の人権について.....	82
(16) 性自認の異なる人（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）の人権について...	86
(17) 人権教育・人権啓発の方法について.....	90

Ⅳ 自由意見 100

Ⅴ 参考資料（調査票） 104

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、人権に関する市民の意識・現状を把握し、「第2次瑞浪市人権施策推進指針（計画期間10年：令和3年度～令和12年度）の策定と、今後の人権施策推進に向けた活動の基礎資料とする。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 瑞浪市
- (2) 調査対象 市内在住の20歳以上90歳未満の男女
- (3) 標本数 1,000人
- (4) 抽出方法 年齢層別無作為抽出
- (5) 調査方法 配布：郵送
回収：返信用封筒により郵送回収
- (6) 調査時期 令和元年9月

3 調査内容

- (1) 人権全般について
- (2) 女性の人権について
- (3) 子どもの人権について
- (4) 高齢者の人権について
- (5) 障がい者の人権について
- (6) インターネットによる人権侵害について
- (7) 同和問題について
- (8) アイヌの人々の人権について
- (9) 外国人の人権について
- (10) 犯罪被害者とその家族の人権について
- (11) 感染症患者などの人権について
- (12) 刑を終えて出所した人の人権について
- (13) 災害時の人権問題について
- (14) 性的指向の異なる人（同性愛、両性愛など）の人権について
- (15) 性自認の異なる人（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）の人権について
- (16) 人権教育・人権啓発の方法について

4 回収結果

(1) 発送数	1,000 通	
(2) 返却数	0 通	
(3) 有効発送数	1,000 通	
(4) 回収数 (回収率)	445 通	(44.5%)
白紙回答数	14 通	
(5) 有効回答数 (有効回収率)	431 通	(43.1%)

5 標本誤差

市民意識調査を実施する場合、本来は全市民を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果 (全数調査の結果に近い調査結果) を得ることになります。今回は無作為に抽出した 1,000 人の市民のうち 431 人から回答を得ました。

この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算定し、検証します。

標本誤差 “ δ ” は次の式で算定されます。

$$\delta = \kappa \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

記号の説明

記号	項目	内容
δ	標本誤差	上記による
M	母集団	20 歳以上 90 歳未満の人口数 : 30,525 人 (令和元年 9 月 1 日現在)
n	有効回収数	431 通
κ	信頼度による定数	信頼度 95% の時、1.96
p	結果の比率	50% の時が最も大きな値となる

標本誤差算定結果


結果の比率 p : (1-p)	50% : 50%	40% : 60%	30% : 70%	20% : 80%	10% : 90%
標本誤差 (δ)	4.69%	4.59%	4.30%	3.75%	2.81%

標本誤差の算定結果は、最もバラツキが大きくなる回答比率の 50% : 50% で 4.69% でした。この結果、今回の調査結果は、95% の確率で $50 \pm 4.69\%$ の範囲内 (信頼度 95%) となります。

※統計学的には、標本誤差が 5% 以下であれば精度の高い調査結果であるとされています。標本誤差が 5% ということは、調査結果が母集団の真値に対し、ある信頼度 (今回の信頼度は 95% とした) で $\pm 5\%$ の範囲にあるということです。

信頼度 95% とは、真値が $\pm 5\%$ の範囲にある確率が 95% となることを表しています。

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果の要約

1. 人権全般について（問5～10）

現在関心を持っている人権問題（問6）は、「子どもの人権問題」（85.7%）の割合が最も高く、次いで「災害時の人権問題」（85.6%）、「障がい者の人権問題」（83.3%）、「高齢者の人権問題」（81.2%）、「女性の人権問題」（81.0%）となっています。

これまでに感じたことがある差別（問7）は、「年齢について」（31.3%）の割合が最も高く、次いで「職業について」（24.0%）、「収入・財産について」・「容姿について」（21.9%）となっています。

男性では「職業について」「収入・財産について」「病気・心身障がいについて」の割合が高く、男性に比べ女性では「年齢について」「学歴・出身校について」「性別について」「容姿について」「家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）」の割合が高くなっています。

また、年代が低くなるにつれ「家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）」の割合が高く、20歳代、50歳代で「年齢について」の割合が、20歳代で「学歴・出身校について」「容姿について」の割合が高くなっています。

差別や人権侵害を受けた場合の対応（問9）では、「家族に相談をする」（48.0%）の割合が最も高く、次いで「友人に相談をする」（33.9%）、「相手に抗議をする」（27.1%）となっています。

しかし、20歳代、30歳代で「黙って我慢する」の割合が高くなっており、人権問題が発生した際に、家族や友人などに相談できず、一人で問題を抱えてしまう傾向が強まっていることが伺えます。

2. 女性の人権について（問 6・問 11・問 12）

女性に関する人権問題の関心度について（問 6）は、20 歳代、50 歳代で高い傾向があります。女性の人権を守るために必要なこと（問 12）は、「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」（男性：34.5%、女性：49.4%）、「学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」（男性：27.3%、女性：30.3%）の割合が高くなっており、男女ともに家庭と仕事の両立ができる環境づくりが望まれていることが分かります。

3. 子どもの人権について（問 6・問 13～15）

子どもに関する人権問題の関心度について（問 6）は、30 歳代、50 歳代で高い傾向があります。子どもの人権について問題だと思うこと（問 13）は、「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」（61.7%）の割合が最も高く、次いで「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」（54.3%）、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること」（45.2%）となっています。どの年代においても、いじめや虐待を問題と捉える人の割合が高くなっており、年代に関わらず、関心が高いことが分かります。

子どもの人権を守るために必要なこと（問 14）は、「子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む」（42.0%）の割合が最も高くなっており、個人や家庭だけではなく、社会全体での取り組みが求められていると考えられます。

4. 高齢者の人権について（問 6・問 16・問 17）

高齢者に関する人権問題の関心度について（問 6）は、年代が高くなるにつれ関心が高くなる傾向がみられます。高齢者の人権について問題だと思うこと（問 16）は、「経済的に自立が困難なこと」（40.4%）の割合が最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺の被害が多いこと」（38.3%）、「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」（32.9%）となっており、高齢者の経済問題や就労環境、悪徳商法について関心が高くなっています。

高齢者の人権を守るために必要なこと（問 17）は、「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」（53.8%）の割合が最も高く、次いで「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」（31.6%）、「高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」（31.1%）となっており、高齢者の就労機会をはじめ地域で活躍・交流できる場づくりなど、高齢者が安心して暮らせる環境が求められていることが伺えます。

5. 障がい者の人権について（問 6・問 18・問 19）

障がい者に関する人権問題の関心度について（問 6）は、40 歳代、50 歳代で高くなっています。障がい者の人権について問題だと思うこと（問 18）は、「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」（53.1%）の割合が最も高く、次いで「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」（39.0%）、「生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」（26.5%）となっており、地域社会で、障がいや障がい者への理解や、バリアフリー化など障がい者が生活しやすい環境づくりが必要だと考える人が多くなっています。

障がい者の人権を守るために必要なこと（問 19）は、「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」（37.8%）の割合が最も高く、次いで「障がい者の就労機会を確保する」（35.7%）「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」（34.1%）となっており、障がい者が就労・社会参加できる地域づくり、暮らしやすい環境づくりが求められていると考えられます。

6. インターネットによる人権侵害について（問 6・問 20・問 21）

インターネットによる人権侵害についての関心度について（問 6）は、70 歳以上で低くなっています。インターネットによる人権侵害について問題だと思うこと（問 20）は、「他人への誹謗中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」（52.9%）の割合が最も高く、次いで「個人情報などが流出していること」（33.6%）、「インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること」（24.8%）となっており、インターネット上での差別的表現の使用や、インターネットが犯罪の温床となっていることに対して、問題と考える人が多くなっています。

インターネットによる人権侵害を解決するために必要なこと（問 21）は、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」（44.8%）の割合が最も高く、次いで「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」（25.8%）、「学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる」（20.0%）となっており、インターネットの利用が増加する中で、被害を受けないように、教育や取り締まりといった対応が求められています。

7. 同和について（問 6・問 22～24）

同和問題に対する関心度について（問 6）は、20 歳代、30 歳代の若い世代で低くなっています。同和問題について（問 22）は、「わからない」（42.7%）の割合が最も高く、次いで「問題の解決のために努力したい」、「特に関心はない」（14.8%）となっています。「問題の解決のために努力したい」の割合は平成 23 年度調査から減少しており、「特に関心はない」の割合は平成 23 年度調査から増加していることから、同和問題に対する意識が薄れてきていることが推察されます。

8. アイヌの人々・外国人などの人権について (問 6・問 25～30・問 33～36)

アイヌの人々・外国人などの人権問題についての関心度(問 6)は、アイヌの人々の人権問題(35.9%)、外国人の人権問題(53.3%)、感染症患者などの人権問題(62.4%)、刑を終えて出所した人の人権問題(49.8%)、犯罪被害者とその家族の人権問題(71.0%)、ホームレスの人権問題(41.8%)、性的指向を理由とする人権問題(45.7%)、性自認を理由とする人権問題(47.1%)、北朝鮮による拉致問題(69.8%)、人身取引に関する人権問題(61.3%)、となっています。

それぞれの人権について問題だと思うことは、アイヌの人々の人権問題(問 25)では「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」(42.9%)の割合が高く、外国人の人権問題(問 26)では「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」(41.8%)の割合が高くなっています。また、感染症患者などの人権問題(問 29)では「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」(61.7%)の割合が高く、刑を終えて出所した人の人権問題(問 30)では「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」(49.9%)の割合が高くなっています。犯罪被害者とその家族の人権問題(問 27)では「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること」(46.4%)の割合が高く、性的指向を理由とする人権問題(問 33)では「世間から好奇又は偏見の目で見られること」(41.5%)の割合が、性自認を理由とする人権問題(問 35)では「性自認の異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は偏見の目で見られること」(42.9%)の割合が高くなっています。

9. 災害時の人権について(問 6・問 31・問 32)

災害時の人権問題についての関心度(問 6)は、年代が低くなるにつれ、“関心がある”の割合が高くなっています。大規模災害により被災した人の人権について、問題だと思うこと(問 31)は、「被災者が居住の自由を奪われていること」(49.9%)の割合が最も高く、次いで「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」(32.5%)、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(23.9%)となっています。平成 26 年度調査から「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合が増加し、「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が減少していることから、嫌がらせやいじめを受けることへの問題意識が高まってきていることが分かります。

大規模災害時に起きると予想される人権問題(問 32)としては、「避難生活でプライバシーが守られないこと」(42.9%)の割合が最も高く、次いで「要支援者(障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等)に対して十分な配慮が行き届かないこと」(37.4%)、「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じること」(31.1%)となっています。

10. 人権教育・人権啓発の方法について（問 37～41）

人権に関する取り組みについての認知度（問 37）は、「広報みずなみへの啓発記事（ちょっといい話・人権書道展・人権週間など）」（48.0%）の割合が最も高くなっていますが、次いで「知っているものはない」（29.0%）の割合が高く、今後も広く周知していくことが必要です。

人権教育・啓発を推進するための方法について（問 38）は、「学校、職場、地域単位の学習会」（41.5%）の割合が最も高く、次いで「学校教育の充実」（37.4%）、「広報やホームページなどでの啓発」（27.6%）となっており、学校や行政による人権教育や啓発だけではなく、あらゆる場での取り組みも求められています。

学校における人権教育について重要なこと（問 39）は、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」（64.5%）の割合が最も高く、次いで「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」（59.4%）、「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」（55.5%）となっています。

人権に関する企業の取り組みとして重要なこと（問 40）は、「差別のない公正な採用をすること」（58.5%）の割合が最も高く、次いで「安全で働きやすい環境を確保すること」（52.0%）、「男女間で公平な待遇をすること」（41.5%）となっています。

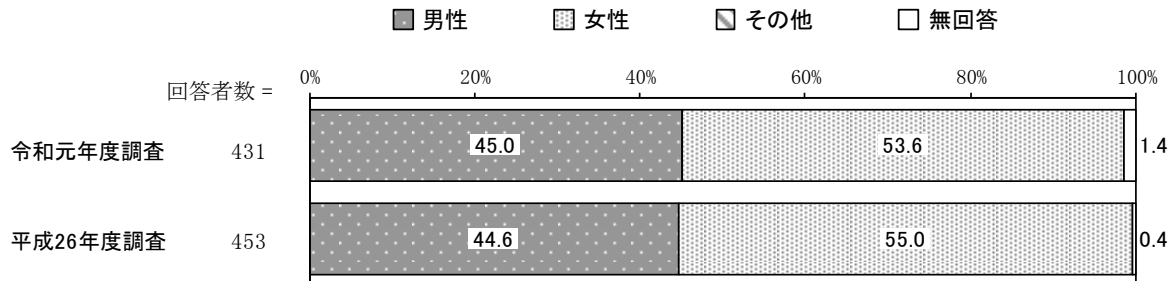
市民一人ひとりが、人権を尊重しあうために心がけ、行動すべきこと（問 41）は、「他人に対する思いやりややさしさを育むこと」（70.8%）の割合が最も高く、次いで「人権に関する正しい知識を身につけること」（58.2%）、「自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること」（54.8%）となっており、人権について正しい理解を深めるとともに、相手のことを思いやった行動をすべきと考える人が多いことが分かります。

Ⅲ 調査結果

(1) 回答者属性

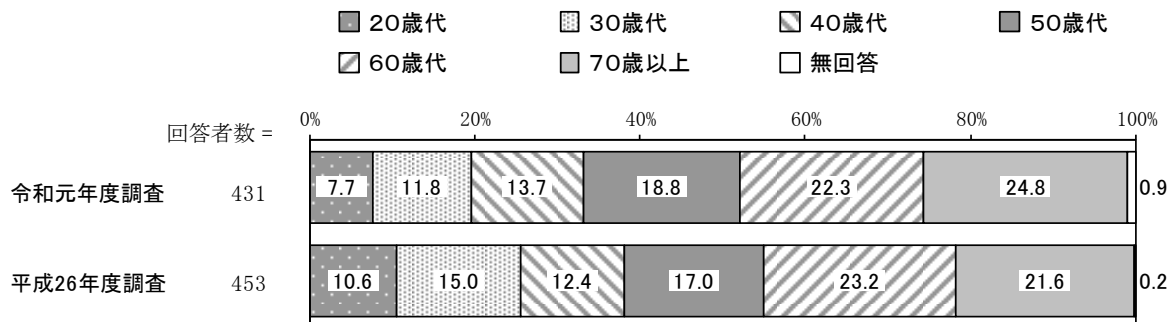
問1 あなたの性別を教えてください。《○は1つだけ》

「男性」の割合が45.0%、「女性」の割合が53.6%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問2 あなたの年齢を教えてください。《○は1つだけ》

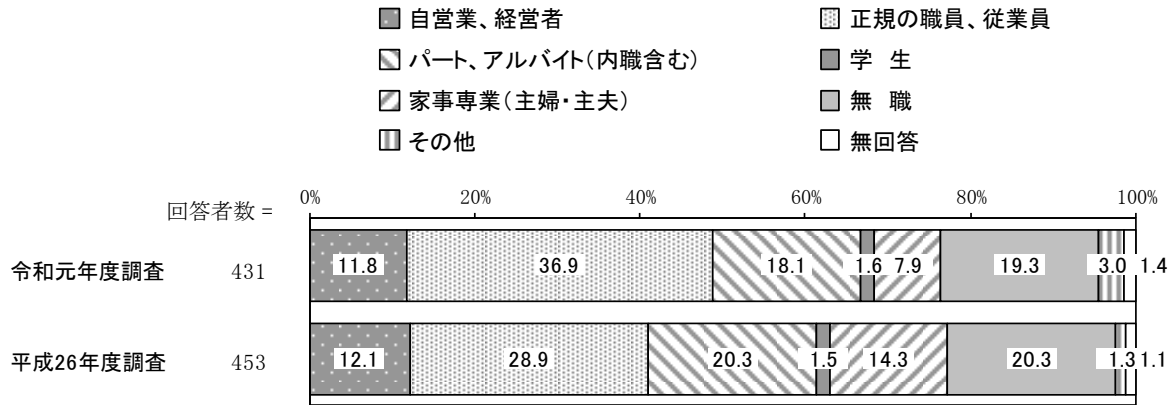
「70歳以上」の割合が24.8%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が22.3%、「50歳代」の割合が18.8%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問3 あなたの職業を教えてください。《○は1つだけ》

「正規の職員、従業員」の割合が36.9%と最も高く、次いで「無職」の割合が19.3%、「パート、アルバイト（内職含む）」の割合が18.1%となっています。

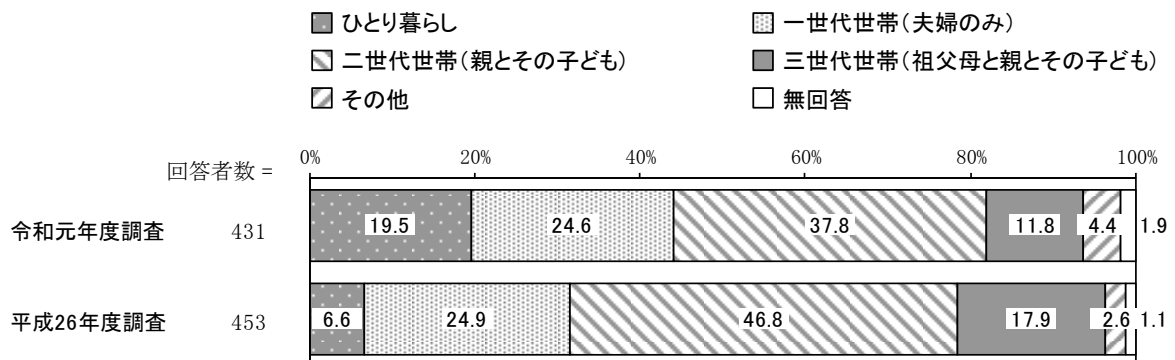
平成26年度調査と比較すると、「正規の職員、従業員」の割合が増加し、「家事専業（主婦・主夫）」の割合が減少しています。



問4 あなたの家族構成を教えてください。《○は1つだけ》

「二世世代世帯（親とその子ども）」の割合が37.8%と最も高く、次いで「一世代世帯（夫婦のみ）」の割合が24.6%、「ひとり暮らし」の割合が19.5%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「ひとり暮らし」の割合が増加し、「二世世代世帯（親とその子ども）」「三世世代世帯（祖父母と親とその子ども）」の割合が減少しています。

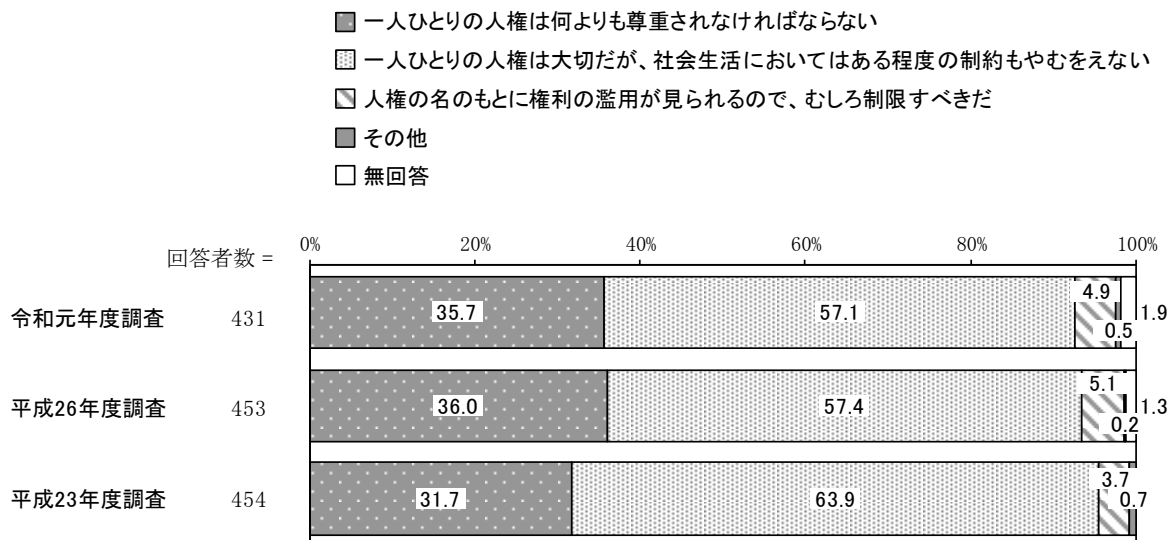


(2) 人権全般について

問5 あなたの人権に対する考えに最も近いものはどれですか。《○は1つだけ》

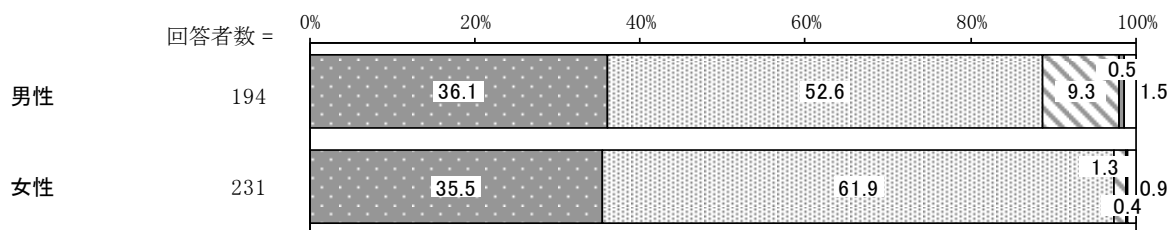
「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が57.1%と最も高く、次いで「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が35.7%となっています。

過去の調査と比較すると、「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が減少傾向にあります。



【性別】

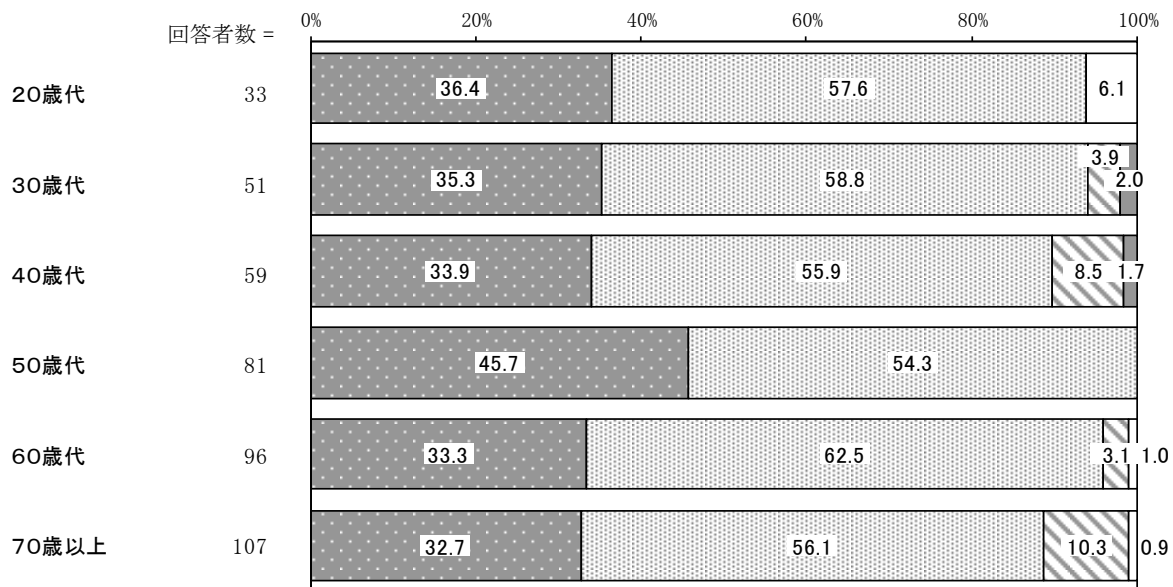
性別でみると、女性に比べ、男性で「人権の名のもとに権利の濫用が見られるので、むしろ制限すべきだ」の割合が高くなっています。また、女性で「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が高くなっています。



【年代別】

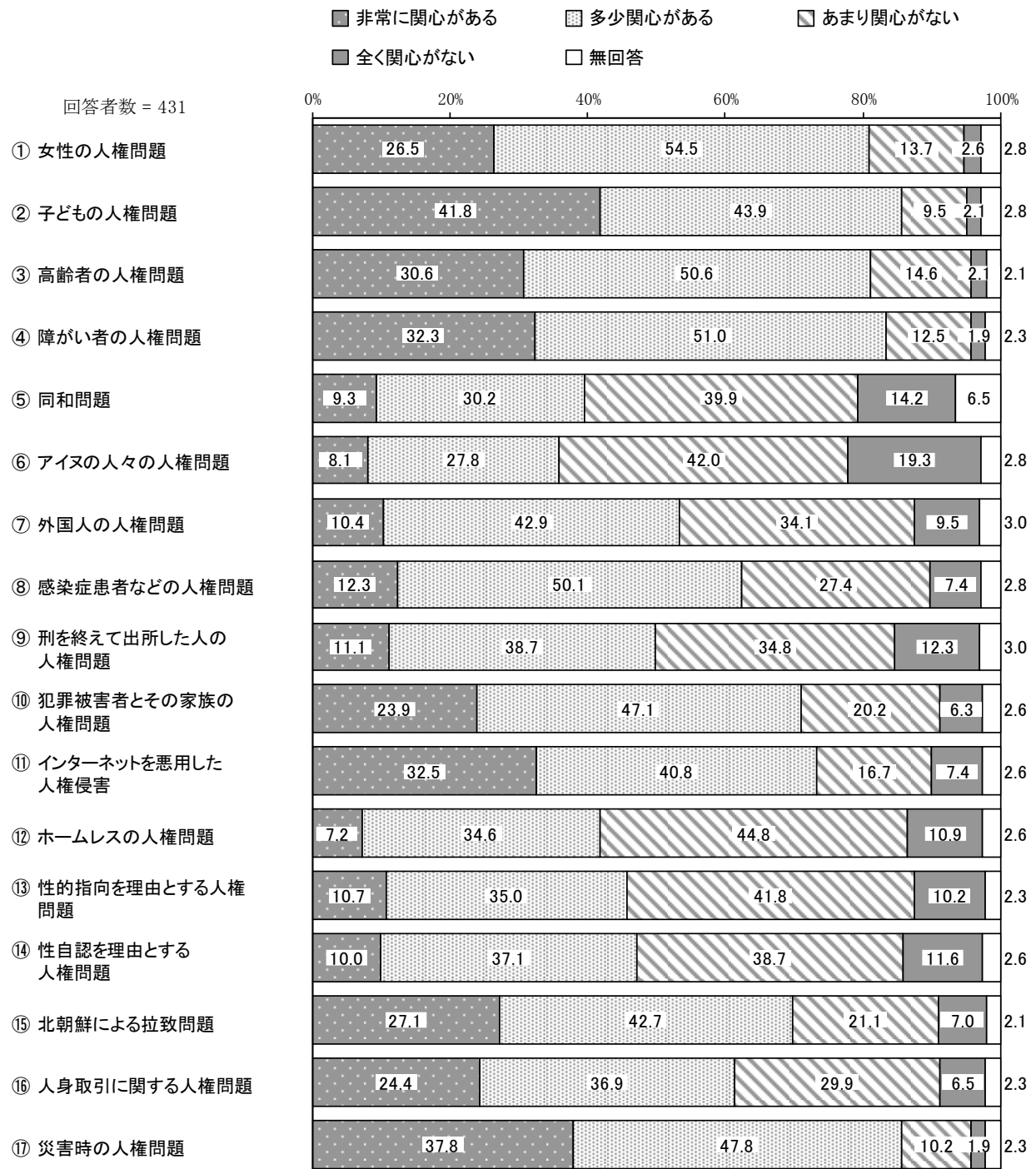
年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「人権の名のもとに権利の濫用が見られるので、むしろ制限すべきだ」の割合が高くなっています。

- 一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない
- ▨ 一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない
- ▧ 人権の名のもとに権利の濫用が見られるので、むしろ制限すべきだ
- その他
- 無回答



問6 あなたは、次の人権問題に、どの程度関心を持っていますか。次にあげる①～⑱のすべてにお答えください。《各項目の「1 2 3 4」のうち1つに○》

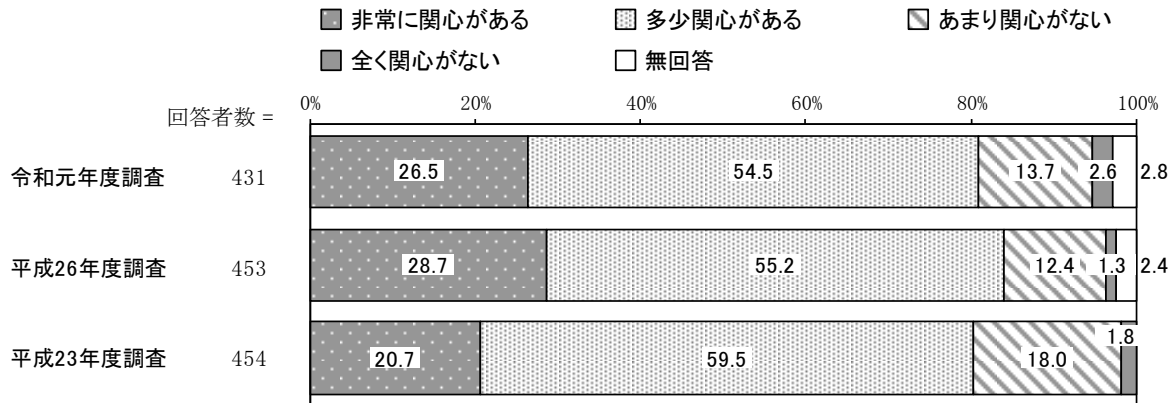
②子どもの人権問題、⑱災害時の人権問題で「非常に関心がある」と「多少関心がある」をあわせた“関心がある”の割合が高く、8割台半ばとなっています。一方、⑥アイヌの人々の人権問題で「あまり関心がない」と「全く関心がない」をあわせた“関心がない”の割合が高く、約6割となっています。



① 女性の人権問題

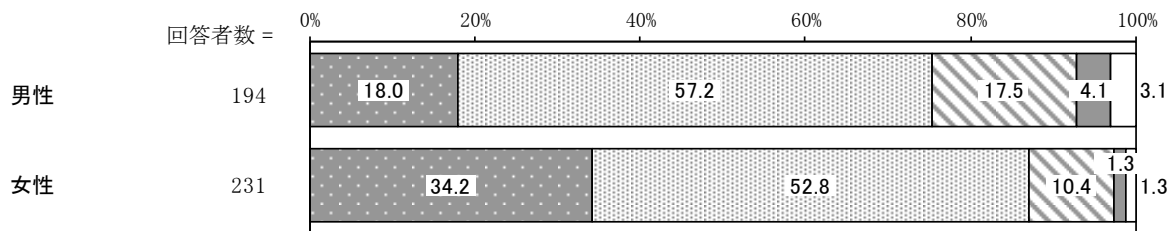
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から「非常に興味がある」の割合が増加傾向にあります。



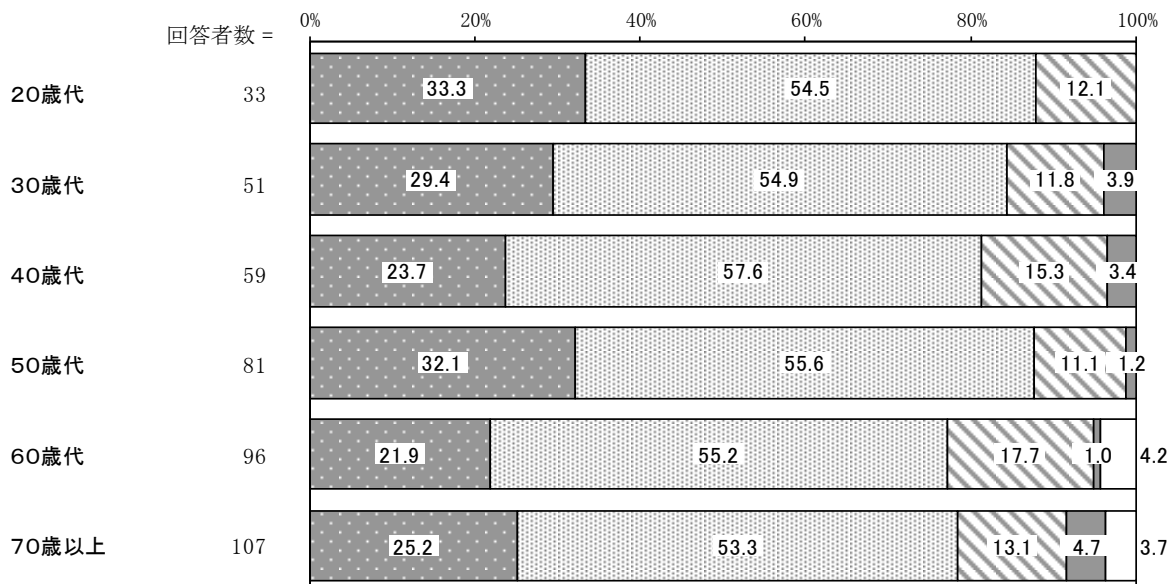
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“興味がある”の割合が高くなっています。



【年代別】

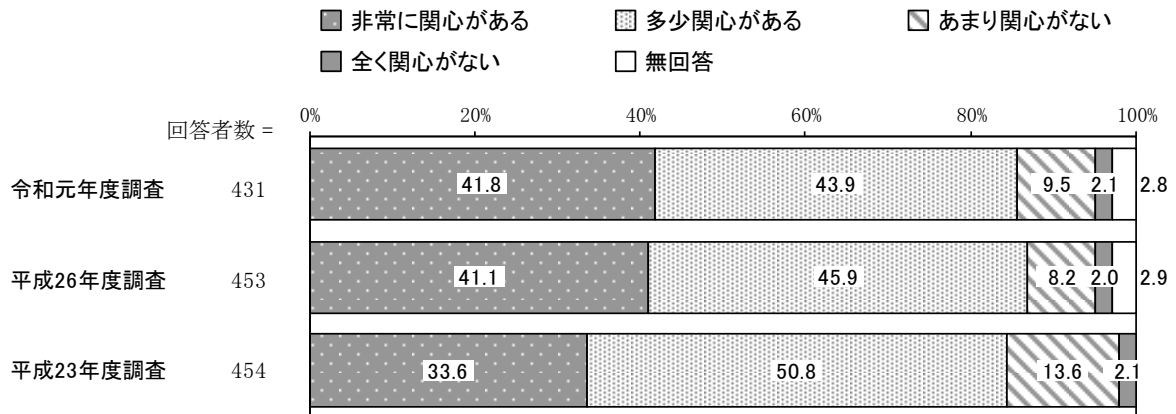
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、50歳代で“興味がある”の割合が高くなっています。



② 子どもの人権問題

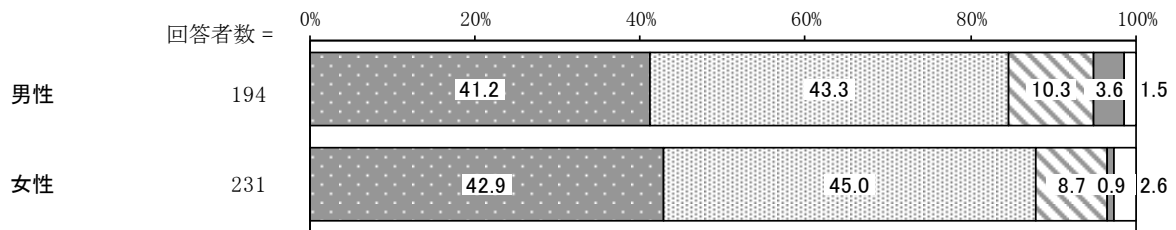
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、「非常に関心がある」の割合が増加しています。



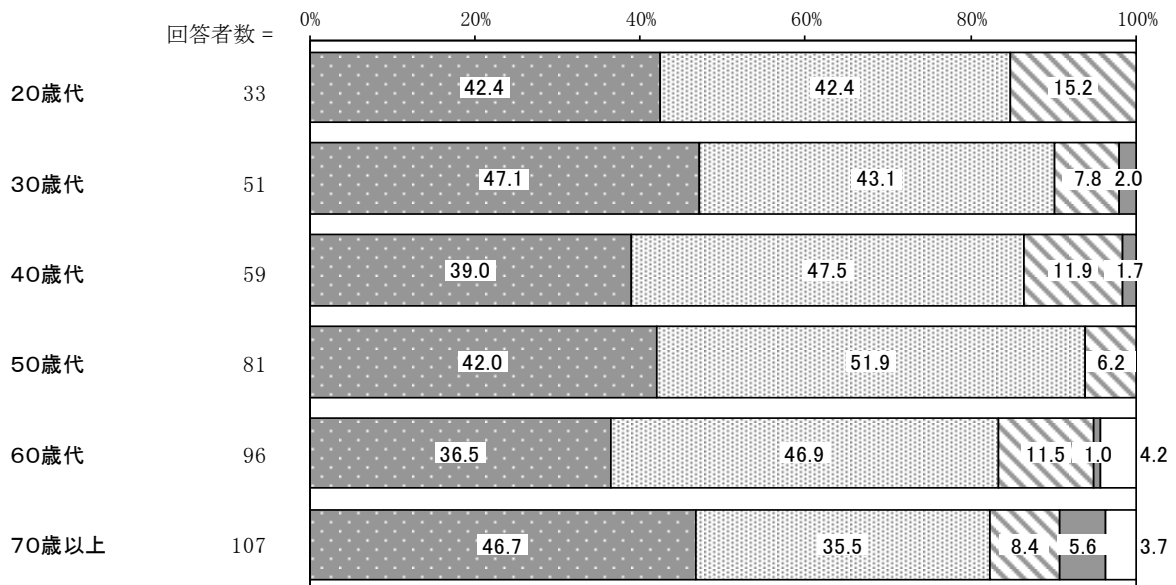
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

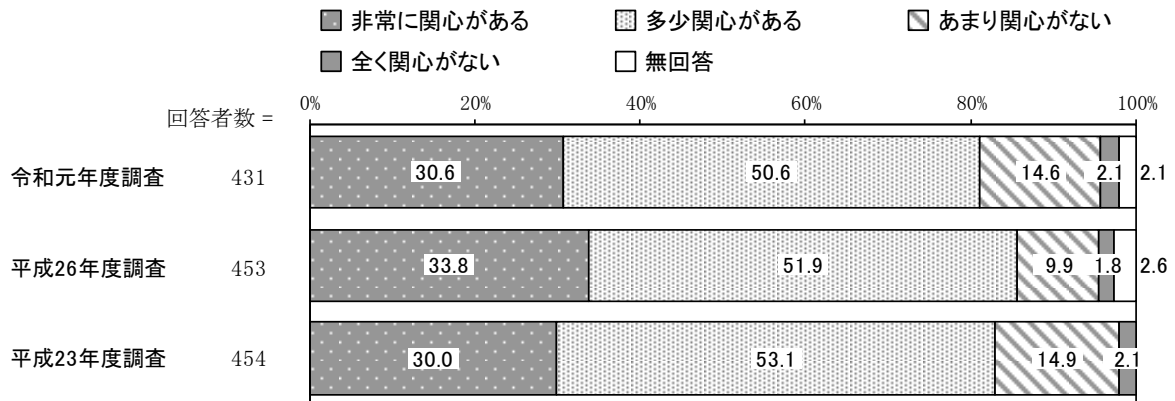
年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代、50歳代で“関心がある”の割合が高くなっています。



③ 高齢者の人権問題

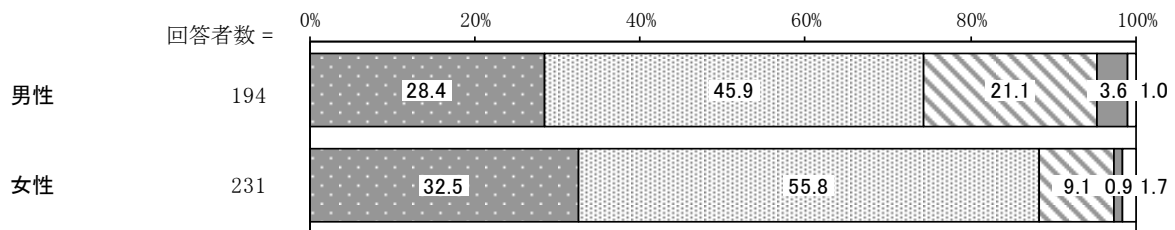
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成26年調査より“関心がない”の割合が増加しています。



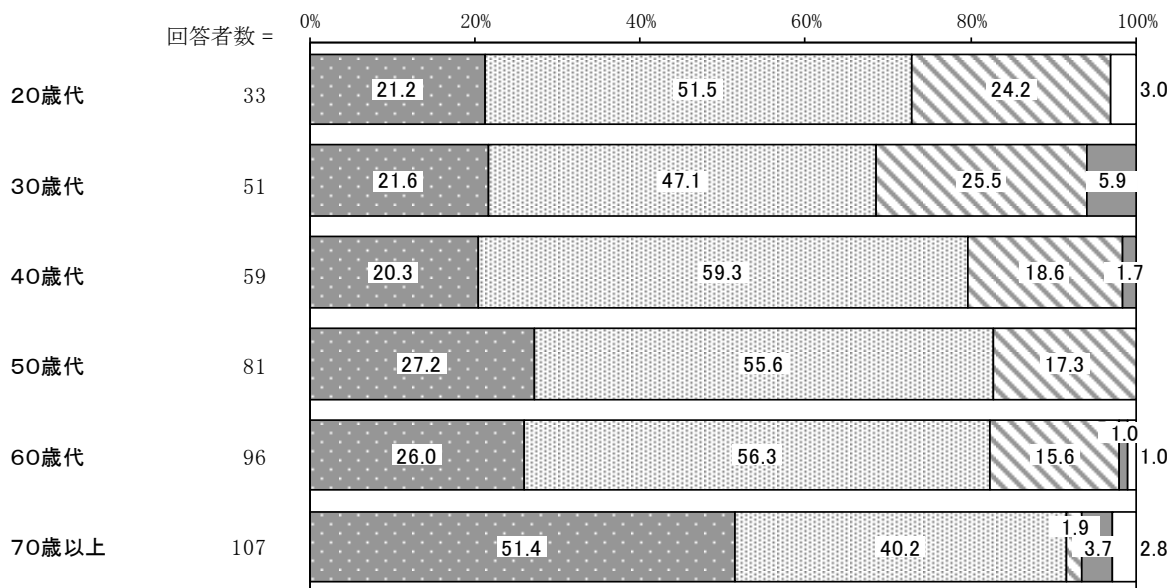
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。



【年代別】

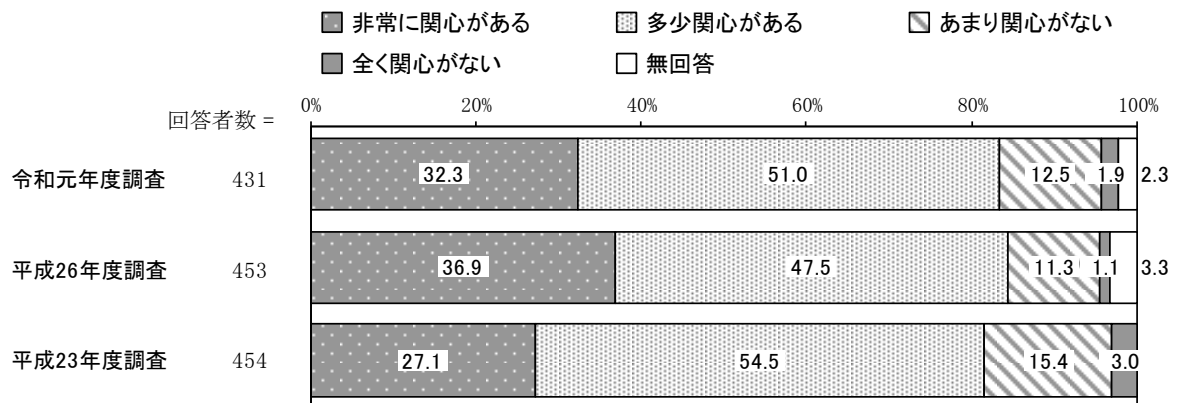
年代別でみると、年代が高くなるにつれ“関心がある”の割合が高くなる傾向がみられます。



④ 障がい者の人権問題

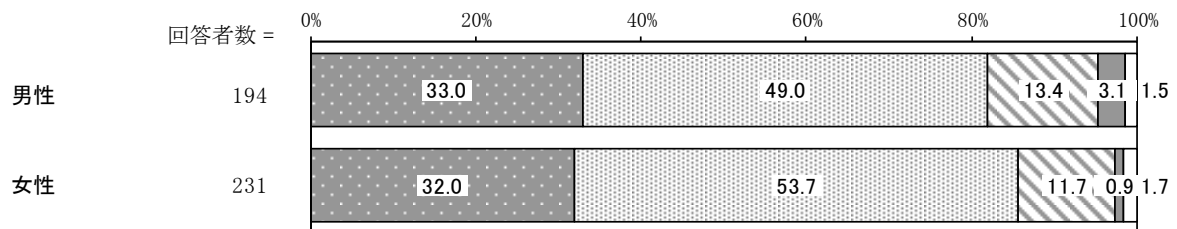
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度から“関心がある”の割合に大きな変化はみられません。



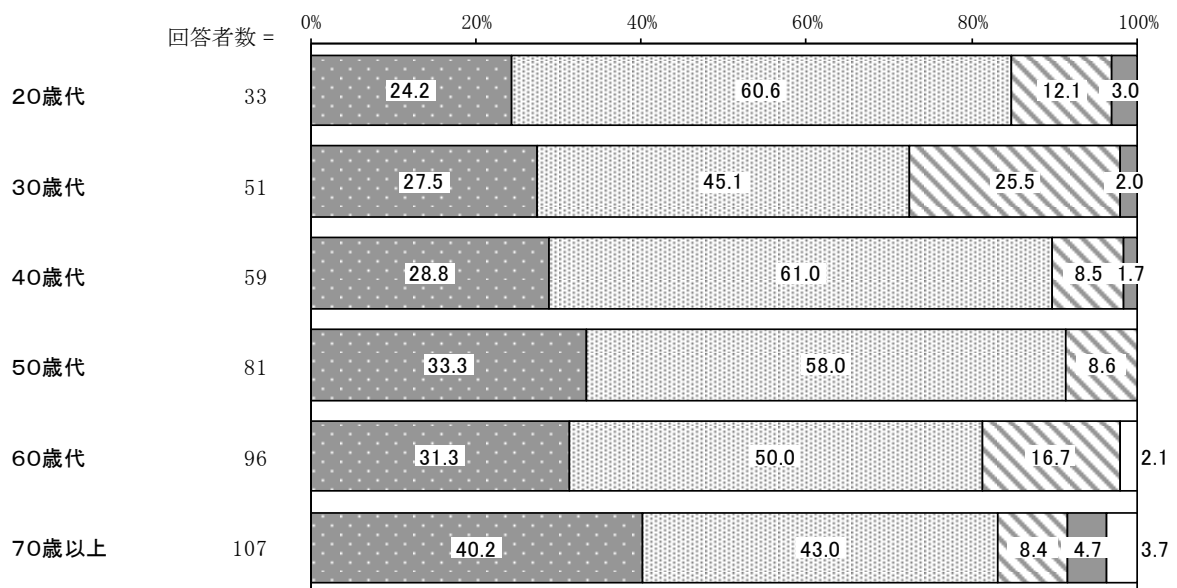
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

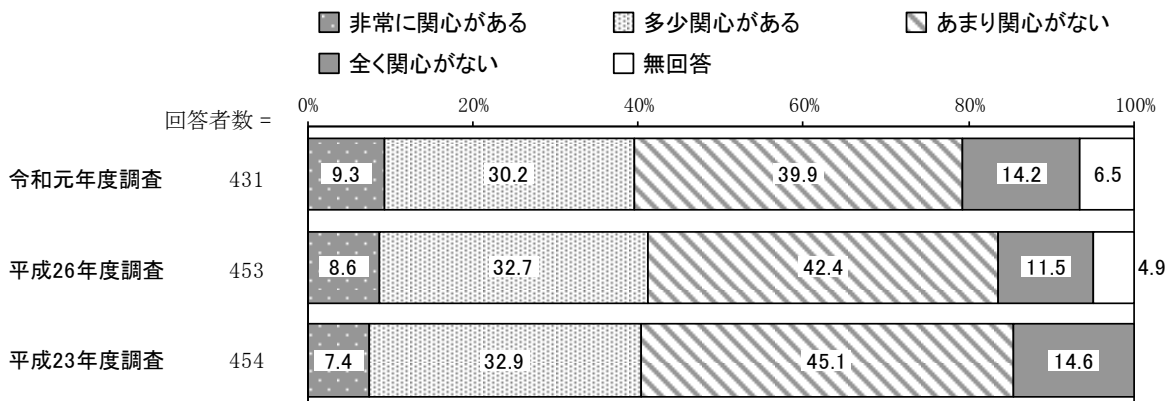
年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代、50歳代で“関心がある”の割合が高くなっています。



⑤ 同和問題

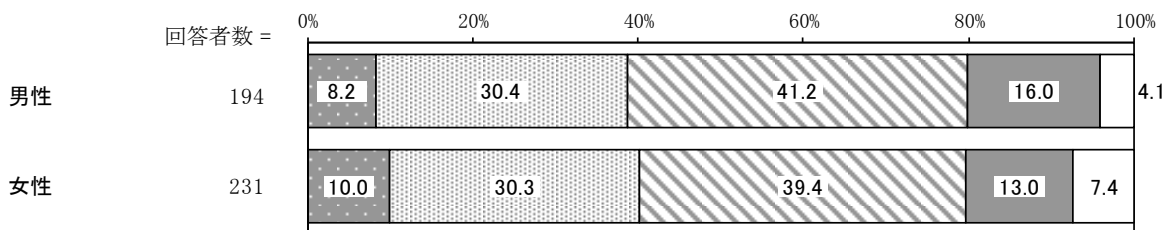
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度より“関心がある”の割合に大きな変化はみられません。



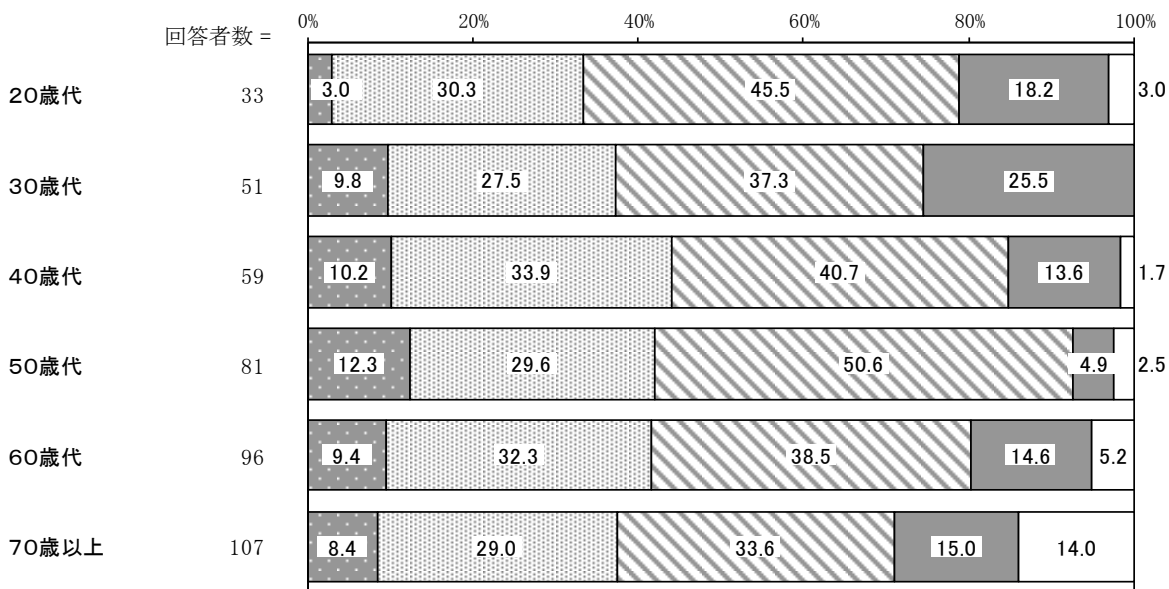
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

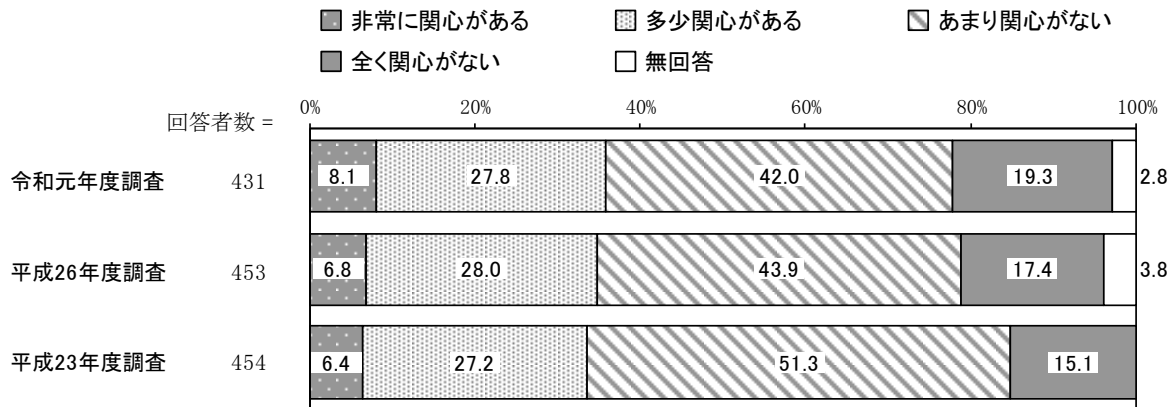
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、30歳代で“関心がない”の割合が高くなっています。



⑥ アイヌの人々の人権問題

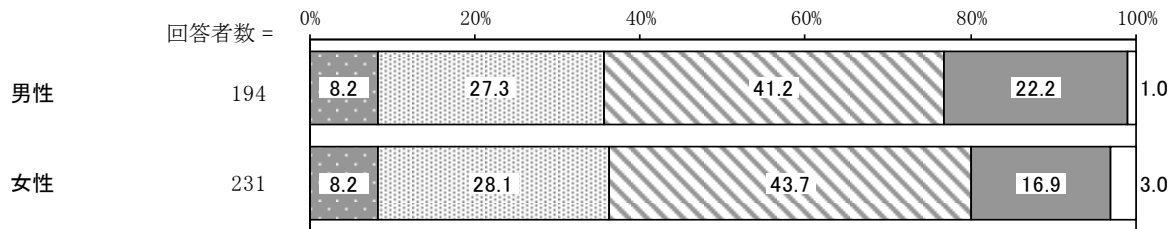
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度より“関心がある”の割合に大きな変化はありません。



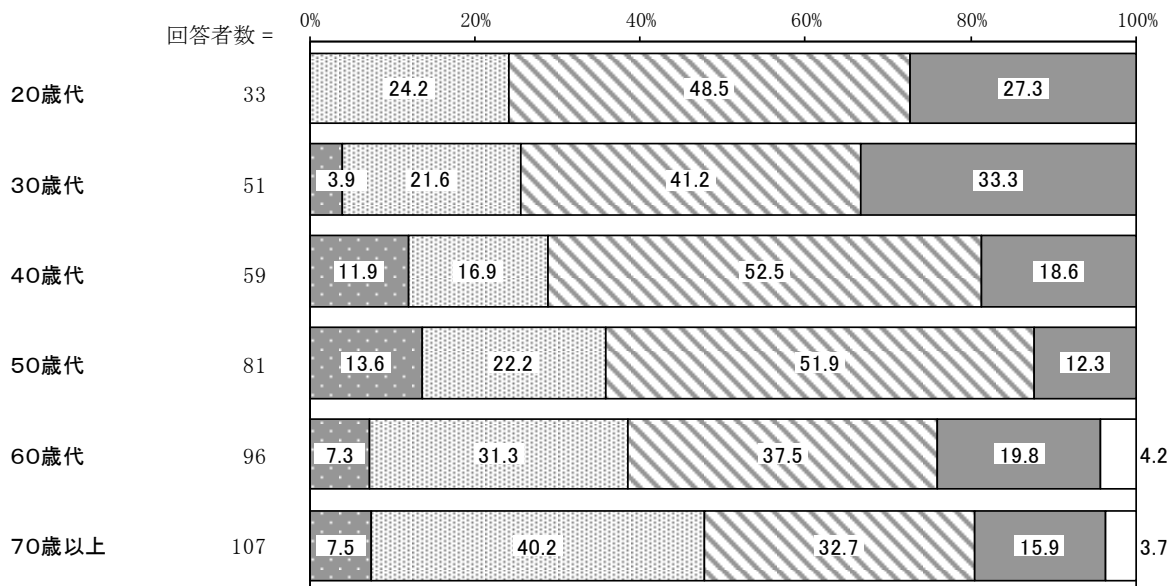
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「全く興味がない」の割合が高くなっています。



【年代別】

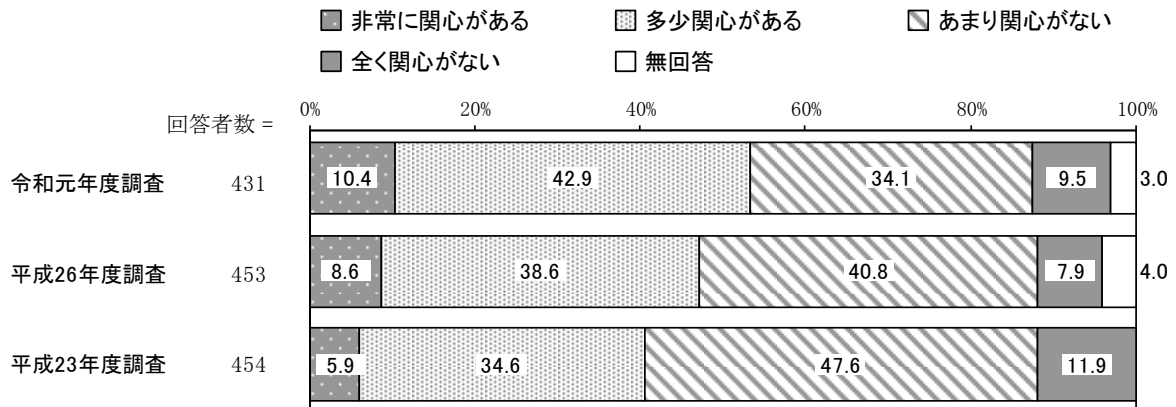
年代別でみると、年代が低くなるにつれ“関心がない”の割合が高くなっています。



⑦ 外国人の人権問題

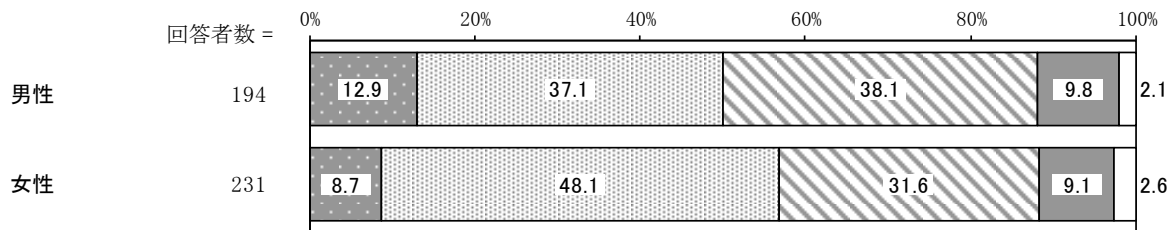
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から“関心がある”の割合は増加しています。



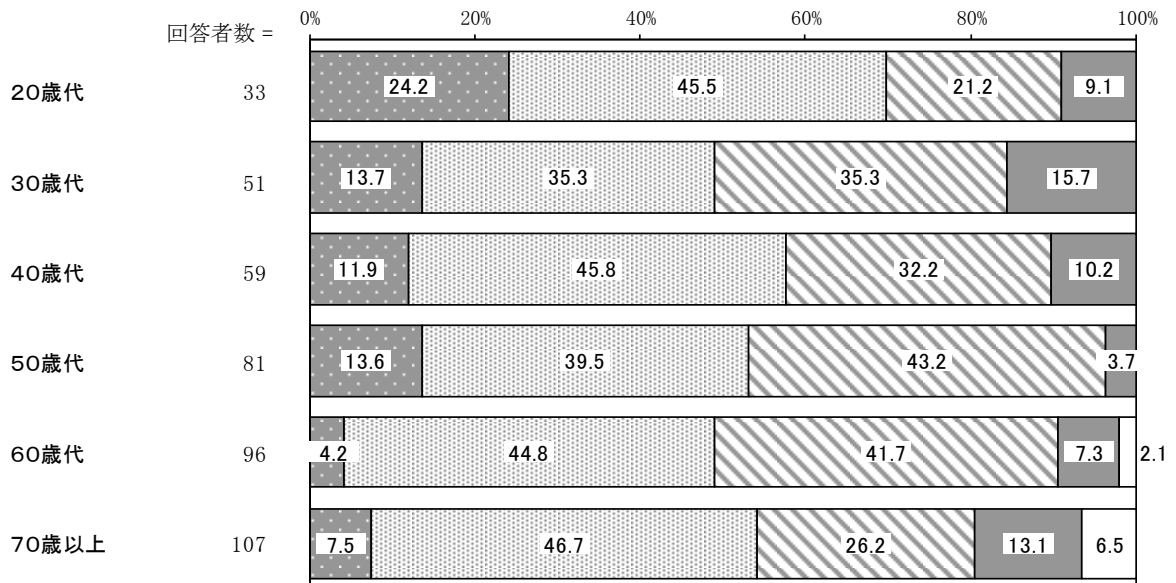
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。



【年代別】

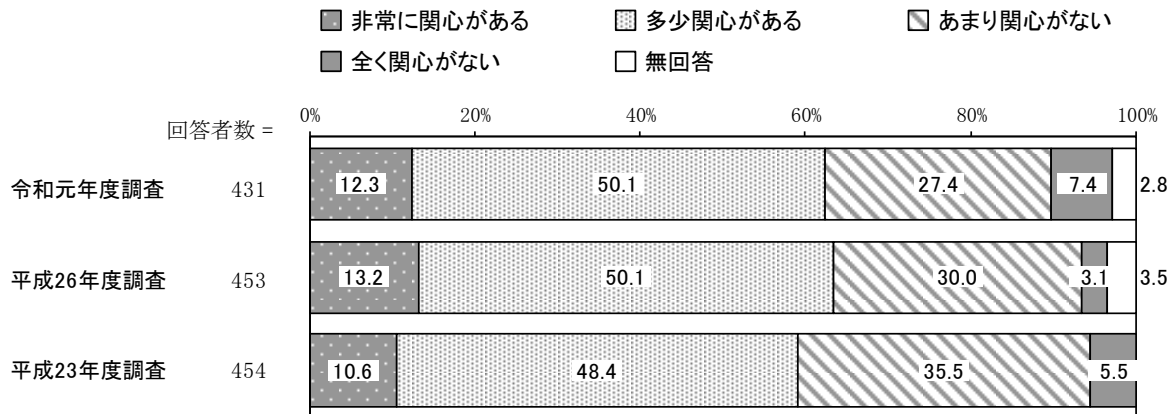
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で“関心がある”の割合が高くなっています。



⑧ 感染症患者などの人権問題

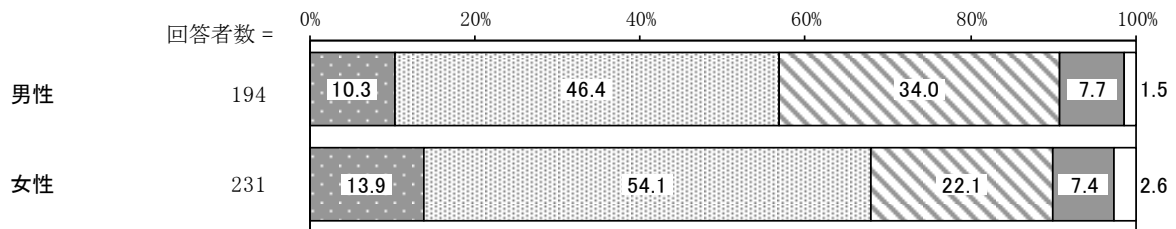
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から“関心がない”の割合は減少傾向にあります。



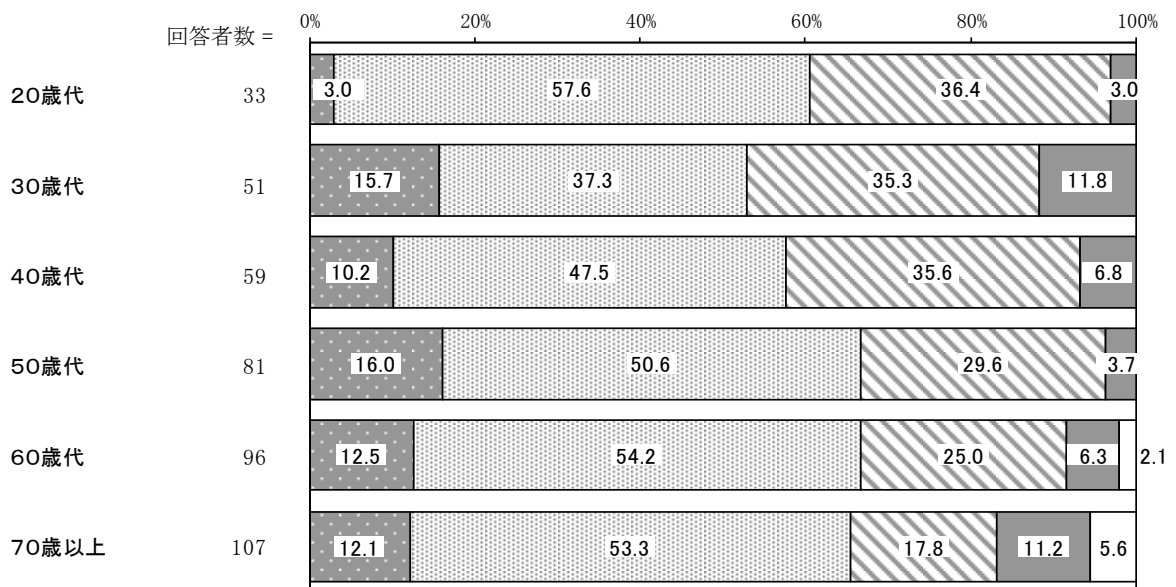
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。



【年代別】

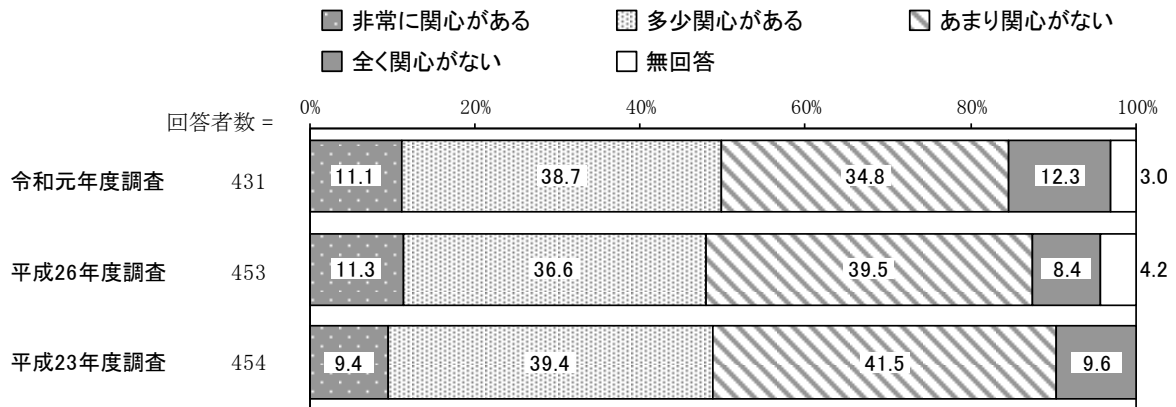
年代別でみると、40歳代以下に比べ、50歳代以上で“関心がある”の割合が高くなっています。



⑨ 刑を終えて出所した人の人権問題

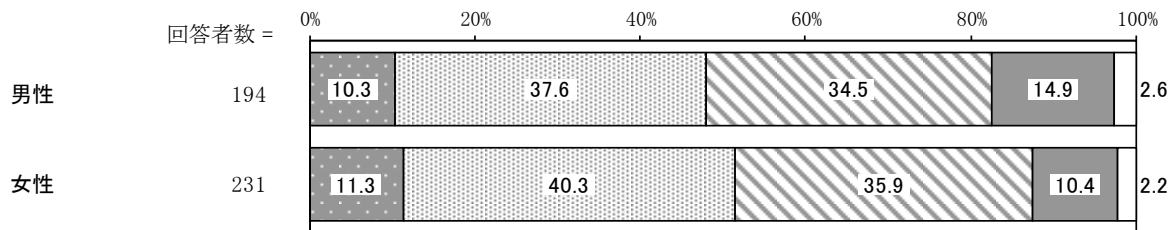
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から大きな変化はみられません。



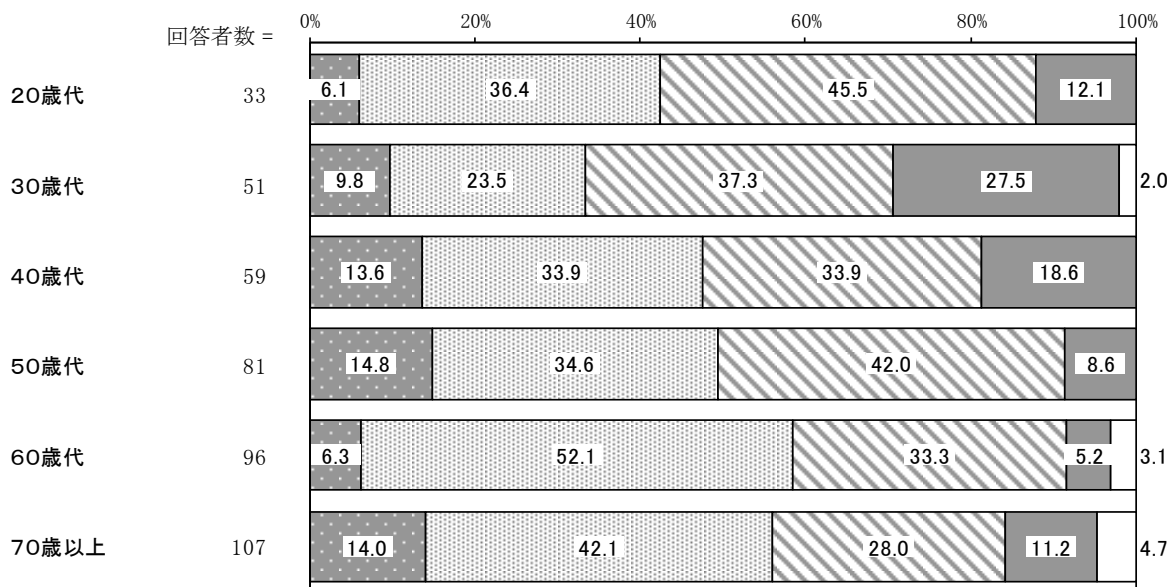
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

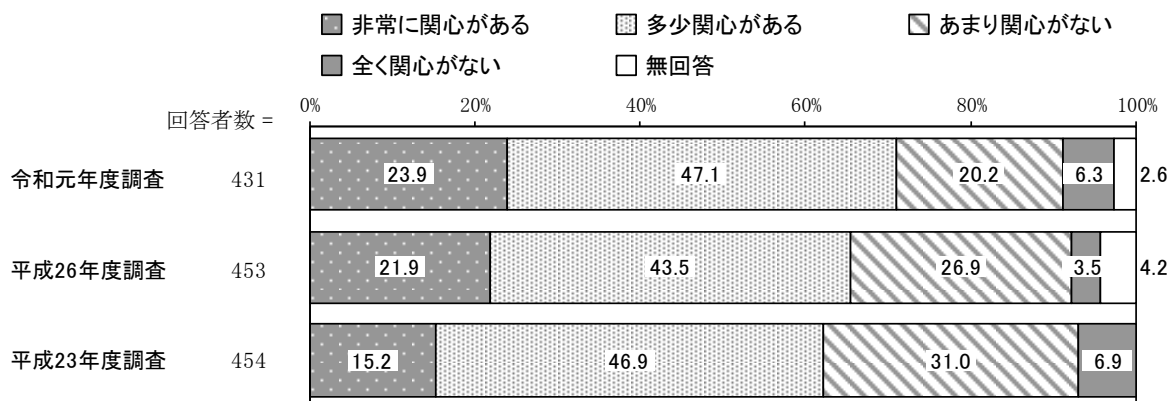
年代別でみると、50歳代以下に比べ、60歳代以上で“興味がある”の割合が高くなっています。



⑩ 犯罪被害者とその家族の人権問題

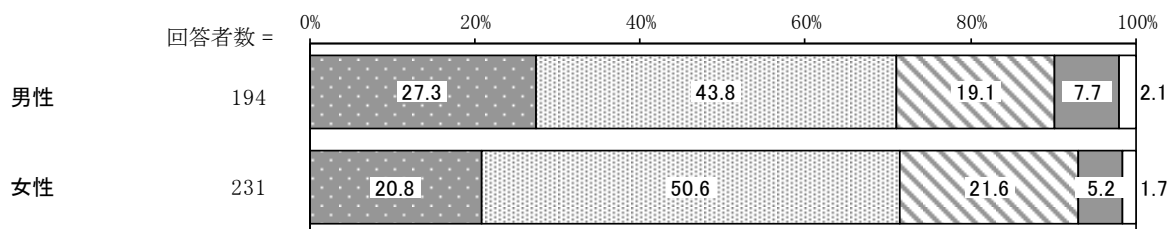
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から“関心がある”の割合は増加しています。



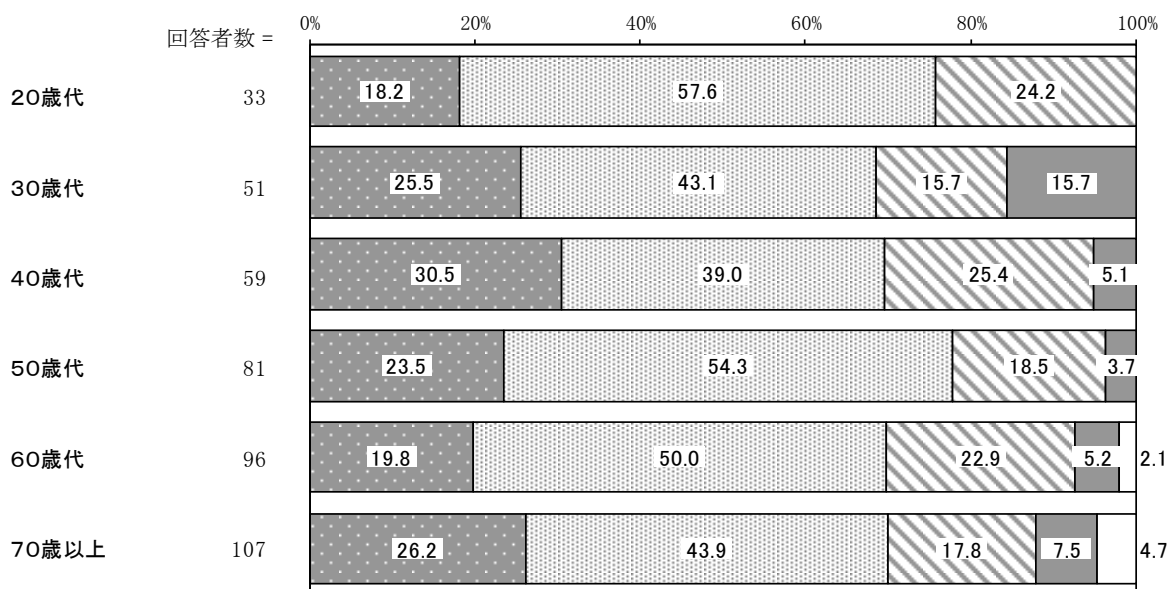
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「非常に興味がある」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「多少興味がある」の割合が高くなっています。



【年代別】

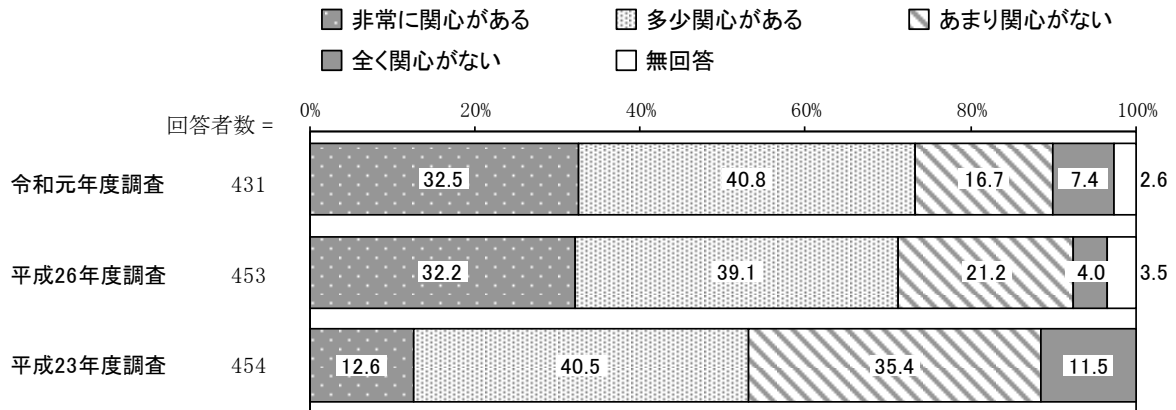
年代別でみると、他に比べ、20歳代、50歳代で“関心がある”の割合が高くなっています。



⑪ インターネットを悪用した人権侵害

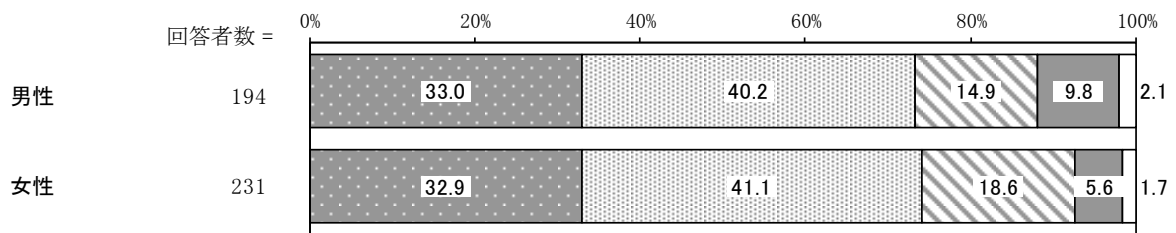
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から“関心がある”の割合は増加しています。



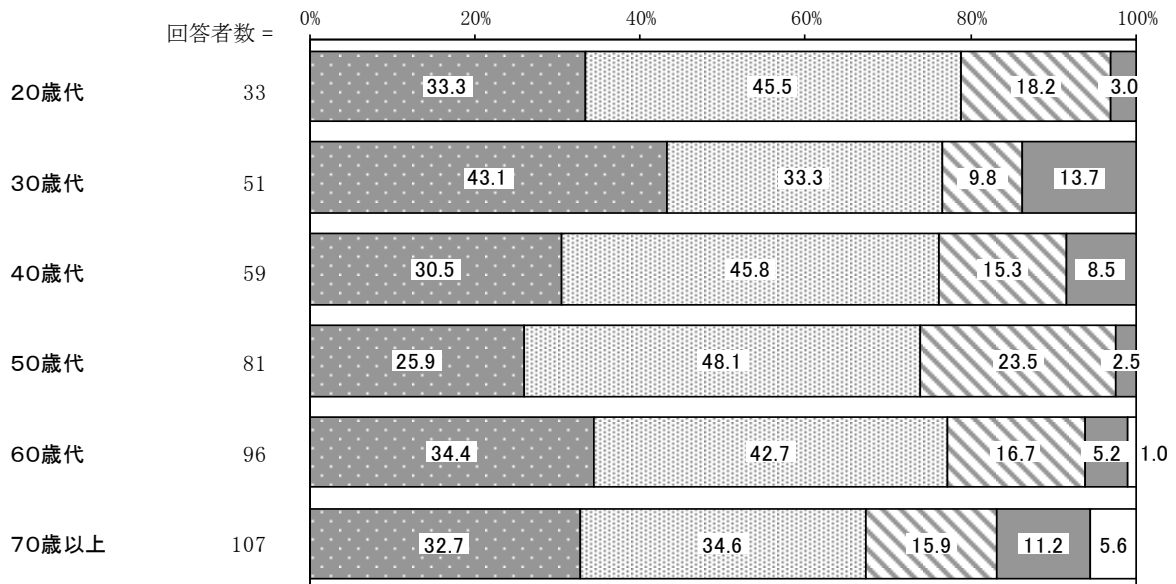
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

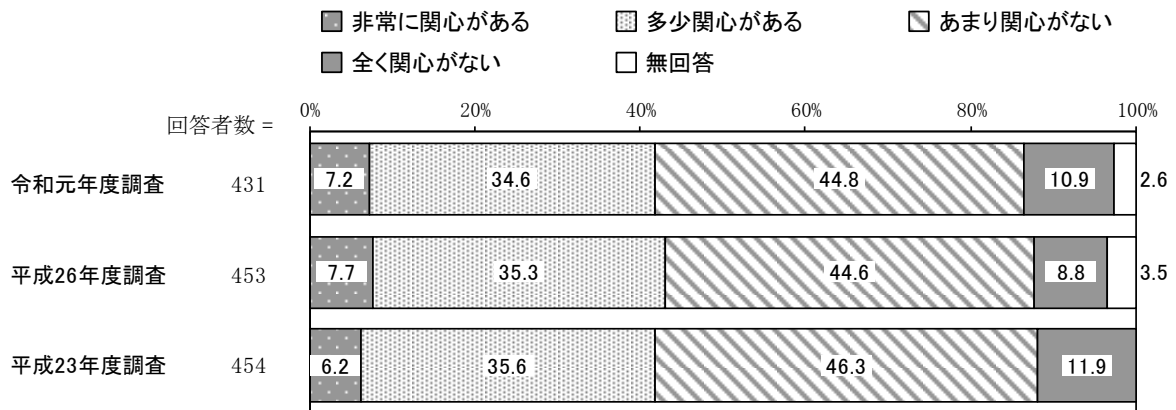
年代別でみると、他の年代に比べ、70歳以上で“関心がある”の割合が低くなっています。



⑫ ホームレスの人権問題

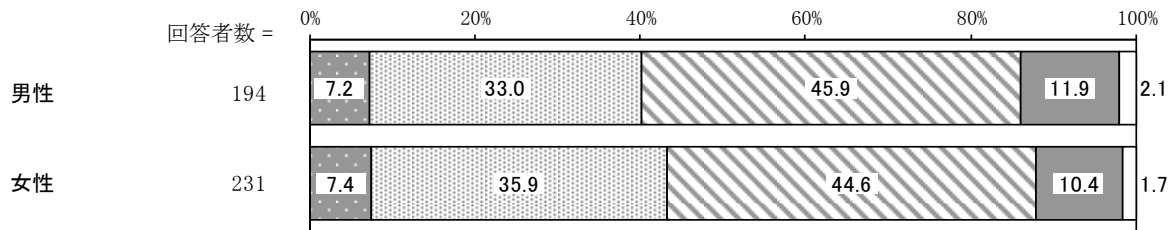
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から大きな変化はみられません。



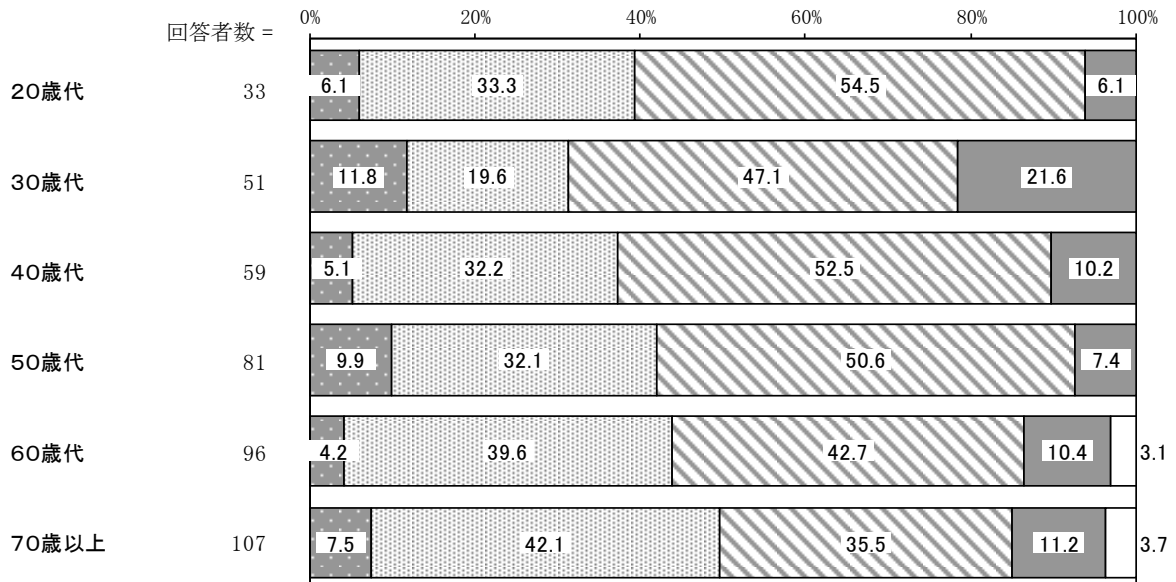
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

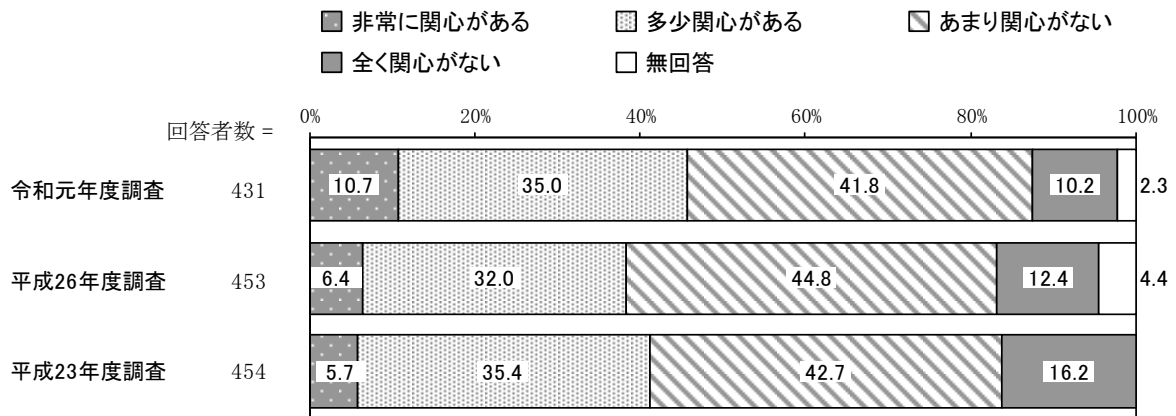
年代別でみると、年代が低くなるにつれ“関心がない”の割合が高くなる傾向がみられます。



⑬ 性的指向を理由とする人権問題

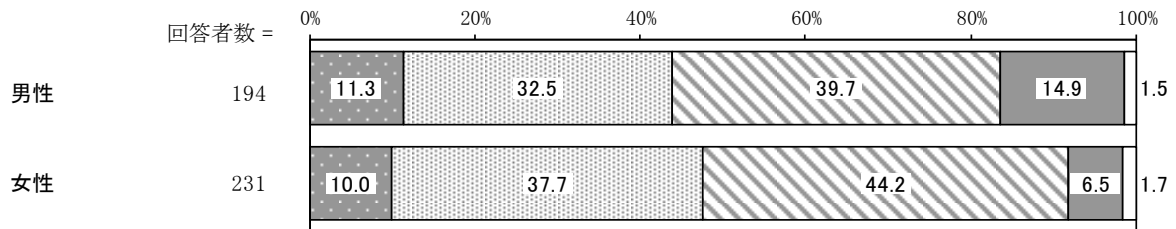
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「関心がない」の割合は減少しています。



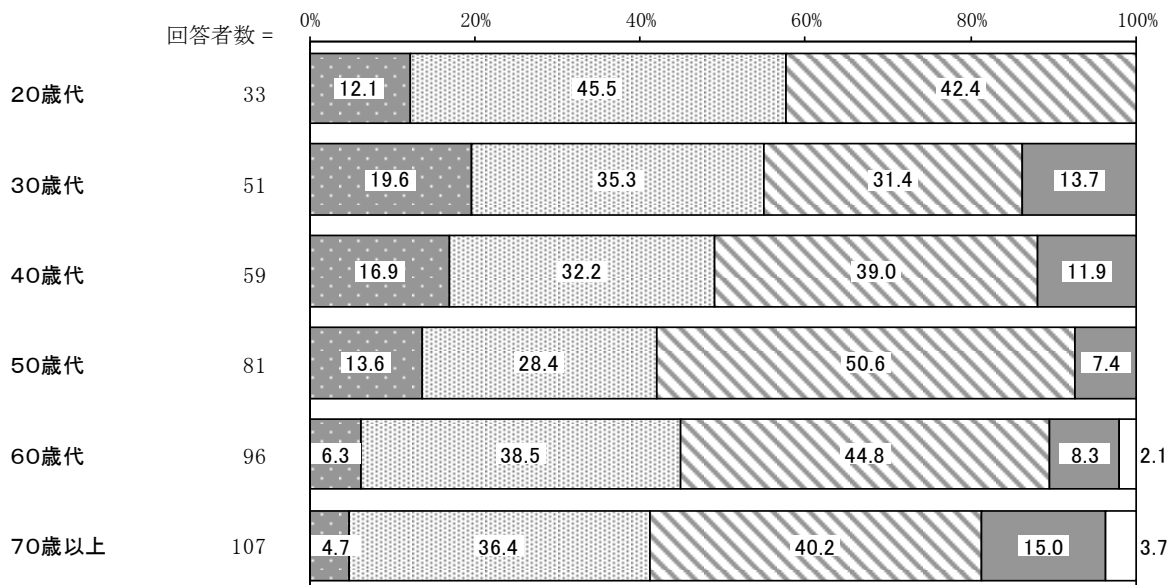
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「全く関心がない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「多少関心がある」の割合が高くなっています。



【年代別】

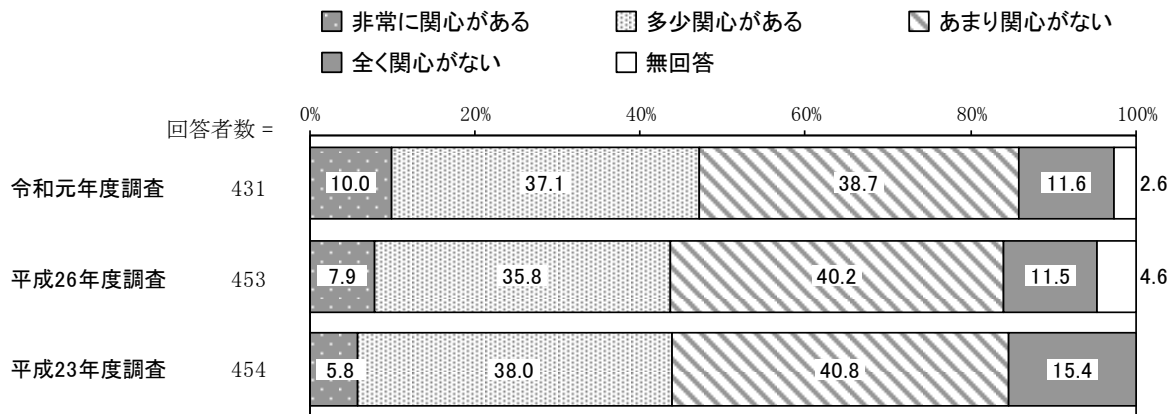
年代別でみると、年代が低くなるにつれ「関心がある」の割合が高くなる傾向がみられます。



⑭ 性自認を理由とする人権問題

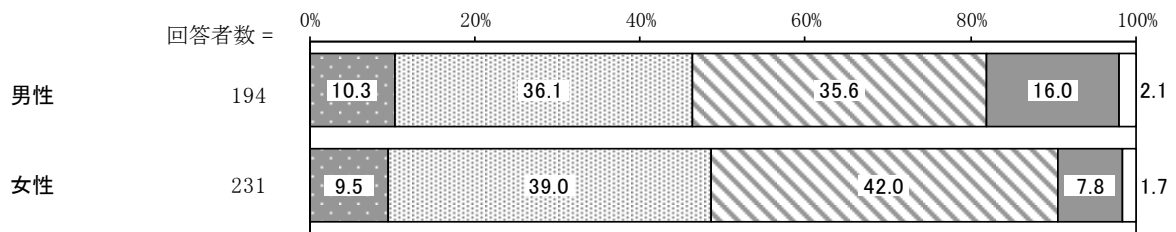
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「関心がない」の割合が減少しています。



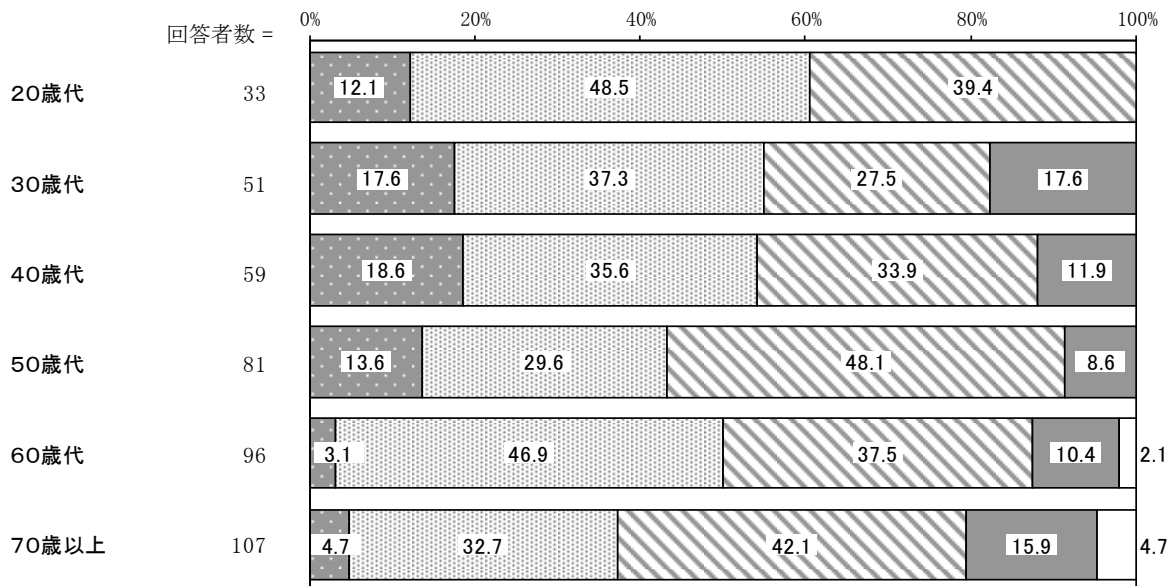
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「全く関心がない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「あまり関心がない」の割合が高くなっています。



【年代別】

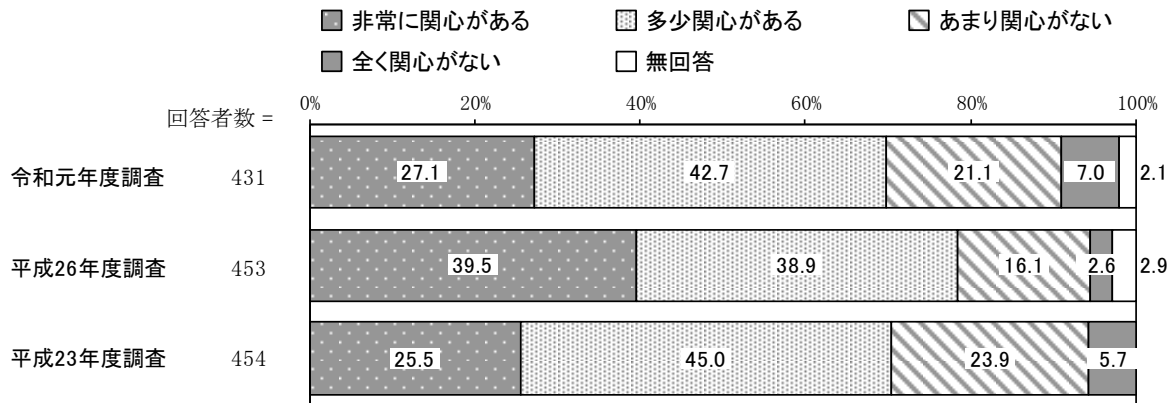
年代別でみると、年代が低くなるにつれ「関心がある」の割合が高くなる傾向がみられます。



⑮ 北朝鮮による拉致問題

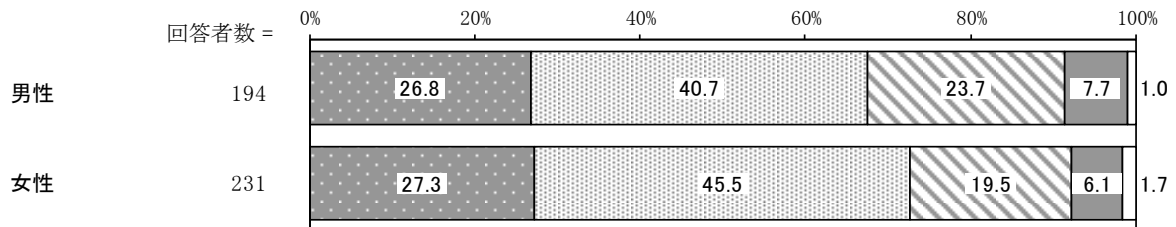
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成26年度調査から“関心がある”の割合は減少傾向にあります。



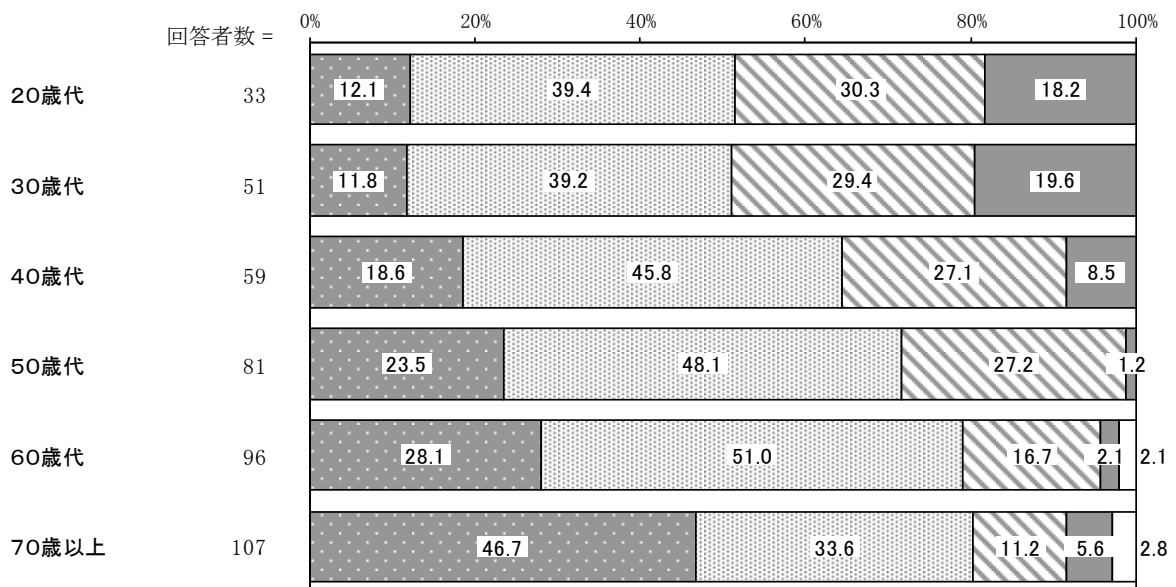
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。



【年代別】

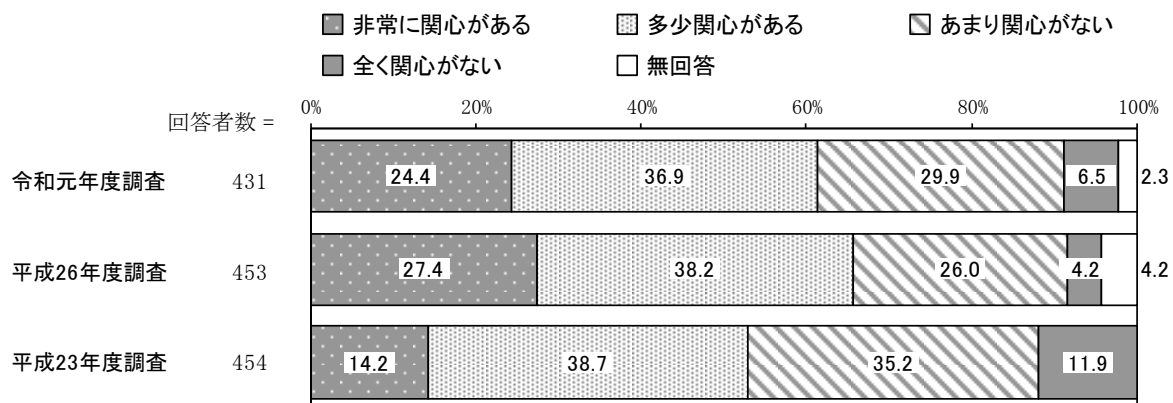
年代別でみると、年代が高くなるにつれ“関心がある”の割合が高くなる傾向がみられます。



⑯ 人身取引に関する人権問題

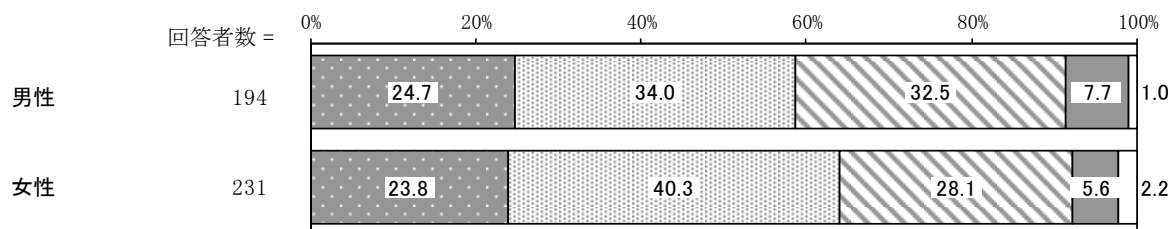
【過去の調査との比較】

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から“関心がある”の割合は増加傾向にあります。



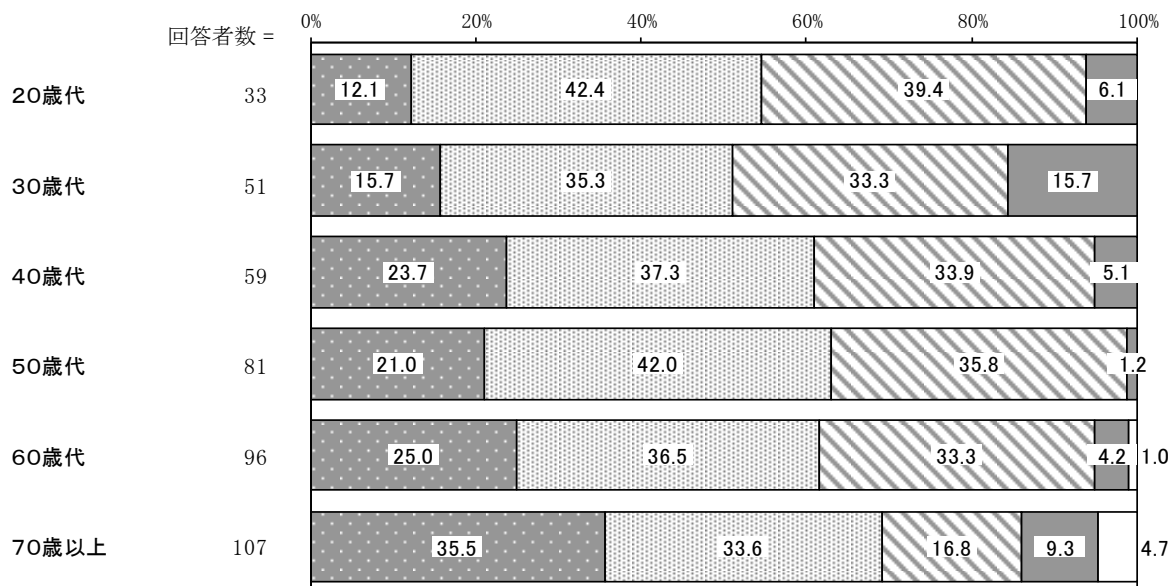
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。



【年代別】

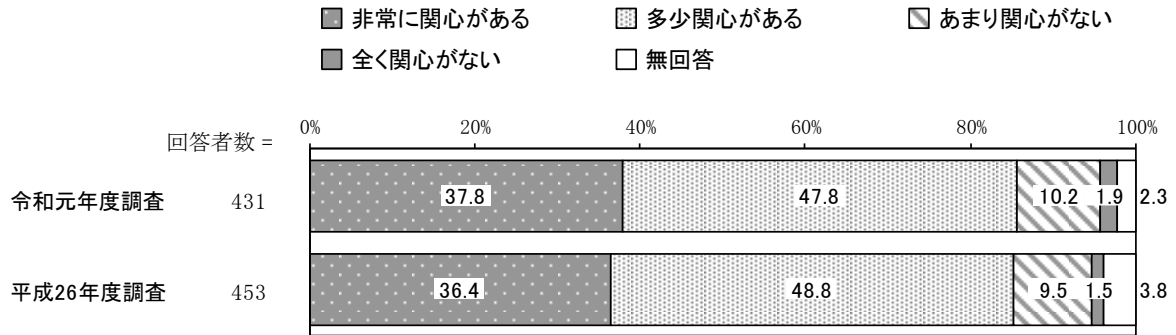
年代別でみると、年代が高くなるにつれ“関心がある”の割合が高くなる傾向がみられます。



⑰ 災害時の人権問題

【過去の調査との比較】

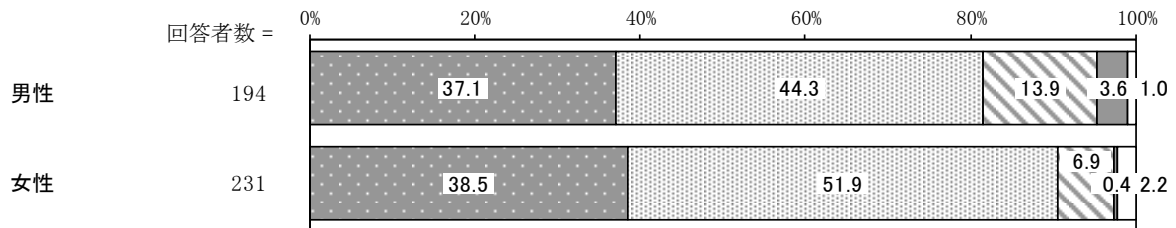
平成 26 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

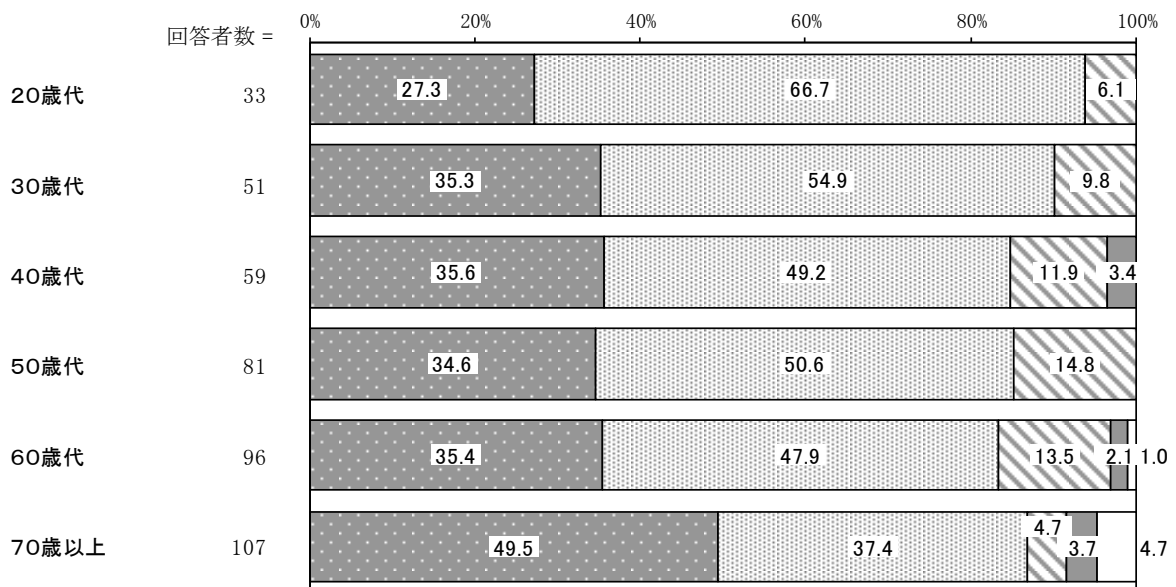
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“興味がある”の割合が高くなっています。



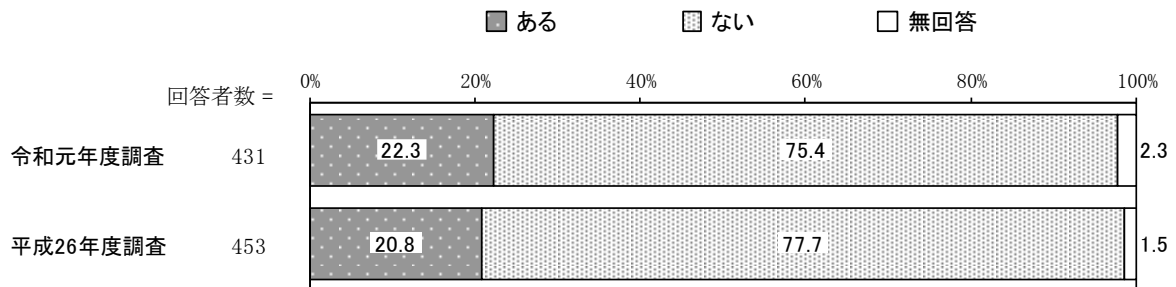
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“興味がある”の割合が高くなる傾向がみられます。



**問7 あなたは、過去5年間に、「差別をされた」と思ったことがありますか。
また、それはどのような内容でしたか。**

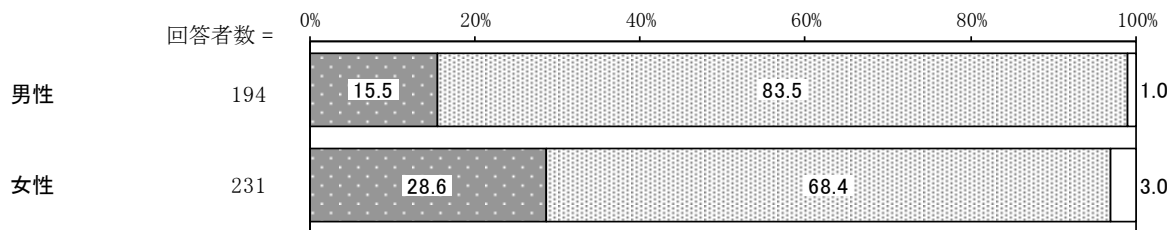
「ある」の割合が22.3%、「ない」の割合が75.4%となっています。
平成26年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

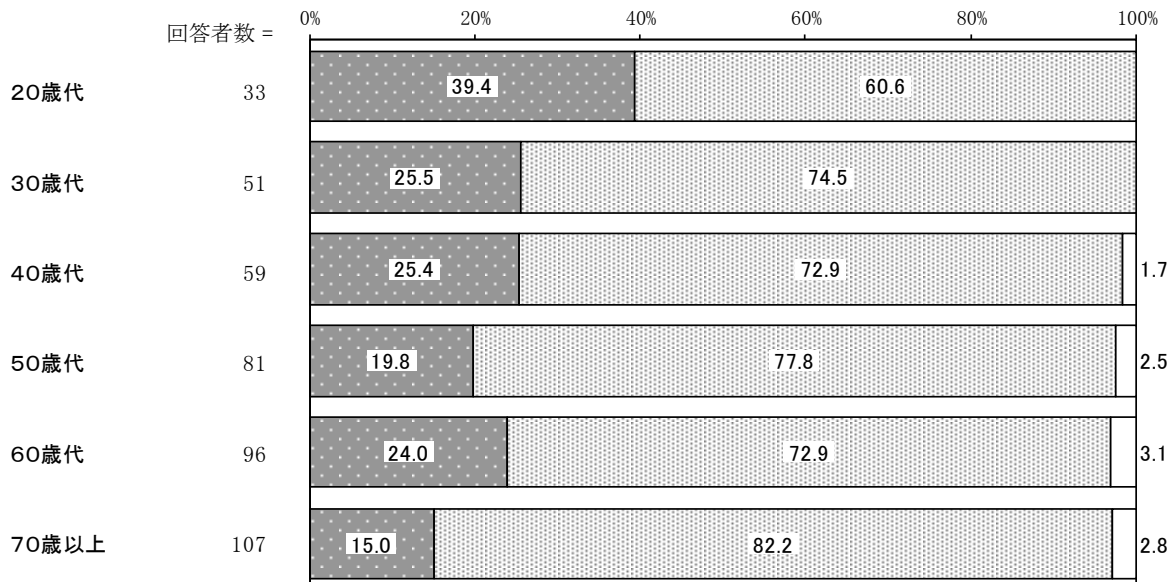
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



【年代別】

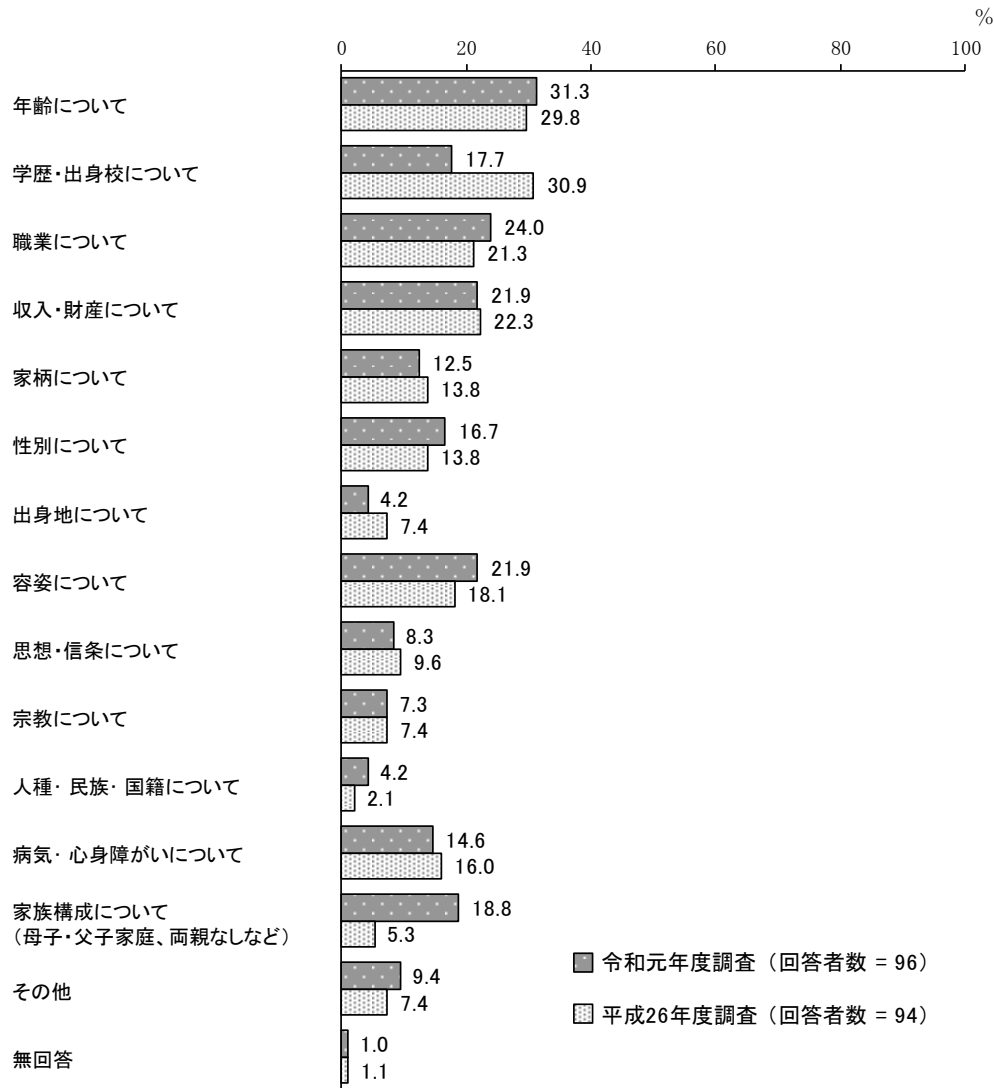
年代別でみると、年代が低くなるにつれ「ある」の割合が高くなる傾向がみられます。



<差別の内容>

「年齢について」の割合が31.3%と最も高く、次いで「職業について」の割合が24.0%、「収入・財産について」、「容姿について」の割合が21.9%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）」の割合が増加し、「学歴・出身校について」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「職業について」「収入・財産について」「病気・心身障がいについて」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「年齢について」「学歴・出身校について」「性別について」「容姿について」「家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	年齢について	学歴・出身校について	職業について	収入・財産について	家柄について	性別について	出身地について	容姿について	思想・信条について	宗教について	人種・民族・国籍について	病気・心身障がいについて	家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）	その他	無回答
男性	30	16.7	10.0	30.0	33.3	10.0	3.3	6.7	10.0	10.0	10.0	3.3	20.0	3.3	13.3	3.3
女性	66	37.9	21.2	21.2	16.7	13.6	22.7	3.0	27.3	7.6	6.1	4.5	12.1	25.8	7.6	—

【年代別】

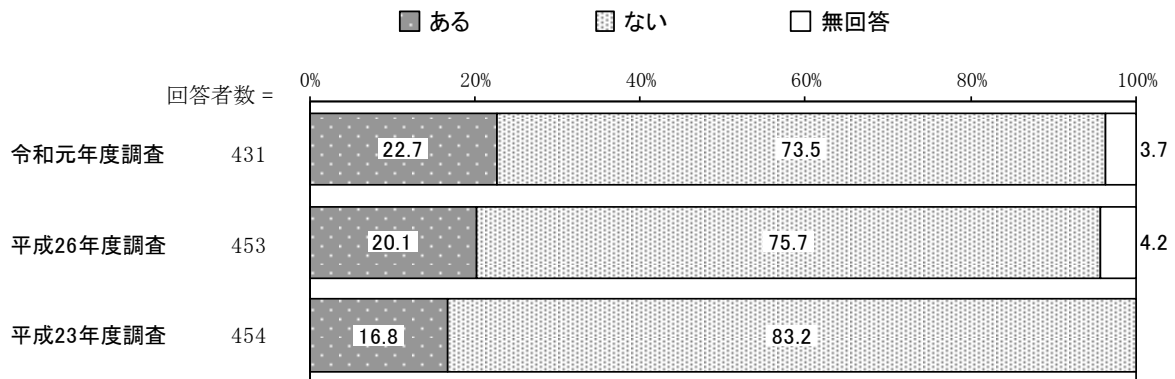
年代別でみると、年代が低くなるにつれ「家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、20歳代、50歳代で「年齢について」の割合が、20歳代で「学歴・出身校について」「容姿について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	年齢について	学歴・出身校について	職業について	収入・財産について	家柄について	性別について	出身地について	容姿について	思想・信条について	宗教について	人種・民族・国籍について	病気・心身障がいについて	家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）	その他	無回答
20歳代	13	38.5	38.5	15.4	—	15.4	30.8	7.7	46.2	—	7.7	—	—	30.8	7.7	—
30歳代	13	30.8	23.1	15.4	30.8	15.4	23.1	—	38.5	15.4	15.4	—	23.1	23.1	7.7	—
40歳代	15	20.0	6.7	33.3	20.0	13.3	6.7	13.3	13.3	13.3	6.7	13.3	13.3	20.0	13.3	—
50歳代	16	37.5	6.3	31.3	25.0	—	18.8	—	6.3	6.3	6.3	—	25.0	18.8	12.5	—
60歳代	23	34.8	13.0	26.1	17.4	4.3	13.0	4.3	13.0	13.0	4.3	4.3	8.7	13.0	8.7	—
70歳以上	16	25.0	25.0	18.8	37.5	31.3	12.5	—	25.0	—	6.3	6.3	18.8	12.5	6.3	6.3

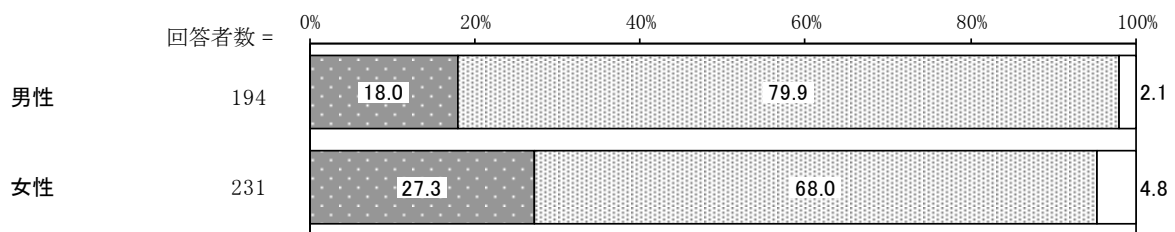
問8 あなたは、過去5年間に、「人権を侵害された」と感じたことがありますか。また、それはどのような内容でしたか。

「ある」の割合が22.7%、「ない」の割合が73.5%となっています。
過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「ある」の割合は増加しています。



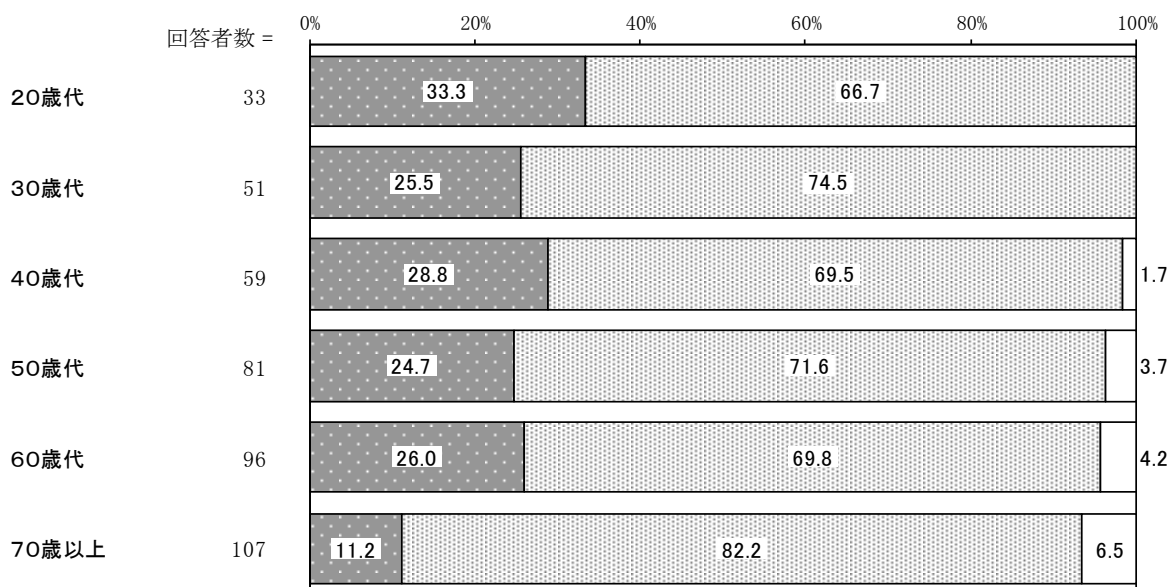
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



【年代別】

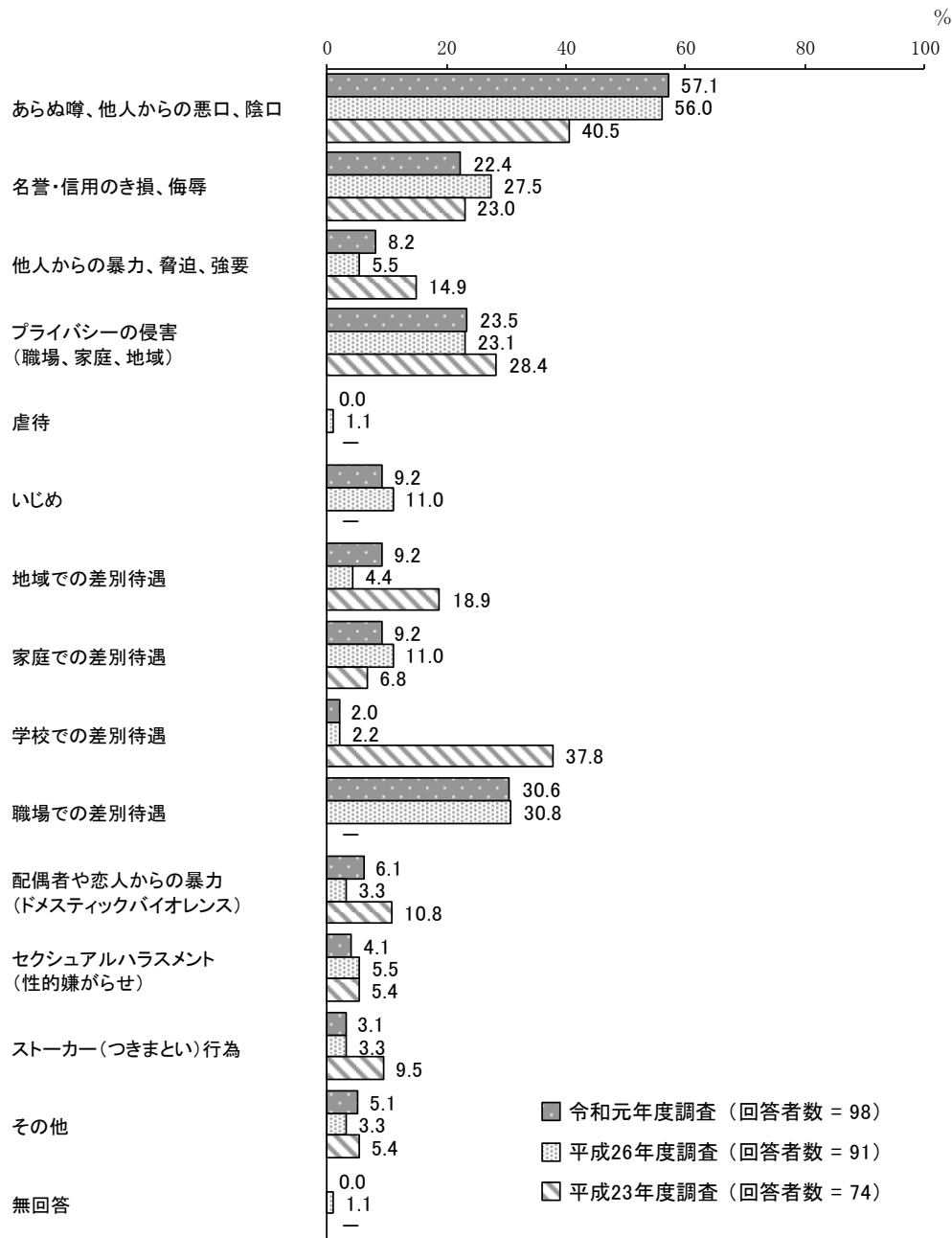
性別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「ある」の割合が高くなっています。



<人権侵害の内容>

「あらぬ噂、他人からの悪口、陰口」の割合が 57.1%と最も高く、次いで「職場での差別待遇」の割合が 30.6%、「プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）」の割合が 23.5%となっています。

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から「あらぬ噂、他人からの悪口、陰口」は増加しています。



※「虐待」「いじめ」「職場での差別待遇」の選択肢は、令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「名誉・信用のき損、侮辱」「職場での差別待遇」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）」「家庭での差別待遇」「配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	あらぬ噂、他人からの悪口、陰口	名誉・信用のき損、侮辱	他人からの暴力、脅迫、強要	プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）	虐待	いじめ	地域での差別待遇	家庭での差別待遇	学校での差別待遇	職場での差別待遇	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）	ストーカー（つきまとい）行為	その他	無回答
男性	35	54.3	31.4	8.6	2.9	—	8.6	11.4	—	—	37.1	—	2.9	—	—	—
女性	63	58.7	17.5	7.9	34.9	—	9.5	7.9	14.3	3.2	27.0	9.5	4.8	4.8	7.9	—

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）」「配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）」の割合が高くなっています。また、30歳代で「学校での差別待遇」「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」の割合が高くなっています。

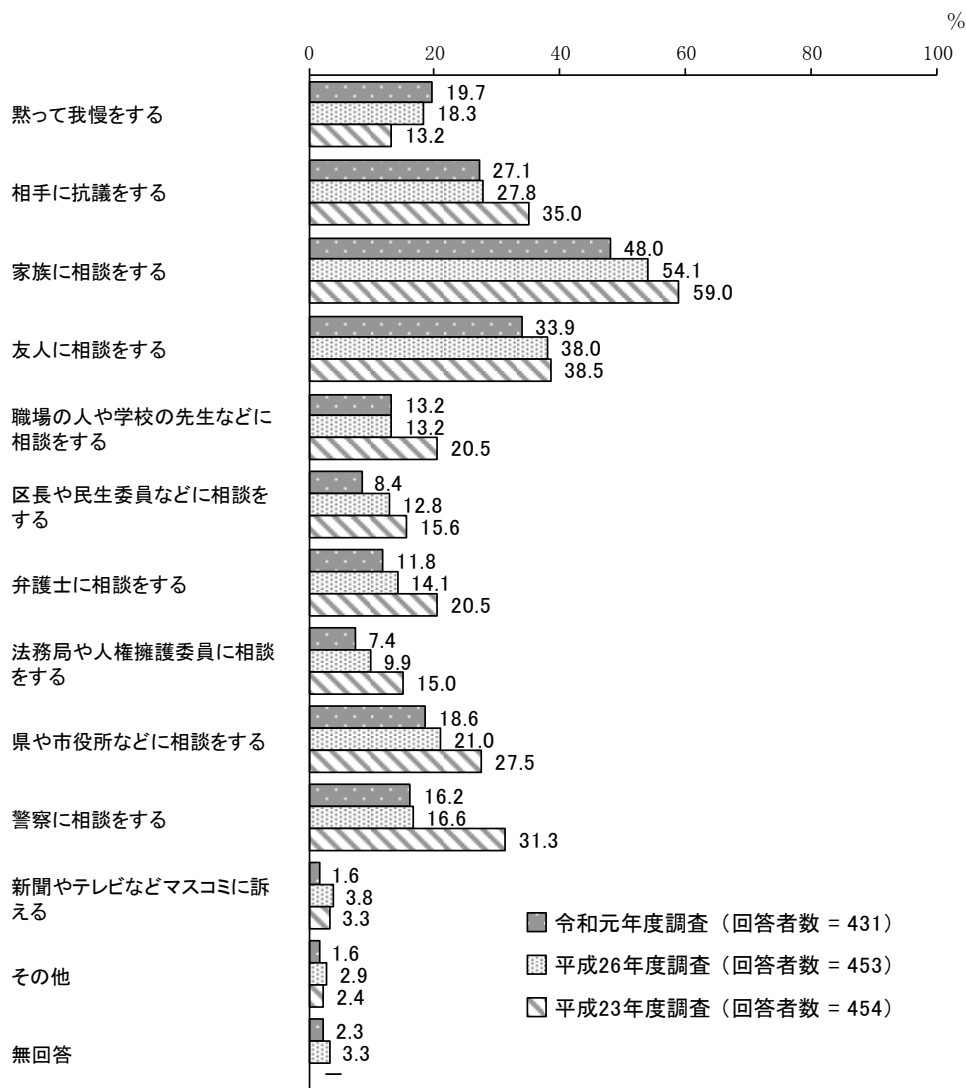
単位：％

区分	回答者数（件）	あらぬ噂、他人からの悪口、陰口	名誉・信用のき損、侮辱	他人からの暴力、脅迫、強要	プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）	虐待	いじめ	地域での差別待遇	家庭での差別待遇	学校での差別待遇	職場での差別待遇	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）	ストーカー（つきまとい）行為	その他	無回答
20歳代	11	63.6	27.3	—	45.5	—	9.1	—	18.2	—	18.2	27.3	—	—	18.2	—
30歳代	13	53.8	7.7	15.4	30.8	—	—	—	7.7	15.4	23.1	7.7	23.1	15.4	—	—
40歳代	17	58.8	35.3	—	17.6	—	11.8	17.6	11.8	—	41.2	—	—	5.9	—	—
50歳代	20	45.0	30.0	15.0	10.0	—	10.0	—	5.0	—	45.0	5.0	—	—	5.0	—
60歳代	25	60.0	12.0	12.0	24.0	—	12.0	16.0	8.0	—	32.0	4.0	4.0	—	4.0	—
70歳以上	12	66.7	25.0	—	25.0	—	8.3	16.7	8.3	—	8.3	—	—	—	8.3	—

問9 もし差別や人権侵害を受けた場合、あなたはどのような対応をしますか。
 《○はいくつでも》

「家族に相談をする」の割合が48.0%と最も高く、次いで「友人に相談をする」の割合が33.9%、「相手に抗議をする」の割合が27.1%となっています。

過去の調査と比較すると、「黙って我慢をする」は増加している一方、「相手に抗議をする」「家族に相談をする」「友人に相談をする」「区長や民生委員などに相談をする」「弁護士に相談をする」「法務局や人権擁護委員に相談をする」「県や市役所などに相談をする」「警察に相談をする」は減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「相手に抗議をする」「弁護士に相談をする」「法務局や人権擁護委員に相談をする」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族に相談をする」「友人に相談をする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	黙って我慢をする	相手に抗議をする	家族に相談をする	友人に相談をする	職場の人や学校の先生などに相談をする	区長や民生委員などに相談をする	弁護士に相談をする	法務局や人権擁護委員に相談をする	県や市役所などに相談をする	警察に相談をする	新聞やテレビなどマスコミに訴える	その他	無回答
男性	194	17.5	40.2	33.0	28.4	15.5	6.7	14.9	10.3	20.6	18.0	2.1	1.5	1.5
女性	231	22.1	16.0	61.5	38.1	11.7	9.5	9.5	4.3	16.9	14.7	1.3	1.7	3.0

【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「友人に相談をする」「職場の人や学校の先生などに相談をする」の割合が、年代が高くなるにつれ「法務局や人権擁護委員に相談をする」「県や市役所などに相談をする」の割合が高くなる傾向がみられます。

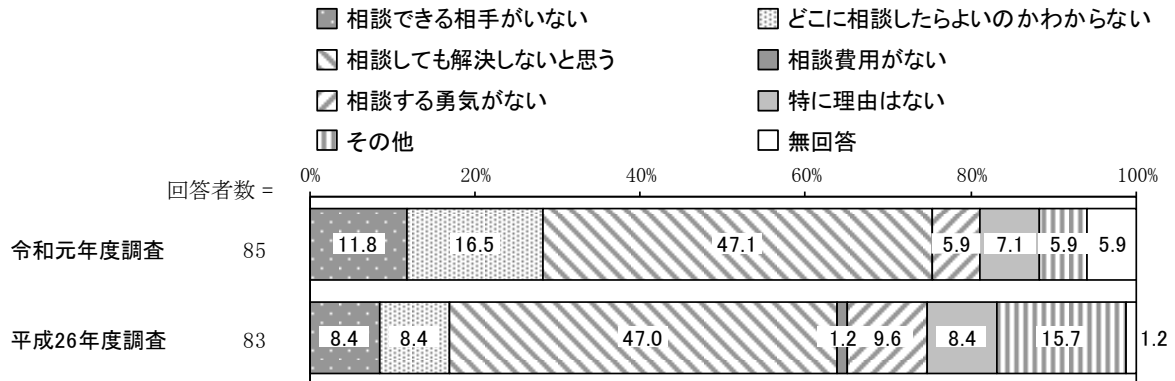
単位：％

区分	回答者数(件)	黙って我慢をする	相手に抗議をする	家族に相談をする	友人に相談をする	職場の人や学校の先生などに相談をする	区長や民生委員などに相談をする	弁護士に相談をする	法務局や人権擁護委員に相談をする	県や市役所などに相談をする	警察に相談をする	新聞やテレビなどマスコミに訴える	その他	無回答
20歳代	33	24.2	27.3	57.6	45.5	30.3	—	9.1	—	3.0	18.2	3.0	6.1	—
30歳代	51	25.5	31.4	49.0	45.1	23.5	2.0	7.8	5.9	7.8	5.9	—	—	—
40歳代	59	16.9	27.1	57.6	40.7	18.6	—	15.3	5.1	8.5	8.5	—	1.7	—
50歳代	81	22.2	27.2	44.4	27.2	16.0	3.7	16.0	7.4	16.0	13.6	2.5	1.2	3.7
60歳代	96	15.6	32.3	40.6	34.4	8.3	8.3	11.5	8.3	27.1	18.8	3.1	3.1	1.0
70歳以上	107	19.6	21.5	49.5	25.2	2.8	21.5	10.3	10.3	28.0	24.3	0.9	—	4.7

**問 10 問 9で「黙って我慢をする」を選択した方にお尋ねします。
それはなぜですか。《○は1つだけ》**

「相談しても解決しないと思う」の割合が47.1%と最も高く、次いで「どこに相談したらよいのかわからない」の割合が16.5%、「相談できる相手がいない」の割合が11.8%となっています。

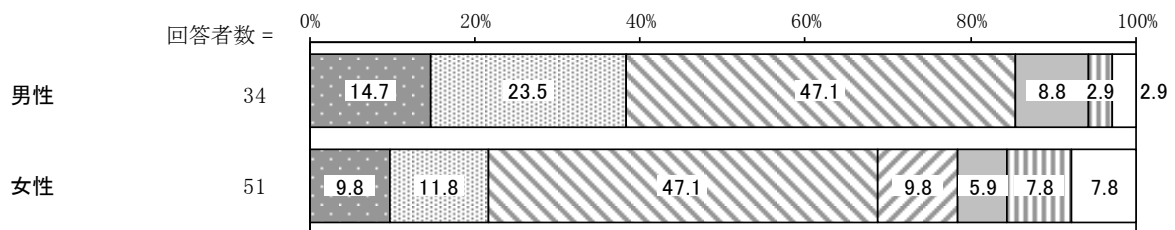
平成26年度調査と比較すると、「どこに相談したらよいのかわからない」の割合が増加しています。



※令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

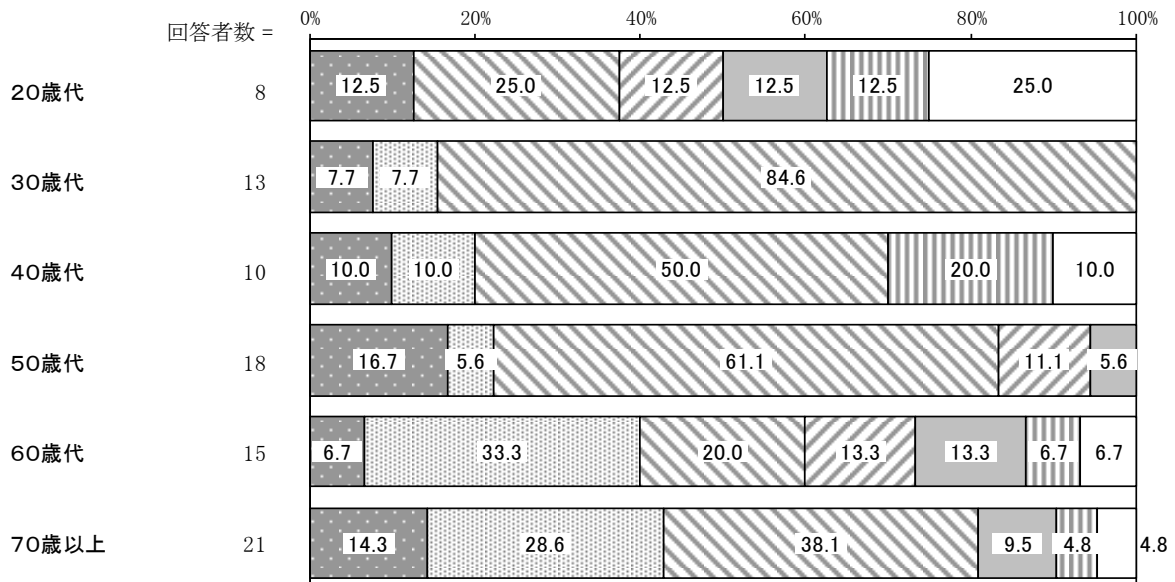
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「どこに相談したらよいのかわからない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「相談する勇気がない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「相談しても解決しないと思う」の割合が高くなっています。また、60歳以上で「どこに相談したらよいのかわからない」の割合が高くなっています。

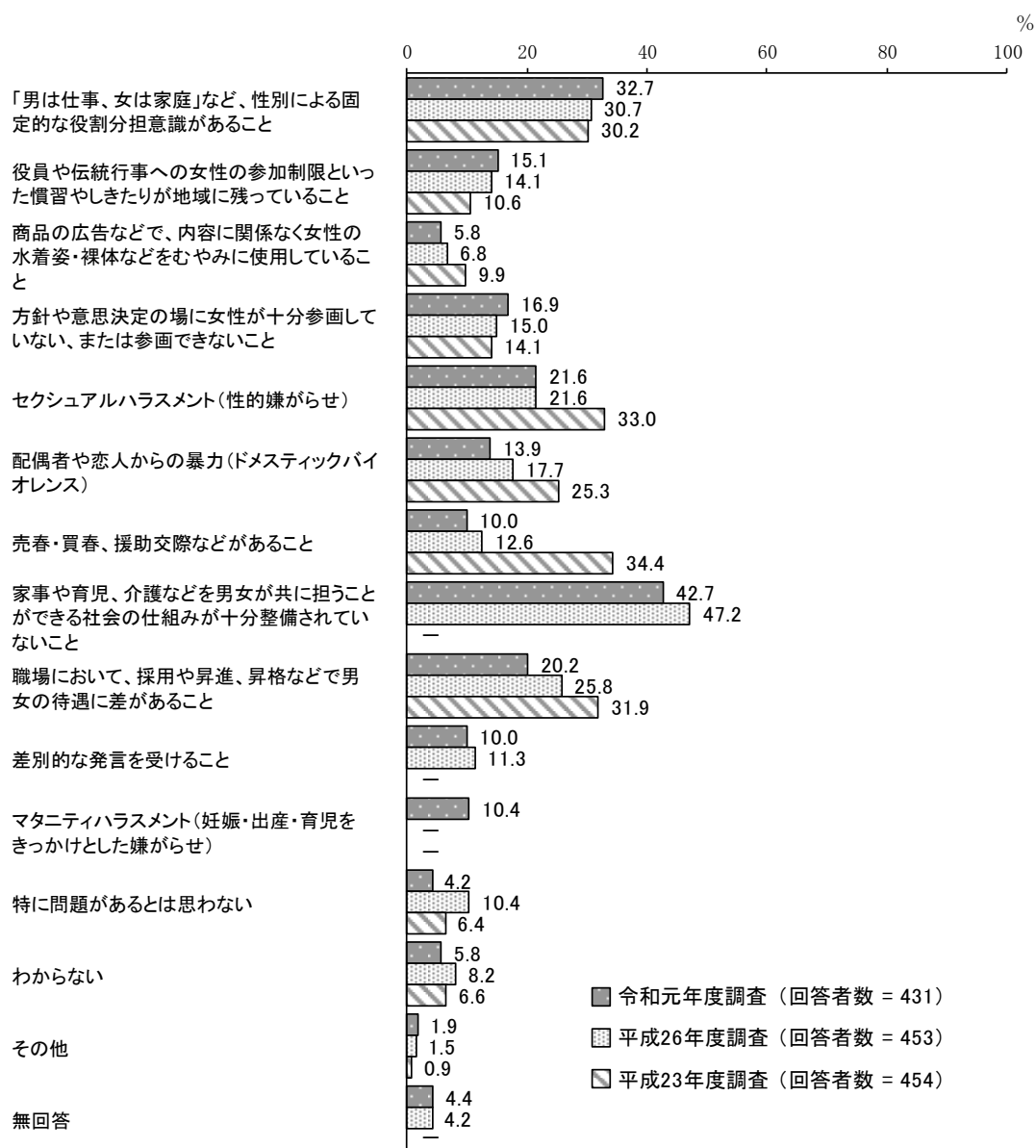


(3) 女性の人権について

問 11 女性の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 《○は3つまで》

「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」の割合が 32.7%、「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」の割合が 21.6%となっています。

過去の調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」「役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること」「方針や意思決定の場に女性が十分参画していない、または参画できないこと」の割合は増加しています。一方、「商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをむやみに使用していること」「配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）」「職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること」の割合は減少しています。



※「マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ）」の選択肢は、令和元年度のみ。

「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」「差別的な発言を受けること」の選択肢は、令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること」「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」「特に問題があるとは思わない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること	「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること	商品などの広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをむやみに使用していること	方針や意思決定の場に女性が十分参画していない、または参画できないこと	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）	売春・買春、援助交際などがあること	家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと	職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること	差別的な発言を受けること	マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ）	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	32.5	19.1	5.2	18.6	25.3	16.5	7.7	36.6	19.6	9.3	12.9	6.7	5.7	0.5	4.1
女性	231	33.3	12.1	6.5	15.2	18.6	12.1	12.1	48.1	19.9	10.8	8.7	1.7	6.1	3.0	4.8

【年代別】

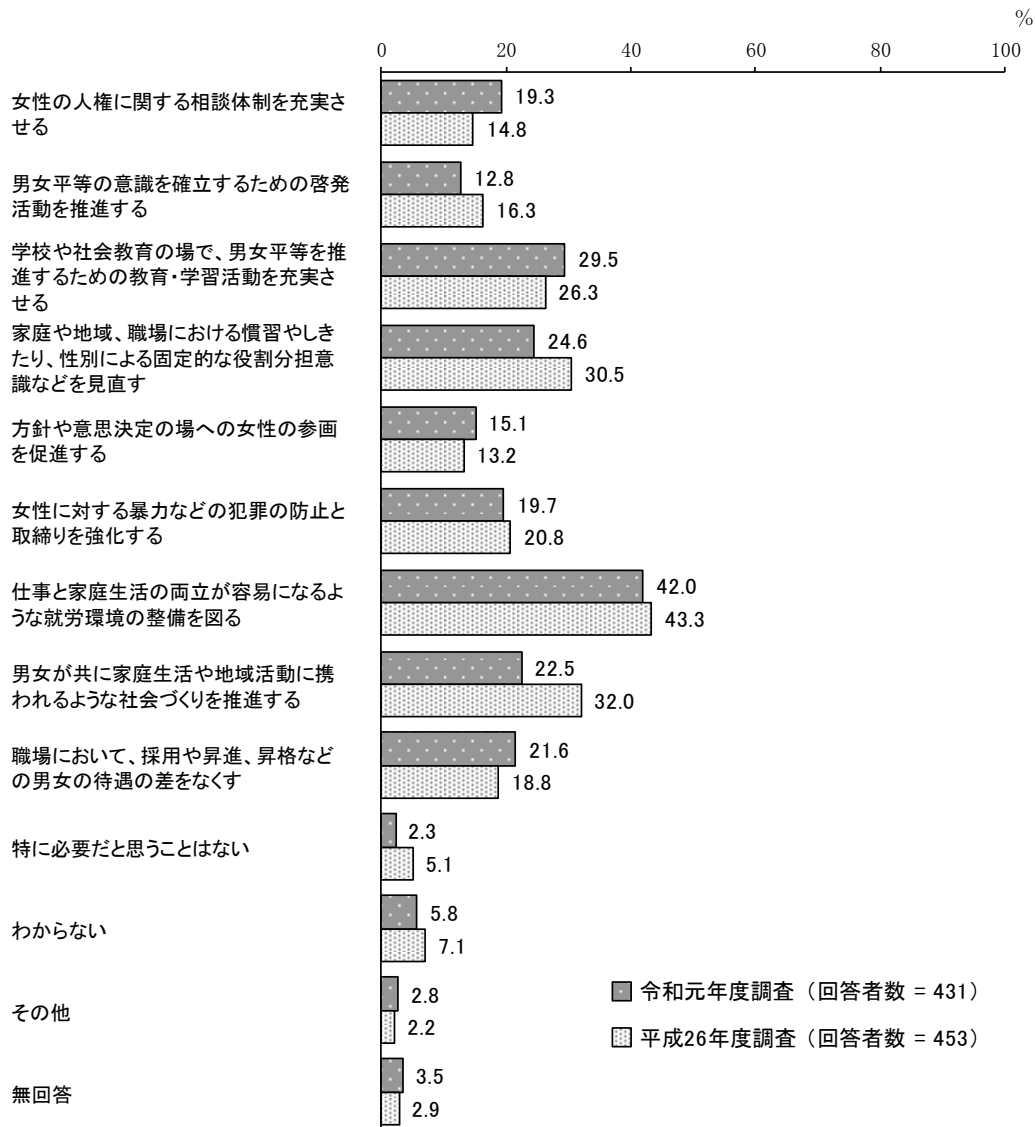
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」の割合が、30歳代で「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が高くなっています。また、40歳代で「配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること	役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること	裸体などをむやみに使用していること	商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをむやみに使用していること	方針や意思決定の場に女性が十分参画していない、または参画できないこと	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）	売春・買春、援助交際などがあること	家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと	職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること	差別的な発言を受けること	マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ）	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	57.6	6.1	9.1	9.1	48.5	12.1	12.1	42.4	30.3	6.1	12.1	—	6.1	—	3.0	
30歳代	51	31.4	5.9	7.8	9.8	19.6	7.8	7.8	56.9	25.5	15.7	19.6	3.9	2.0	2.0	2.0	
40歳代	59	33.9	13.6	1.7	16.9	25.4	23.7	10.2	50.8	15.3	6.8	13.6	3.4	5.1	3.4	—	
50歳代	81	29.6	21.0	6.2	21.0	13.6	18.5	11.1	45.7	22.2	8.6	12.3	3.7	3.7	1.2	4.9	
60歳代	96	40.6	18.8	5.2	15.6	20.8	6.3	10.4	41.7	14.6	9.4	6.3	4.2	4.2	1.0	7.3	
70歳以上	107	21.5	15.9	6.5	20.6	18.7	15.9	9.3	31.8	20.6	12.1	6.5	5.6	11.2	2.8	4.7	

問 12 女性の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。
 《○は3つまで》

「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」の割合が 29.5%、「家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す」の割合が 24.6%となっています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する」「方針や意思決定の場への女性の参画を促進する」「男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する」「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性の人権に関する相談体制を充実させる	男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する	学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる	な役割分担意識などを見直す	家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す	方針や意思決定の場への女性の参画を促進する	女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する	仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る	男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する	職場において、採用や昇進、昇格などの男女の待遇の差をなくす	特に必要だと思つことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	19.1	17.5	27.3	26.3	19.1	17.0	34.5	26.3	20.1	2.6	5.2	3.1	3.6	
女性	231	19.5	8.2	30.3	23.8	11.7	22.1	49.4	19.5	22.5	1.7	6.5	2.6	3.5	

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」の割合が高くなっています。また、20歳代で「女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する」の割合が高くなっています。

単位：％

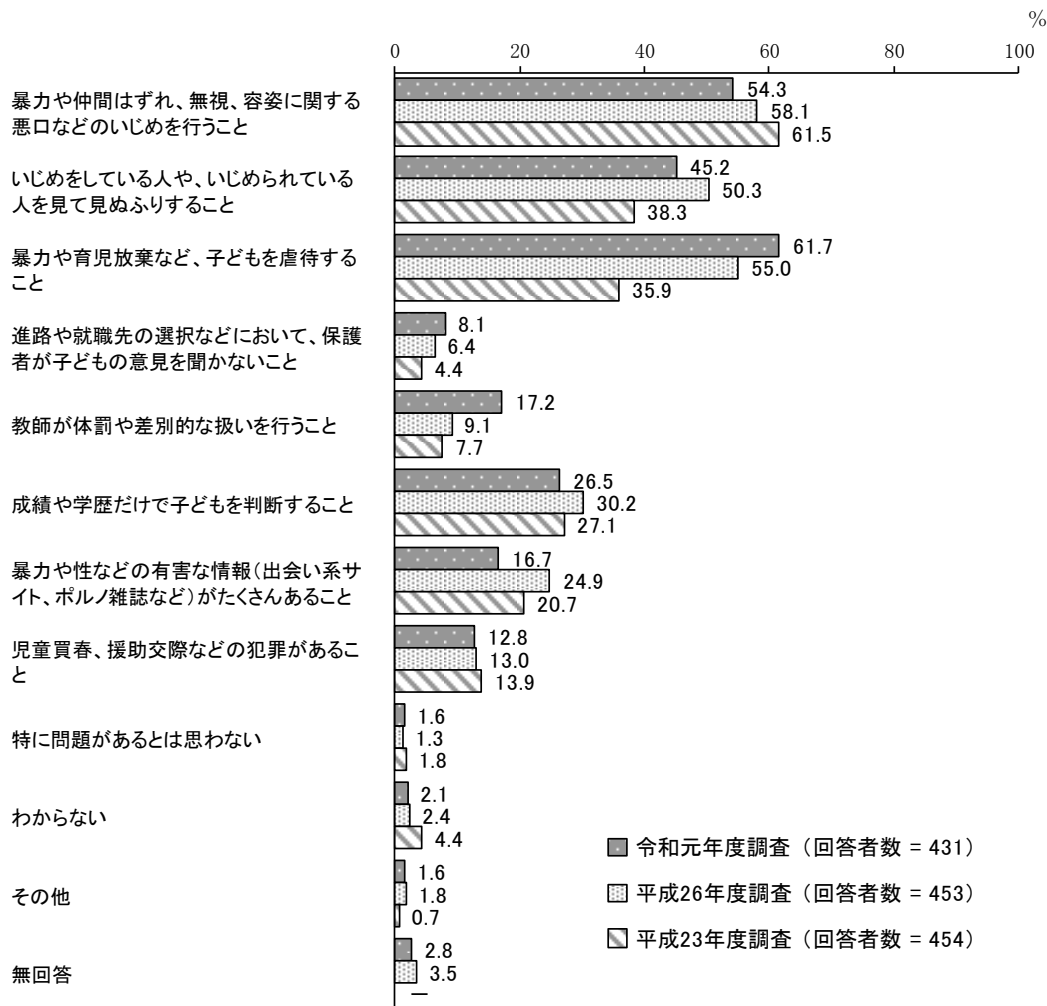
区分	回答者数(件)	女性の人権に関する相談体制を充実させる	男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する	学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる	な役割分担意識などを見直す	家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す	方針や意思決定の場への女性の参画を促進する	女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する	仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る	男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する	職場において、採用や昇進、昇格などの男女の待遇の差をなくす	特に必要だと思つことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	21.2	9.1	33.3	24.2	15.2	36.4	45.5	24.2	27.3	—	6.1	—	—	
30歳代	51	13.7	13.7	23.5	31.4	15.7	21.6	56.9	29.4	21.6	—	3.9	3.9	—	
40歳代	59	20.3	11.9	18.6	27.1	11.9	23.7	42.4	28.8	20.3	5.1	6.8	3.4	—	
50歳代	81	17.3	9.9	34.6	24.7	17.3	16.0	43.2	21.0	22.2	—	6.2	3.7	3.7	
60歳代	96	19.8	16.7	34.4	28.1	11.5	16.7	40.6	14.6	18.8	4.2	3.1	4.2	6.3	
70歳以上	107	22.4	12.1	28.0	17.8	18.7	17.8	35.5	23.4	22.4	1.9	8.4	0.9	4.7	

(4) 子どもの人権について

問 13 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 《○は3つまで》

「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合が61.7%と最も高く、次いで「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」の割合が54.3%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること」の割合が45.2%となっています。

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合は増加している一方、「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」「児童買春、援助交際などの犯罪があること」の割合は減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「暴力や性などの有害な情報（出会い系サイト、ポルノ雑誌など）がたくさんあること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること	暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること	進路や就職先の選択などにおいて、保護者が子どもの意見を聞かないこと	教師が体罰や差別的な扱いを行うこと	成績や学歴だけで子どもを判断すること	ポルノ雑誌などがたくさんあること	暴力や性などの有害な情報（出会い系サイト、ポルノ雑誌など）がたくさんあること	児童買春、援助交際などの犯罪があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	54.6	47.9	60.3	9.8	16.5	26.3	12.9	11.3	2.1	2.6	2.1	2.1	
女性	231	54.1	42.9	63.6	6.9	18.2	26.4	19.9	13.9	0.9	1.7	1.3	3.5	

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合が高くなっています。また、20歳代、30歳代で「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」の割合が、60歳代で「成績や学歴だけで子どもを判断すること」の割合が高くなっています。

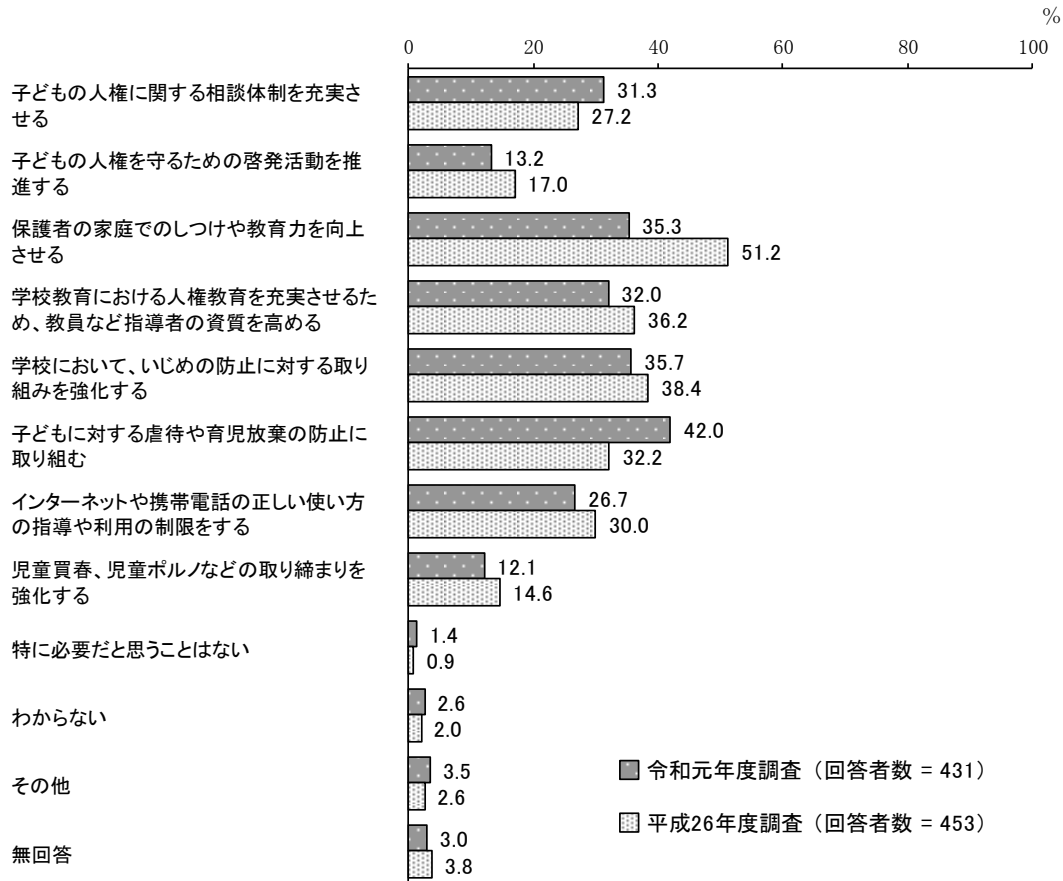
単位：％

区分	回答者数（件）	暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること	暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること	進路や就職先の選択などにおいて、保護者が子どもの意見を聞かないこと	教師が体罰や差別的な扱いを行うこと	成績や学歴だけで子どもを判断すること	ポルノ雑誌などがたくさんあること	暴力や性などの有害な情報（出会い系サイト、ポルノ雑誌など）がたくさんあること	児童買春、援助交際などの犯罪があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	60.6	39.4	69.7	3.0	18.2	24.2	15.2	15.2	—	—	—	—	
30歳代	51	60.8	47.1	74.5	13.7	17.6	21.6	9.8	19.6	—	—	2.0	—	
40歳代	59	55.9	49.2	66.1	6.8	16.9	22.0	22.0	11.9	3.4	—	1.7	—	
50歳代	81	55.6	40.7	66.7	12.3	6.2	24.7	18.5	16.0	—	1.2	3.7	4.9	
60歳代	96	56.3	51.0	51.0	4.2	21.9	35.4	13.5	8.3	3.1	1.0	2.1	3.1	
70歳以上	107	45.8	42.1	57.9	8.4	21.5	26.2	19.6	11.2	0.9	6.5	—	3.7	

問 14 子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。
 ≪○は3つまで≫

「子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する」の割合が 35.7%、「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」の割合が 35.3%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む」の割合は増加し、「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」の割合は減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」「学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする」「児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	子どもの人権に関する相談体制を充実させる	子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	子どもの人権を守るための保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる	学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める	学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する	子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む	インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする	児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	32.0	13.9	39.7	36.1	36.6	41.2	23.2	8.8	2.1	2.6	2.6	2.6
女性	231	30.3	12.1	31.6	28.6	34.6	43.3	30.3	15.2	0.4	2.6	4.3	3.5

【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、30歳代、70歳以上で「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」の割合が、50歳代で「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」の割合が、30歳代で「インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする」の割合が高くなっています。

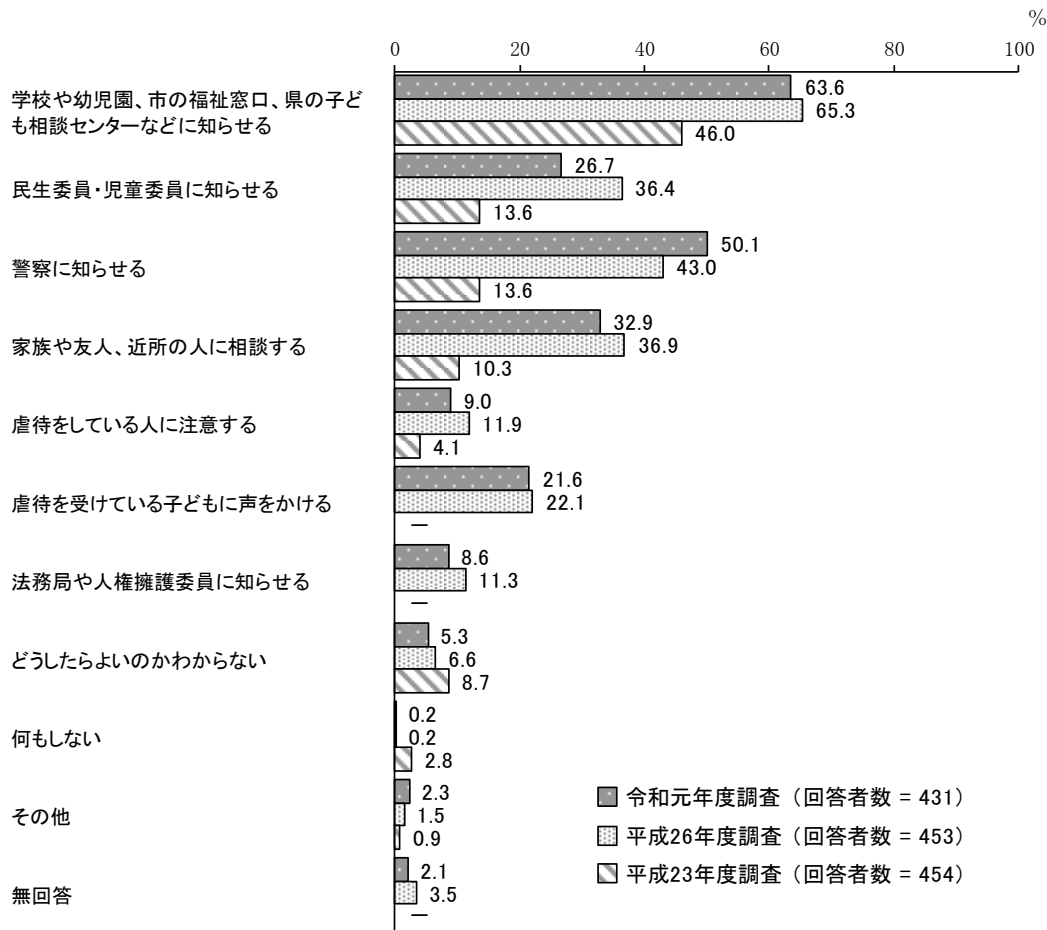
単位：％

区分	回答者数(件)	子どもの人権に関する相談体制を充実させる	子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	子どもの人権を守るための保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる	学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める	学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する	子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む	インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする	児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	30.3	12.1	33.3	30.3	42.4	54.5	24.2	18.2	—	3.0	—	—
30歳代	51	21.6	15.7	41.2	21.6	33.3	51.0	37.3	15.7	—	—	5.9	—
40歳代	59	27.1	10.2	30.5	32.2	35.6	37.3	32.2	15.3	3.4	—	6.8	—
50歳代	81	39.5	13.6	33.3	30.9	28.4	49.4	25.9	7.4	—	2.5	3.7	7.4
60歳代	96	31.3	13.5	32.3	36.5	35.4	39.6	25.0	7.3	2.1	2.1	4.2	3.1
70歳以上	107	32.7	13.1	40.2	34.6	41.1	34.6	22.4	15.0	0.9	5.6	0.9	2.8

問 15 あなたが児童虐待を発見したらどうしますか。《○はいくつでも》

「学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる」の割合が 63.6%と最も高く、次いで「警察に知らせる」の割合が 50.1%、「家族や友人、近所の人に相談する」の割合が 32.9%となっています。

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から「警察に知らせる」の割合は増加しています。また、「どうしたらよいのかわからない」の割合は減少しています。



※平成 23 年度調査は単数回答の設問。また、「虐待を受けている子どもに声をかける」「法務局や人権擁護委員に知らせる」の選択肢は、令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「虐待をしている人に注意する」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族や友人、近所の人に相談する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる	民生委員・児童委員に知らせる	警察に知らせる	家族や友人、近所の人に相談する	虐待をしている人に注意する	虐待を受けている子どもに声をかける	法務局や人権擁護委員に知らせる	どうしたらよいかわからない	何もしない	その他	無回答
男性	194	63.4	26.8	52.6	20.6	13.4	19.6	9.8	5.2	0.5	2.6	2.1
女性	231	64.1	25.5	48.1	43.3	5.6	23.8	7.4	5.6	—	2.2	2.2

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「民生委員・児童委員に知らせる」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、20歳代で「警察に知らせる」の割合が、30歳代、40歳代で「家族や友人、近所の人に相談する」の割合が高くなっています。

単位：％

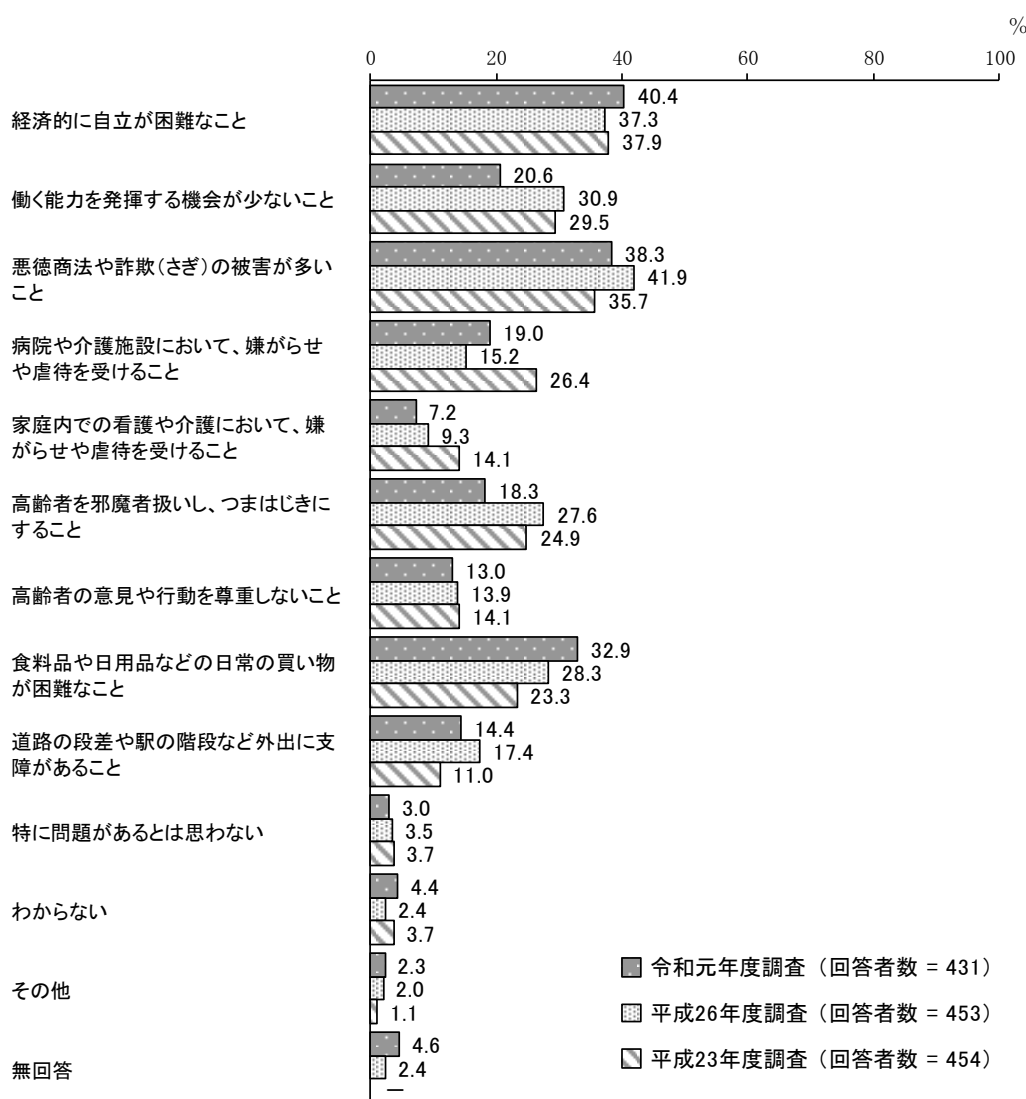
区分	回答者数(件)	学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる	民生委員・児童委員に知らせる	警察に知らせる	家族や友人、近所の人に相談する	虐待をしている人に注意する	虐待を受けている子どもに声をかける	法務局や人権擁護委員に知らせる	どうしたらよいかわからない	何もしない	その他	無回答
20歳代	33	48.5	15.2	75.8	30.3	12.1	24.2	9.1	3.0	—	6.1	—
30歳代	51	62.7	9.8	47.1	41.2	7.8	19.6	2.0	3.9	—	—	—
40歳代	59	69.5	11.9	45.8	40.7	6.8	25.4	3.4	8.5	—	—	—
50歳代	81	66.7	19.8	54.3	28.4	8.6	19.8	3.7	3.7	—	1.2	3.7
60歳代	96	66.7	34.4	45.8	28.1	5.2	20.8	10.4	5.2	1.0	5.2	3.1
70歳以上	107	60.7	43.9	47.7	33.6	14.0	22.4	16.8	6.5	—	1.9	1.9

(5) 高齢者の人権について

問 16 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 《○は3つまで》

「経済的に自立が困難なこと」の割合が40.4%と最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺(さぎ)の被害が多いこと」の割合が38.3%、「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」の割合が32.9%となっています。

過去の調査と比較すると、「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」の割合は増加している一方、「家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること」の割合は減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「働く能力を発揮する機会が少ないこと」「悪徳商法や詐欺の被害が多いこと」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること」「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	経済的に自立が困難なこと	働く能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法や詐欺の被害が多いこと	病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること	家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること	高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにする	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	39.7	25.3	43.3	12.9	6.2	18.0	12.4	28.9	15.5	3.6	4.6	2.6	3.1
女性	231	40.3	16.5	34.2	24.7	8.2	19.0	13.9	36.8	13.4	2.2	4.3	2.2	6.1

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で「悪徳商法や詐欺の被害が多いこと」の割合が、30歳代で「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」の割合が、60歳代以上で「経済的に自立が困難なこと」の割合が高くなっています。

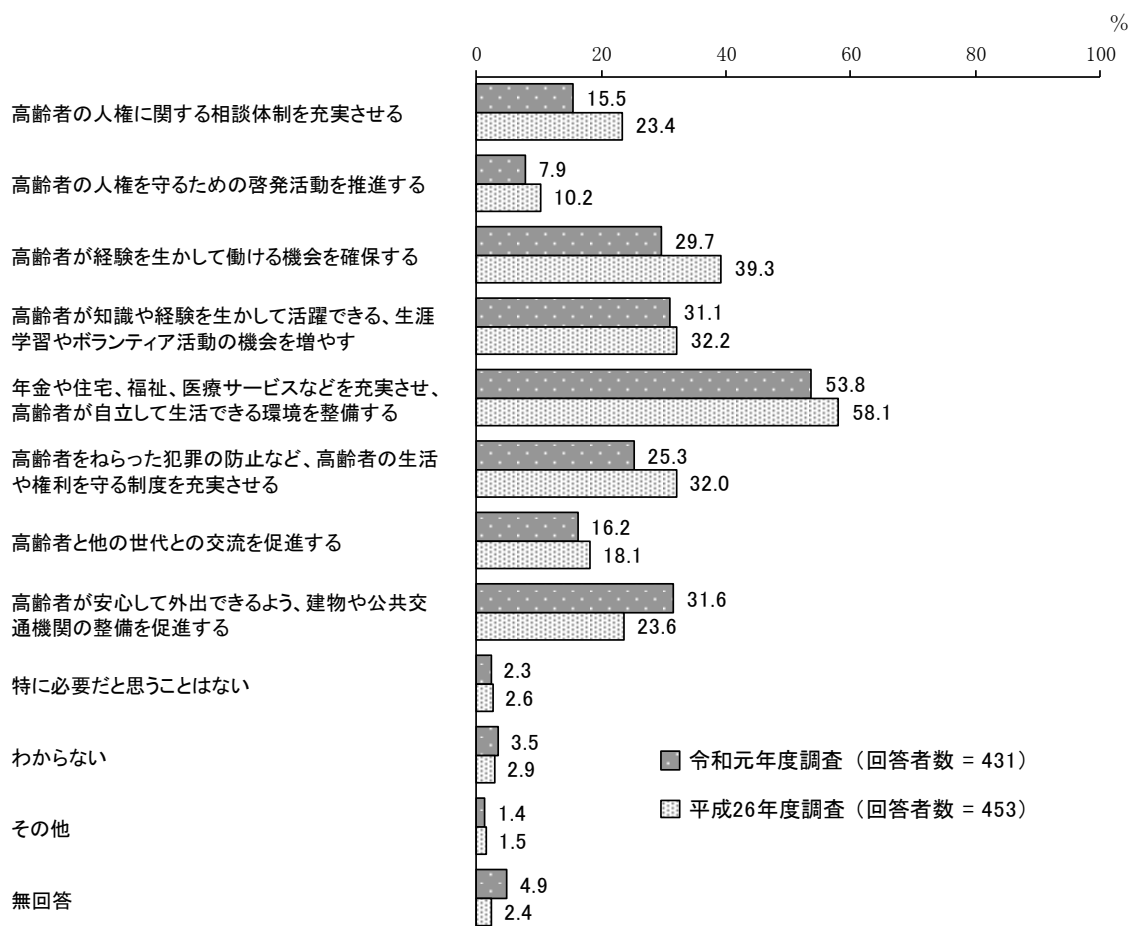
単位：％

区分	回答者数(件)	経済的に自立が困難なこと	働く能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法や詐欺の被害が多いこと	病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること	家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること	高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにする	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	39.4	15.2	45.5	24.2	—	18.2	12.1	30.3	33.3	—	6.1	—	—
30歳代	51	33.3	23.5	35.3	17.6	11.8	23.5	9.8	45.1	17.6	3.9	2.0	3.9	—
40歳代	59	37.3	18.6	52.5	16.9	5.1	16.9	5.1	33.9	16.9	3.4	1.7	1.7	3.4
50歳代	81	39.5	28.4	42.0	23.5	7.4	14.8	11.1	32.1	11.1	2.5	4.9	3.7	4.9
60歳代	96	44.8	17.7	30.2	17.7	9.4	25.0	13.5	27.1	11.5	5.2	5.2	3.1	6.3
70歳以上	107	42.1	18.7	35.5	17.8	6.5	14.0	20.6	34.6	11.2	0.9	5.6	0.9	6.5

問 17 高齢者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。
 《○は3つまで》

「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」の割合が53.8%と最も高く、次いで「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が31.6%、「高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」の割合が31.1%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合は増加し、「高齢者の人権に関する相談体制を充実させる」「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」「高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる」の割合は減少しています。



※令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」「高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	高齢者の人権に関する相談体制を充実させる	高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する	高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす	年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する	高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる	高齢者その他の世代との交流を促進する	高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	16.0	9.8	35.6	36.1	50.5	23.7	14.9	24.2	3.6	4.6	1.0	2.1
女性	231	15.2	6.1	25.5	27.7	56.3	26.8	17.7	37.7	1.3	2.6	1.7	6.9

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、60歳代で「高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」、60歳代で「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」の割合が高くなっています。また、20歳代、30歳代で「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

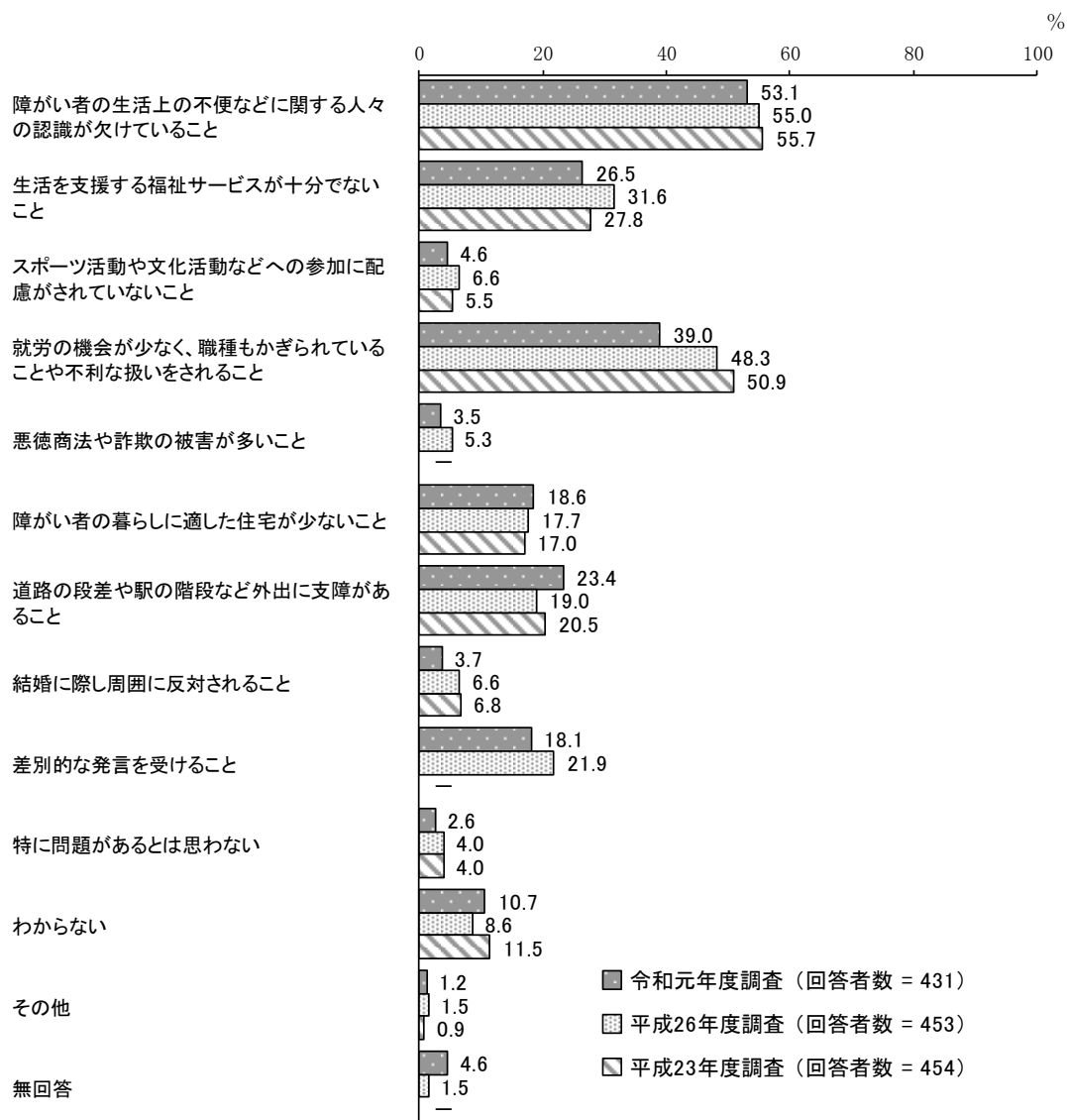
区分	回答者数(件)	高齢者の人権に関する相談体制を充実させる	高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する	高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす	年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する	高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる	高齢者その他の世代との交流を促進する	高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	12.1	9.1	21.2	39.4	48.5	36.4	24.2	45.5	3.0	—	—	—
30歳代	51	11.8	3.9	35.3	33.3	47.1	27.5	13.7	47.1	2.0	5.9	2.0	—
40歳代	59	11.9	3.4	33.9	33.9	39.0	28.8	15.3	32.2	3.4	3.4	—	5.1
50歳代	81	17.3	8.6	33.3	24.7	54.3	27.2	22.2	23.5	—	2.5	1.2	4.9
60歳代	96	16.7	8.3	32.3	39.6	63.5	19.8	15.6	20.8	3.1	3.1	3.1	5.2
70歳以上	107	17.8	10.3	23.4	24.3	57.9	23.4	12.1	35.5	2.8	4.7	0.9	7.5

(6) 障がい者の人権について

問 18 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 《○は3つまで》

「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」の割合が 39.0%、「生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」の割合が 26.5%となっています。

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」の割合は減少しています。



※「悪徳商法や詐欺の被害が多いこと」「差別的な発言を受けること」の選択肢は、令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」「生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「道路の段差や駅の階段など外出に支障があること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること	生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	スポーツ活動や文化活動などへの参加に配慮がされていないこと	就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること	悪徳商法や詐欺の被害が多いこと	障がい者の暮らしに適した住宅が少ないこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	56.2	30.9	4.6	43.8	2.6	19.6	18.0	4.6	17.5	3.1	9.3	1.5	2.6
女性	231	50.6	22.1	4.3	35.1	3.9	17.7	28.1	3.0	19.0	2.2	11.7	0.9	6.5

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」の割合が高くなっています。また、40歳代で「生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」の割合が、20歳代、30歳代で「差別的な発言を受けること」の割合が高くなっています。

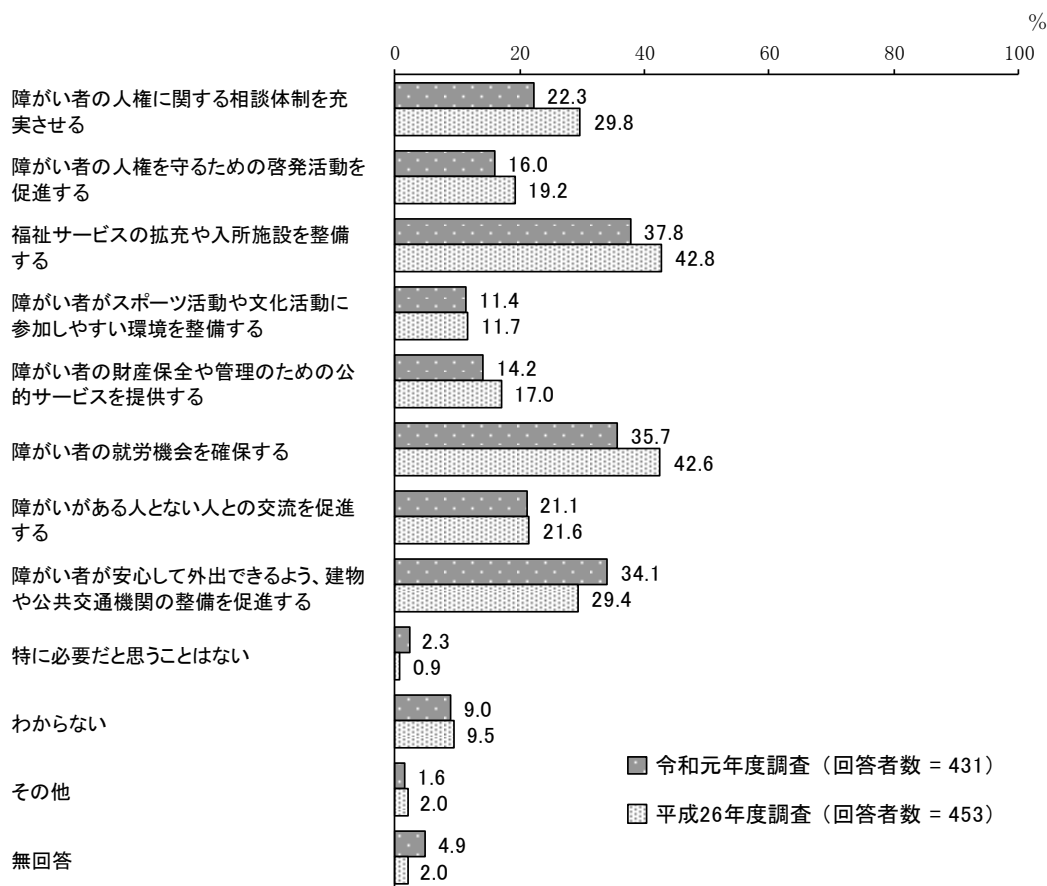
単位：％

区分	回答者数(件)	障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること	生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	スポーツ活動や文化活動などへの参加に配慮がされていないこと	就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること	悪徳商法や詐欺の被害が多いこと	障がい者の暮らしに適した住宅が少ないこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	60.6	21.2	9.1	42.4	3.0	24.2	24.2	12.1	30.3	—	3.0	3.0	—
30歳代	51	41.2	25.5	5.9	35.3	3.9	15.7	29.4	7.8	33.3	2.0	13.7	3.9	—
40歳代	59	50.8	39.0	—	30.5	1.7	13.6	20.3	3.4	16.9	5.1	11.9	—	5.1
50歳代	81	66.7	29.6	3.7	43.2	1.2	14.8	23.5	2.5	13.6	1.2	9.9	—	4.9
60歳代	96	55.2	25.0	3.1	44.8	1.0	21.9	24.0	1.0	19.8	4.2	6.3	2.1	5.2
70歳以上	107	46.7	19.6	7.5	35.5	8.4	21.5	22.4	2.8	10.3	1.9	15.0	—	6.5

問 19 障がい者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。
 ≪○は3つまで≫

「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」の割合が37.8%と最も高く、次いで「障がい者の就労機会を確保する」の割合が35.7%、「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が34.1%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「障がい者の人権に関する相談体制を充実させる」「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」「障がい者の就労機会を確保する」は減少しています。



※令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「障がい者の人権に関する相談体制を充実させる」「障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する」「障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する」「障がい者の就労機会を確保する」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がい者の人権に関する相談体制を充実させる	障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する	障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する	障がい者の就労機会を確保する	障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する	障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する	福祉サービスの拡充や入所施設を整備する	障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する	障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	障がいがある人となし人との交流を促進する	障がい者の就労機会を確保する	障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する	障がい者の就労機会を確保する	障がいがある人となし人との交流を促進する	障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	特に必要なと思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	27.3	20.1	35.1	13.4	18.0	39.7	20.1	30.4	2.6	8.2	2.6	2.6							
女性	231	17.3	12.1	39.4	10.0	11.3	33.3	22.1	37.7	1.7	10.0	0.9	6.9							

【年代別】

年代別で見ると、年代が高くなるにつれ「障がい者の人権に関する相談体制を充実させる」の割合が、年代が低くなるにつれ「障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、20歳代、30歳代で「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

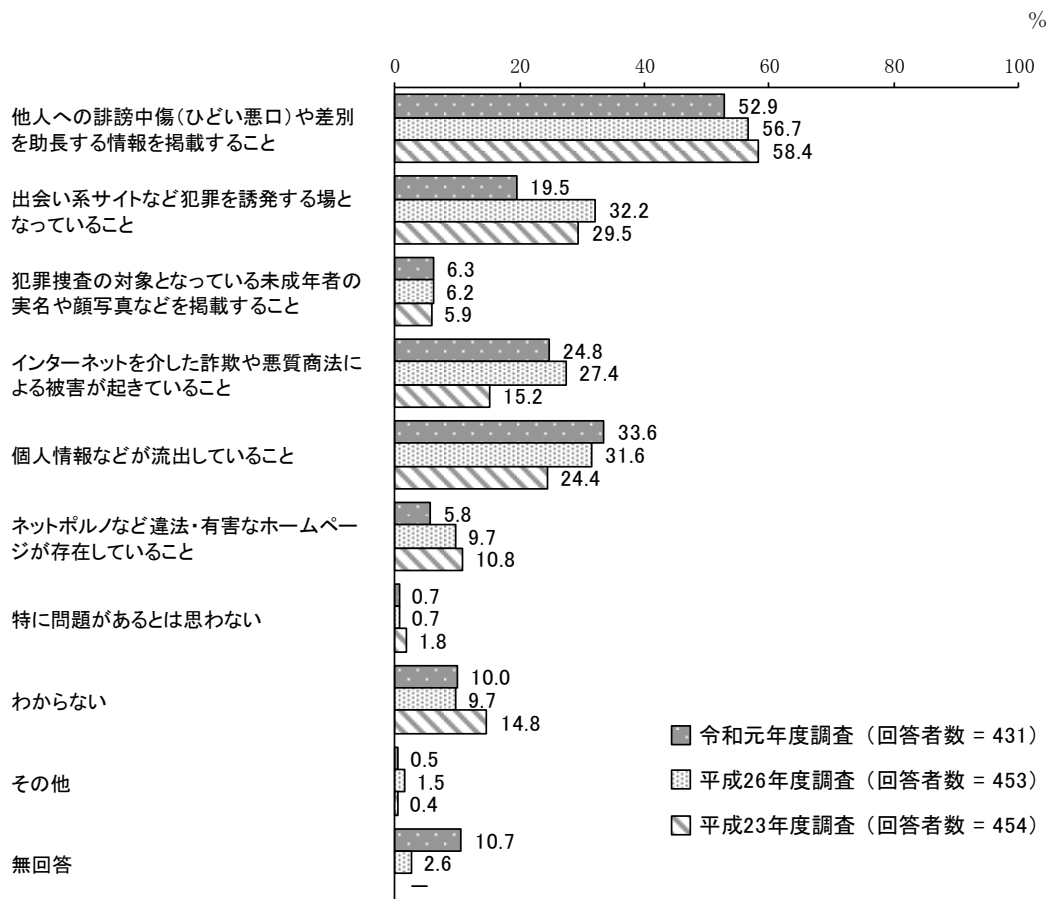
区分	回答者数(件)	障がい者の人権に関する相談体制を充実させる	障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する	障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する	障がい者の就労機会を確保する	障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する	障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する	福祉サービスの拡充や入所施設を整備する	障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する	障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	障がいがある人となし人との交流を促進する	障がい者の就労機会を確保する	障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する	障がい者の就労機会を確保する	障がいがある人となし人との交流を促進する	障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	特に必要なと思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	18.2	15.2	30.3	9.1	21.2	45.5	24.2	42.4	—	12.1	3.0	—							
30歳代	51	11.8	19.6	25.5	11.8	19.6	41.2	29.4	43.1	2.0	9.8	2.0	2.0							
40歳代	59	16.9	5.1	40.7	10.2	18.6	32.2	18.6	32.2	3.4	8.5	1.7	5.1							
50歳代	81	22.2	14.8	37.0	11.1	16.0	37.0	29.6	29.6	—	7.4	1.2	4.9							
60歳代	96	26.0	21.9	43.8	10.4	10.4	40.6	15.6	32.3	4.2	7.3	3.1	5.2							
70歳以上	107	28.0	15.9	39.3	14.0	9.3	28.0	16.8	34.6	1.9	11.2	—	6.5							

(7) インターネットによる人権侵害について

問 20 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「他人への誹謗中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「個人情報などが流出していること」の割合が 33.6%、「インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること」の割合が 24.8%となっています。

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から「個人情報などが流出していること」の割合は増加している一方、「他人への誹謗中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」の割合は減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」「個人情報などが流出していること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	他人への誹謗中傷や差別を助長する情報を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	犯罪捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などを掲載すること	詐欺や悪質商法による被害が起きていること	インターネットを介した個人情報などが流出していること	ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在していること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	54.6	16.0	6.7	27.3	30.4	6.2	1.0	10.8	—	10.3
女性	231	52.4	22.5	6.1	23.4	36.8	5.6	0.4	9.1	0.9	10.0

【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「個人情報などが流出していること」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、40歳代、50歳代で「他人への誹謗中傷や差別を助長する情報を掲載すること」の割合が高くなっています。

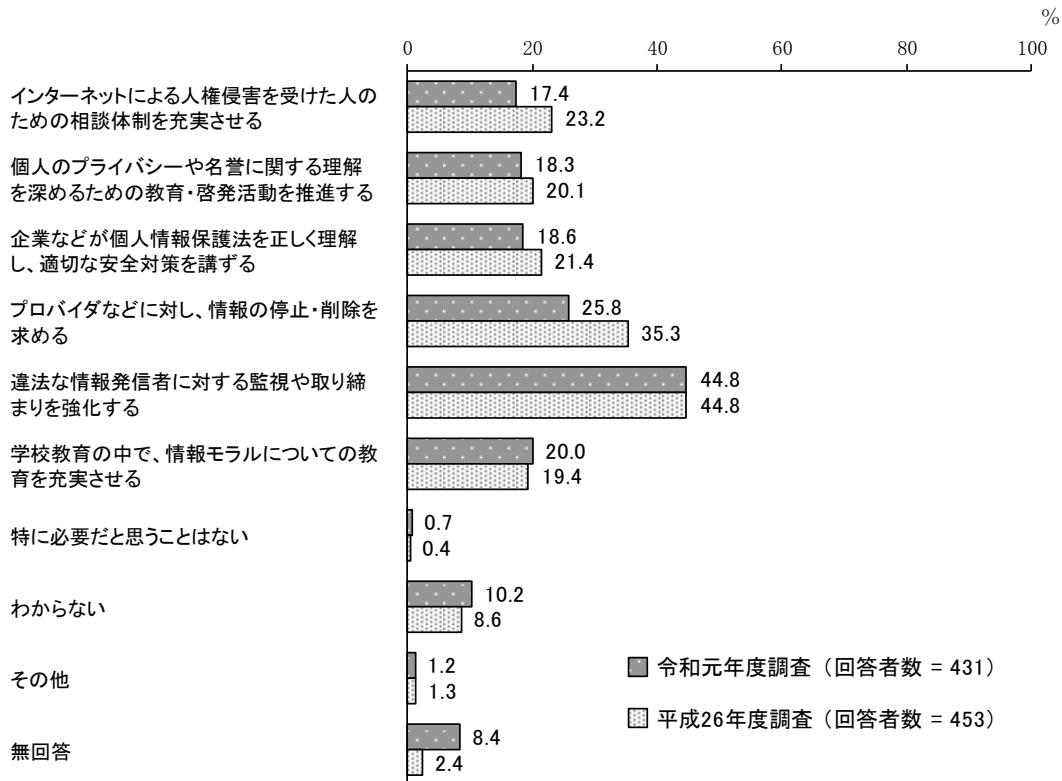
単位：％

区分	回答者数(件)	他人への誹謗中傷や差別を助長する情報を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	犯罪捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などを掲載すること	詐欺や悪質商法による被害が起きていること	インターネットを介した個人情報などが流出していること	ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在していること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	54.5	21.2	12.1	15.2	66.7	3.0	—	3.0	—	6.1
30歳代	51	60.8	19.6	5.9	23.5	56.9	5.9	—	5.9	—	2.0
40歳代	59	66.1	18.6	5.1	22.0	33.9	10.2	3.4	1.7	—	8.5
50歳代	81	64.2	13.6	3.7	30.9	30.9	3.7	—	3.7	—	14.8
60歳代	96	51.0	17.7	8.3	29.2	31.3	4.2	1.0	10.4	2.1	9.4
70歳以上	107	36.4	25.2	5.6	22.4	17.8	7.5	—	22.4	—	14.0

問 21 インターネットによる人権侵害を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。《○は2つまで》

「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」の割合が 25.8%、「学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる」の割合が 20.0%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる」「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる	個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	個人が個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる	企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる	プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める	違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する	学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	16.5	18.6	18.6	28.4	45.4	16.5	1.0	9.3	1.5	9.3	
女性	231	17.7	18.2	19.0	24.2	45.0	23.4	0.4	10.8	0.9	6.9	

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」の割合が高くなっています。50歳代で「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」の割合が、30歳代で「企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる」の割合が高くなっています。

単位：％

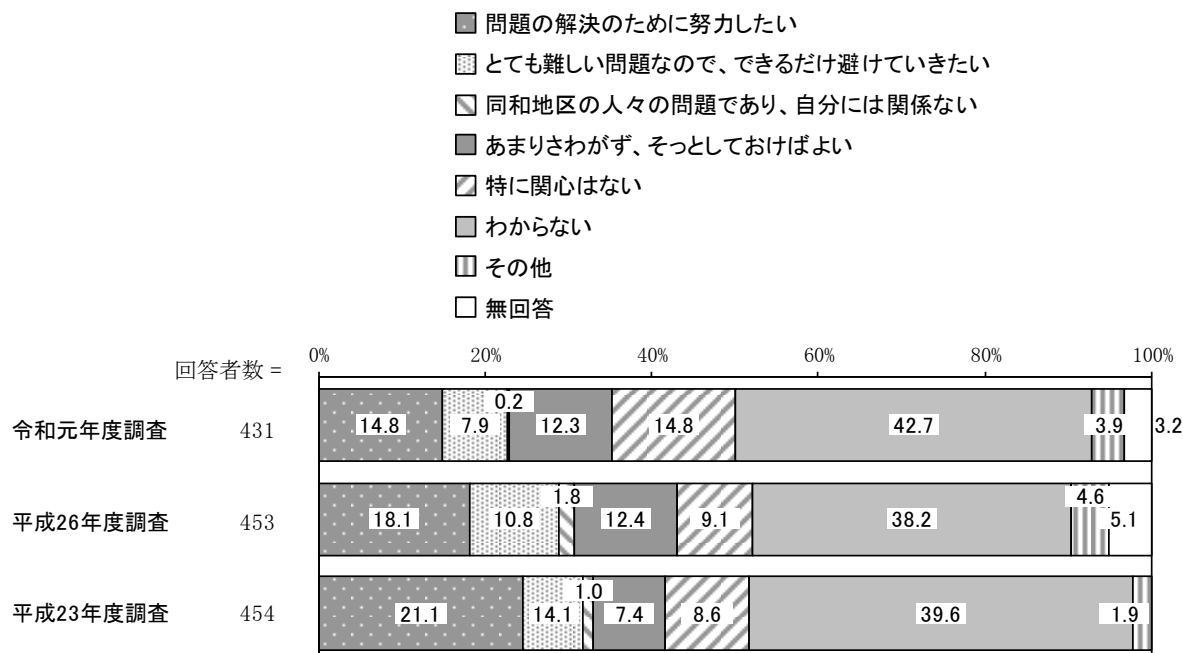
区分	回答者数(件)	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる	個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	個人が個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる	企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる	プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める	違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する	学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	9.1	30.3	30.3	15.2	42.4	39.4	—	—	3.0	6.1	
30歳代	51	11.8	13.7	39.2	29.4	45.1	29.4	—	5.9	2.0	3.9	
40歳代	59	18.6	28.8	13.6	23.7	54.2	16.9	3.4	1.7	—	5.1	
50歳代	81	16.0	17.3	16.0	42.0	48.1	13.6	—	3.7	3.7	9.9	
60歳代	96	25.0	14.6	18.8	28.1	45.8	14.6	1.0	10.4	—	8.3	
70歳以上	107	15.9	15.0	10.3	15.0	37.4	21.5	—	24.3	—	11.2	

(8) 同和問題について

問 22 同和問題について、あなたはどのように考えますか。《○は1つだけ》

「わからない」の割合が42.7%と最も高く、次いで「問題の解決のために努力したい」、「特に興味はない」の割合が14.8%となっています。

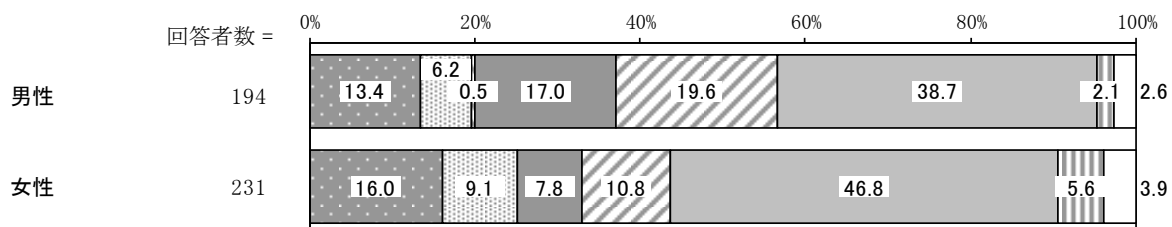
過去の調査と比較すると、「特に興味はない」の割合は増加しており、「問題の解決のために努力したい」の割合は減少しています。



※平成23年度調査のみの選択肢「基本的な人権に関わる問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う」のグラフ表記なし。

【性別】

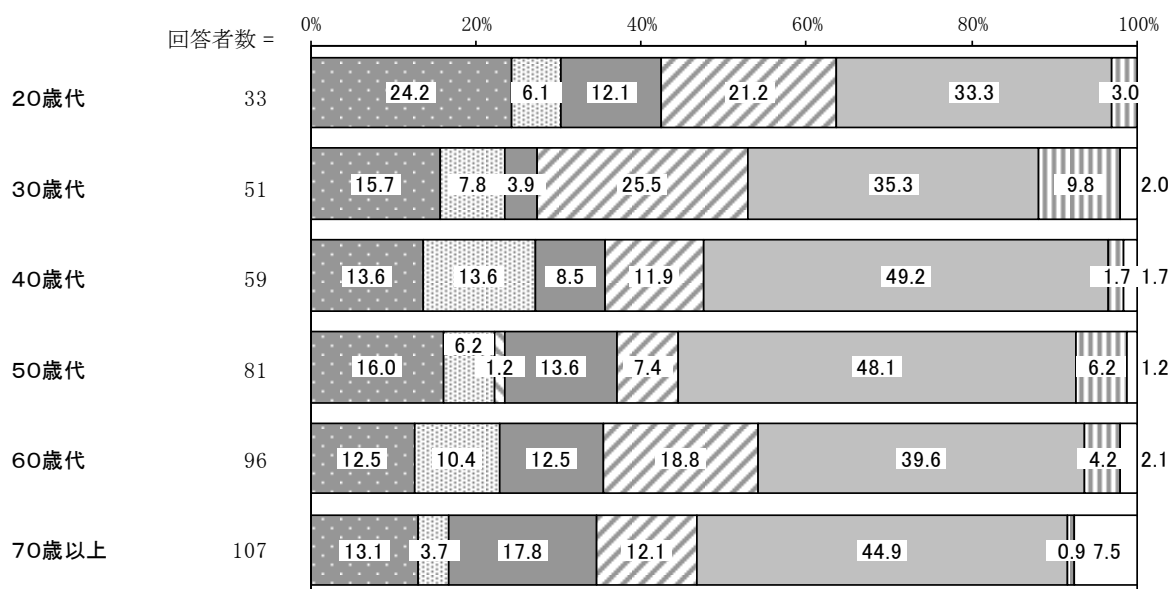
性別で見ると、女性に比べ、男性で「あまりさわがず、そっとしておけばよい」「特に興味はない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「問題の解決のために努力したい」の割合が、30歳代で「特に興味はない」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「あまりさわがず、そっとしておけばよい」の割合が高くなっています。

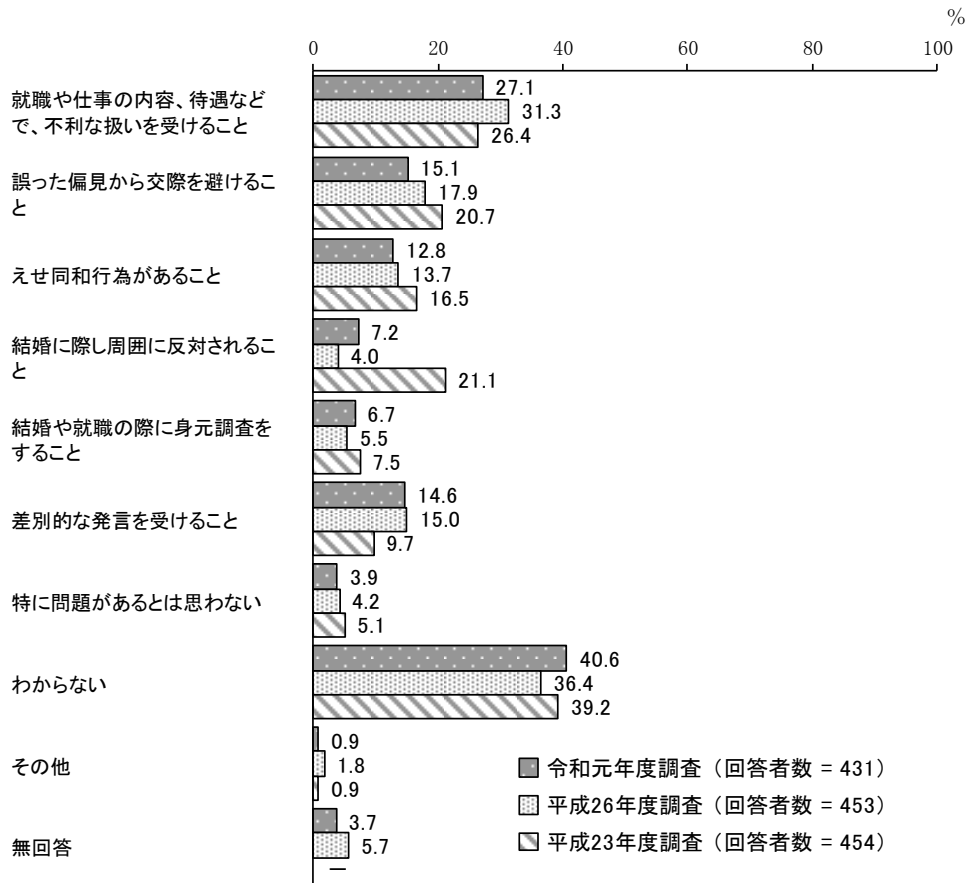
- 問題の解決のために努力したい
- ▨ とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい
- ▩ 同和地区の人々の問題であり、自分には関係ない
- あまりさわがず、そっとしておけばよい
- ▨ 特に興味はない
- わからない
- ▨ その他
- 無回答



問 23 同和問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 ≪○は2つまで≫

「わからない」の割合が40.6%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が27.1%、「誤った偏見から交際を避けること」の割合が15.1%となっています。

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「誤った偏見から交際を避けること」「えせ同和行為があること」の割合は減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「えせ同和行為があること」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「結婚や就職の際に身元調査をすること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	誤った偏見から交際を避けること	えせ同和行為があること	結婚に際し周囲に反対されること	結婚や就職の際に身元調査をすること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	26.3	16.0	17.0	7.7	3.6	13.9	6.2	37.6	1.0	4.1
女性	231	27.3	13.9	9.5	6.9	9.5	15.6	2.2	43.3	0.9	3.5

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。また、20歳代、30歳代で「差別的な発言を受けること」の割合が、30歳代で「誤った偏見から交際を避けること」の割合が高くなっています。

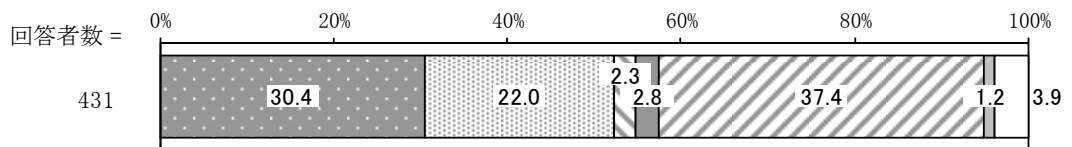
単位：％

区分	回答者数（件）	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	誤った偏見から交際を避けること	えせ同和行為があること	結婚に際し周囲に反対されること	結婚や就職の際に身元調査をすること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	36.4	9.1	6.1	9.1	9.1	21.2	—	48.5	—	—
30歳代	51	21.6	23.5	11.8	7.8	7.8	21.6	7.8	37.3	2.0	2.0
40歳代	59	27.1	10.2	11.9	6.8	11.9	13.6	5.1	40.7	1.7	1.7
50歳代	81	30.9	17.3	14.8	3.7	8.6	14.8	2.5	35.8	2.5	4.9
60歳代	96	32.3	15.6	14.6	10.4	5.2	13.5	5.2	35.4	—	2.1
70歳以上	107	18.7	14.0	13.1	6.5	2.8	11.2	2.8	48.6	—	6.5

問 24 あなたのお子さんが（いらっしゃらない場合は、いると仮定してお考えください）、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどのようにしますか。
 ≪○は1つだけ≫

「わからない」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」の割合が 30.4%、「自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める」の割合が 22.0%となっています。

- 同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する
- ▨ 自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める
- ▩ 家族・親戚などの反対があれば、認めない
- 自分は反対であり、絶対に認めない
- わからない
- その他
- 無回答



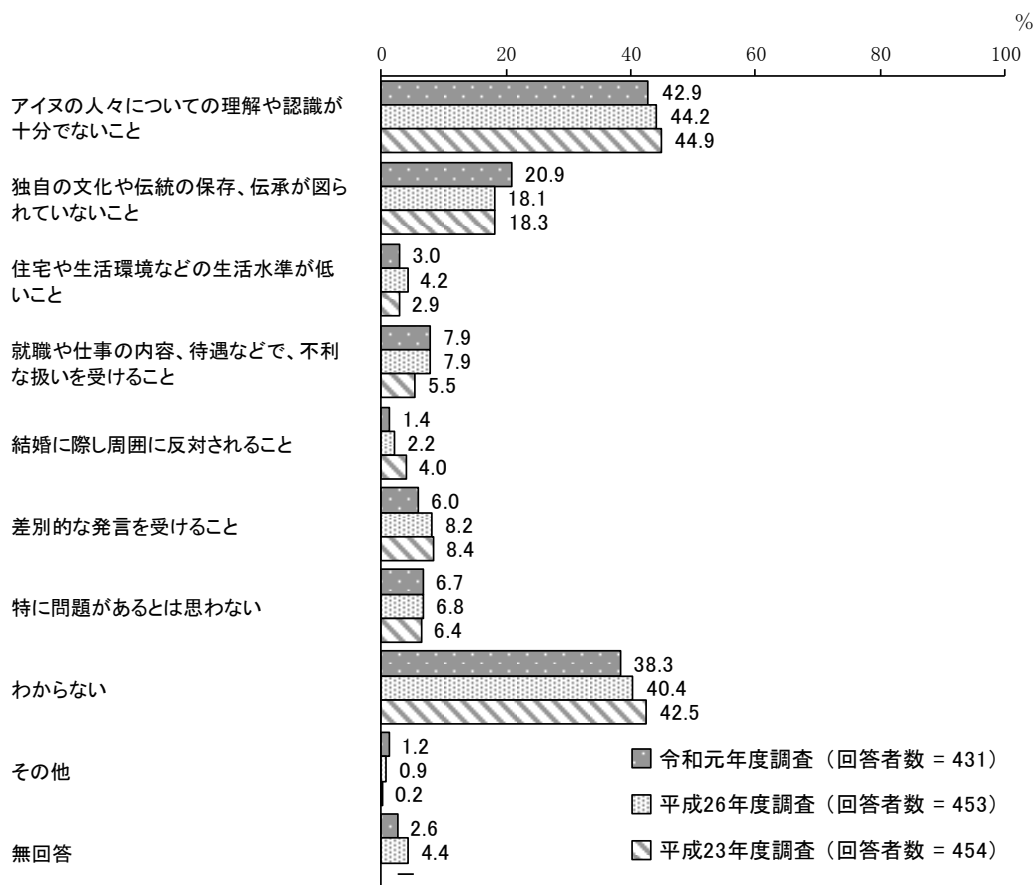
※令和元年度調査のみ。

(9) アイヌの人々の人権について

問 25 アイヌの人々の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 38.3%、「独自の文化や伝統の保存、伝承が図られていないこと」の割合が 20.9%となっています。

過去の調査と比較すると、平成 23 年度調査から大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「独自の文化や伝統の保存、伝承が図られていないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと	独自の文化や伝統の保存、伝承が図られていないこと	住宅や生活環境などの生活水準が低いこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	43.8	24.7	3.6	7.7	0.5	5.2	8.2	35.1	1.5	2.6
女性	231	42.0	17.3	2.6	7.8	2.2	6.5	5.6	41.6	0.9	2.2

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、40歳代で「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」の割合が高くなっています。また、30歳代で「差別的な発言を受けること」の割合が高くなっています。

単位：％

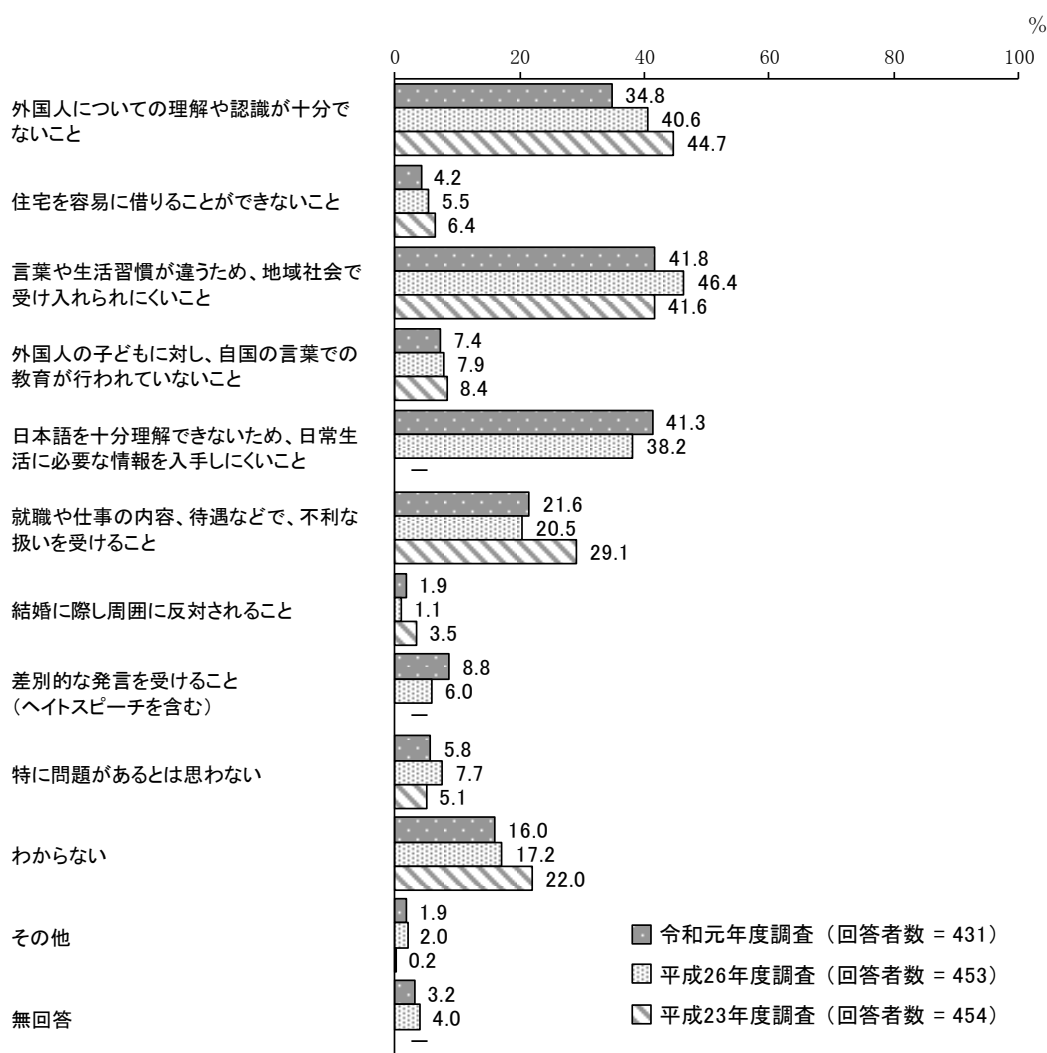
区分	回答者数(件)	アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと	独自の文化や伝統の保存、伝承が図られていないこと	住宅や生活環境などの生活水準が低いこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	51.5	21.2	—	6.1	—	3.0	3.0	39.4	—	—
30歳代	51	31.4	21.6	2.0	5.9	2.0	15.7	5.9	43.1	—	3.9
40歳代	59	49.2	22.0	6.8	6.8	—	5.1	8.5	32.2	3.4	—
50歳代	81	44.4	19.8	2.5	4.9	—	7.4	4.9	43.2	1.2	1.2
60歳代	96	44.8	25.0	4.2	11.5	1.0	5.2	7.3	36.5	1.0	1.0
70歳以上	107	39.3	16.8	1.9	9.3	3.7	2.8	8.4	38.3	0.9	4.7

(10) 外国人の人権について

問 26 日本に居住する外国人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は3つまで》

「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が41.8%と最も高く、次いで「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」の割合が41.3%、「外国人についての理解や認識が十分でないこと」の割合が34.8%となっています。

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「外国人についての理解や認識が十分でないこと」の割合は減少しています。



※「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」「差別的な発言を受けること (ヘイトスピーチを含む)」の選択肢は、令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	外国人についての理解や認識が十分でないこと	住宅を容易に借りることができないこと	言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと	外国人の子どもに対し、自国の言葉での教育が行われていないこと	日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること(ヘイトスピーチを含む)	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	36.1	3.1	45.9	8.2	42.3	20.6	2.6	9.8	7.7	11.3	1.5	3.1
女性	231	32.9	4.8	38.1	6.5	40.3	22.9	1.3	8.2	4.3	20.3	2.2	3.0

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」の割合が高くなっています。また、20歳代、30歳代で「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が高くなっています。

単位：％

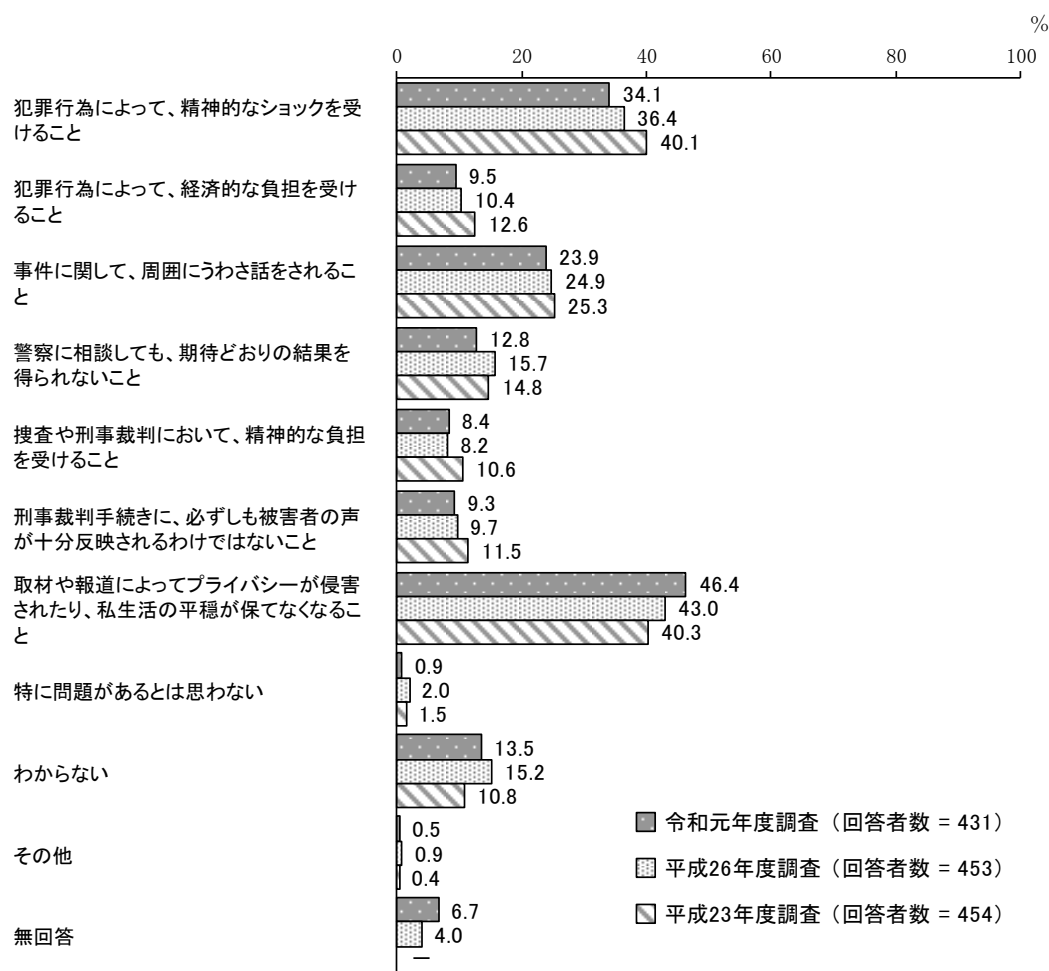
区分	回答者数(件)	外国人についての理解や認識が十分でないこと	住宅を容易に借りることができないこと	言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと	外国人の子どもに対し、自国の言葉での教育が行われていないこと	日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること(ヘイトスピーチを含む)	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	39.4	9.1	48.5	9.1	57.6	30.3	6.1	12.1	—	6.1	—	—
30歳代	51	17.6	5.9	49.0	13.7	39.2	25.5	2.0	15.7	5.9	13.7	2.0	3.9
40歳代	59	40.7	1.7	35.6	6.8	42.4	27.1	—	8.5	8.5	11.9	5.1	—
50歳代	81	39.5	2.5	34.6	4.9	32.1	18.5	1.2	11.1	6.2	22.2	1.2	1.2
60歳代	96	36.5	5.2	45.8	6.3	47.9	25.0	2.1	9.4	7.3	13.5	2.1	1.0
70歳以上	107	32.7	2.8	42.1	7.5	38.3	14.0	1.9	2.8	4.7	20.6	0.9	7.5

(11) 犯罪被害者とその家族の人権について

問 27 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること」の割合が46.4%と最も高く、次いで「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」の割合が34.1%、「事件に関して、周囲にうわさ話をされること」の割合が23.9%となっています。

過去の調査と比較すると、平成23年度調査から「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること」の割合は増加しており、「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」「犯罪行為によって、経済的な負担を受けること」の割合は減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「犯罪行為によって、経済的な負担を受けること」「警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	犯罪行為によって、精神的なショックを受けること	犯罪行為によって、経済的な負担を受けること	事件に関して、周囲にうわさをされること	警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと	捜査や刑事裁判において、精神的な負担を受けること	刑事裁判手続きに、必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと	取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなる	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	34.5	12.4	22.2	16.5	7.2	10.8	46.4	1.5	9.8	1.0	6.7
女性	231	34.2	6.9	24.7	9.5	9.5	8.2	46.3	0.4	16.9	—	6.5

【年代別】

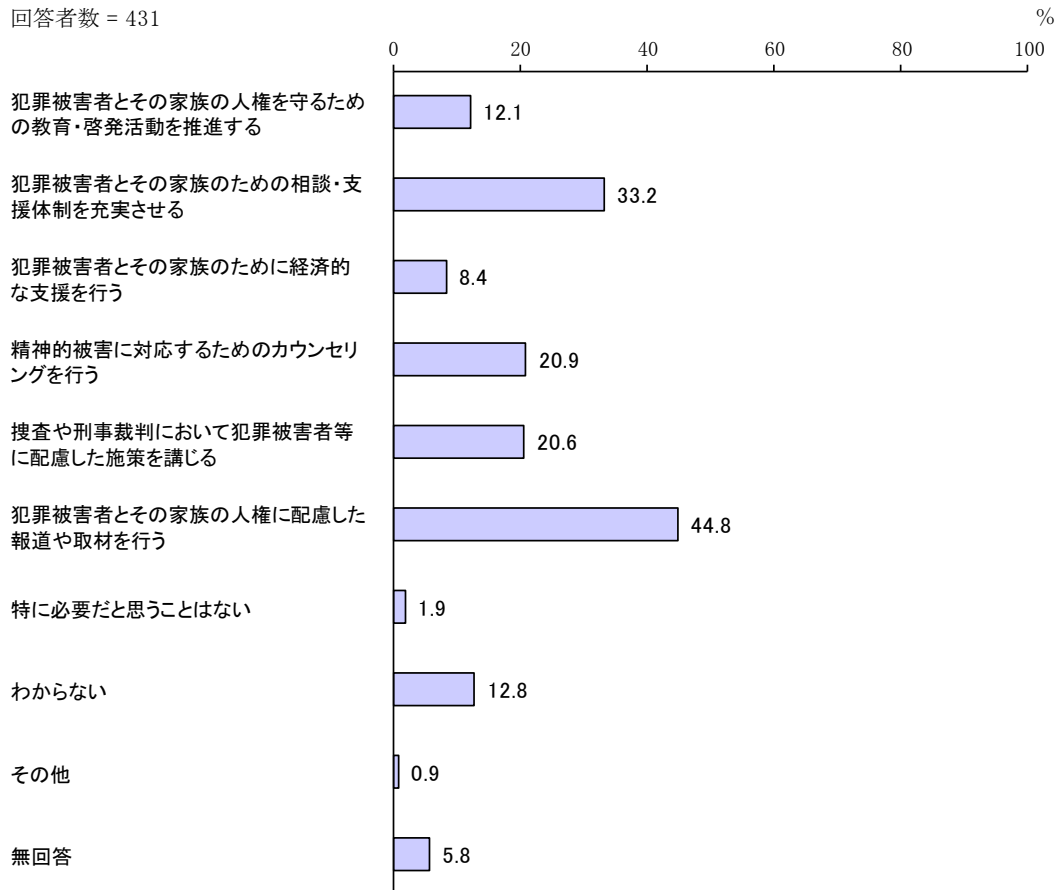
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなる」の割合が高くなっています。また、40歳代で「警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	犯罪行為によって、精神的なショックを受けること	犯罪行為によって、経済的な負担を受けること	事件に関して、周囲にうわさをされること	警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと	捜査や刑事裁判において、精神的な負担を受けること	刑事裁判手続きに、必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと	取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなる	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	30.3	3.0	30.3	12.1	15.2	9.1	54.5	—	12.1	—	3.0
30歳代	51	35.3	13.7	31.4	17.6	7.8	9.8	43.1	2.0	9.8	2.0	3.9
40歳代	59	39.0	10.2	23.7	22.0	8.5	11.9	45.8	1.7	3.4	1.7	6.8
50歳代	81	39.5	8.6	25.9	7.4	8.6	8.6	48.1	—	12.3	—	7.4
60歳代	96	38.5	10.4	19.8	16.7	9.4	10.4	47.9	1.0	12.5	—	3.1
70歳以上	107	24.3	8.4	21.5	6.5	5.6	7.5	43.9	0.9	23.4	—	10.3

問 28 犯罪被害者とその家族の人権を尊重するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。《○は2つまで》

「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」の割合が44.8%と最も高く、次いで「犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる」の割合が33.2%、「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」の割合が20.9%となっています。

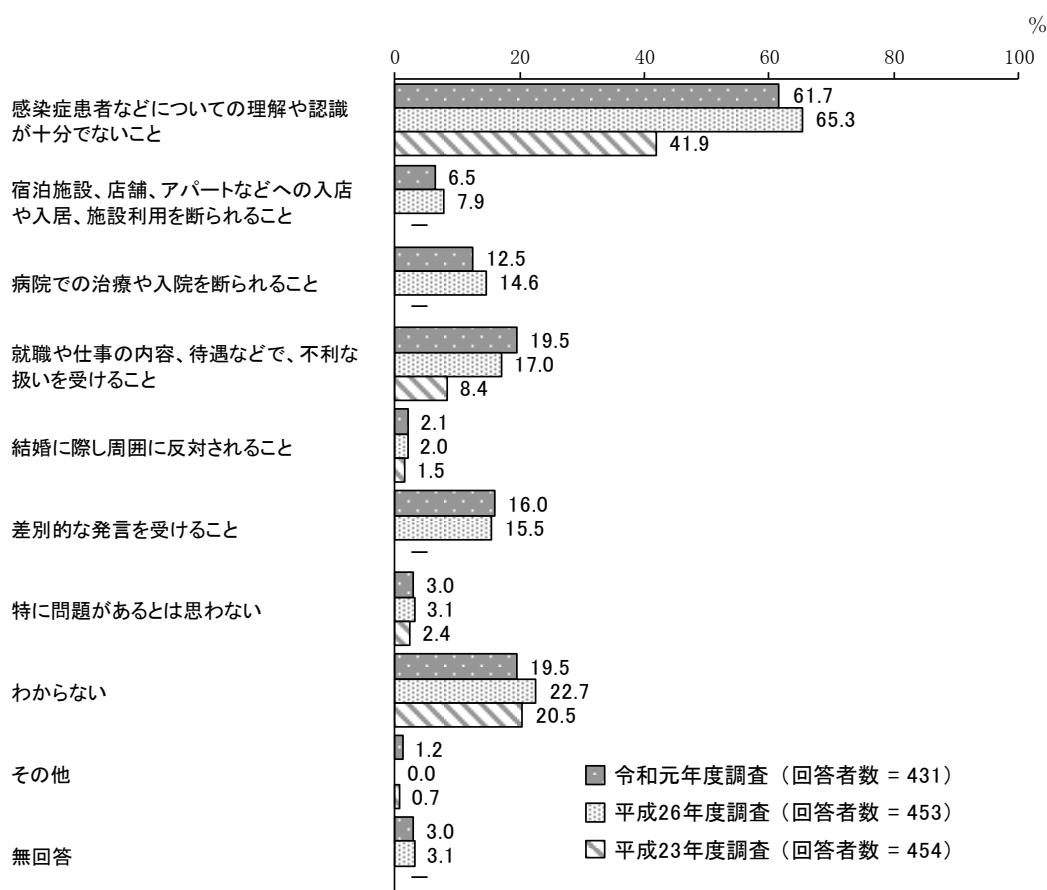


(12) 感染症患者などの人権について

問 29 感染症患者などの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」の割合が61.7%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」、「わからない」の割合が19.5%となっています。

過去の調査と比較すると、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合は増加しています。



※ 「宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること」「病院での治療や入院を断られること」「差別的な発言を受けること」の選択肢は、令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「病院での治療や入院を断られること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと	宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること	病院での治療や入院を断られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	60.3	6.7	9.3	23.7	1.0	15.5	4.1	20.6	1.0	3.1
女性	231	62.8	6.1	15.2	15.6	3.0	16.9	2.2	18.2	1.3	3.0

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代から60歳代で「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

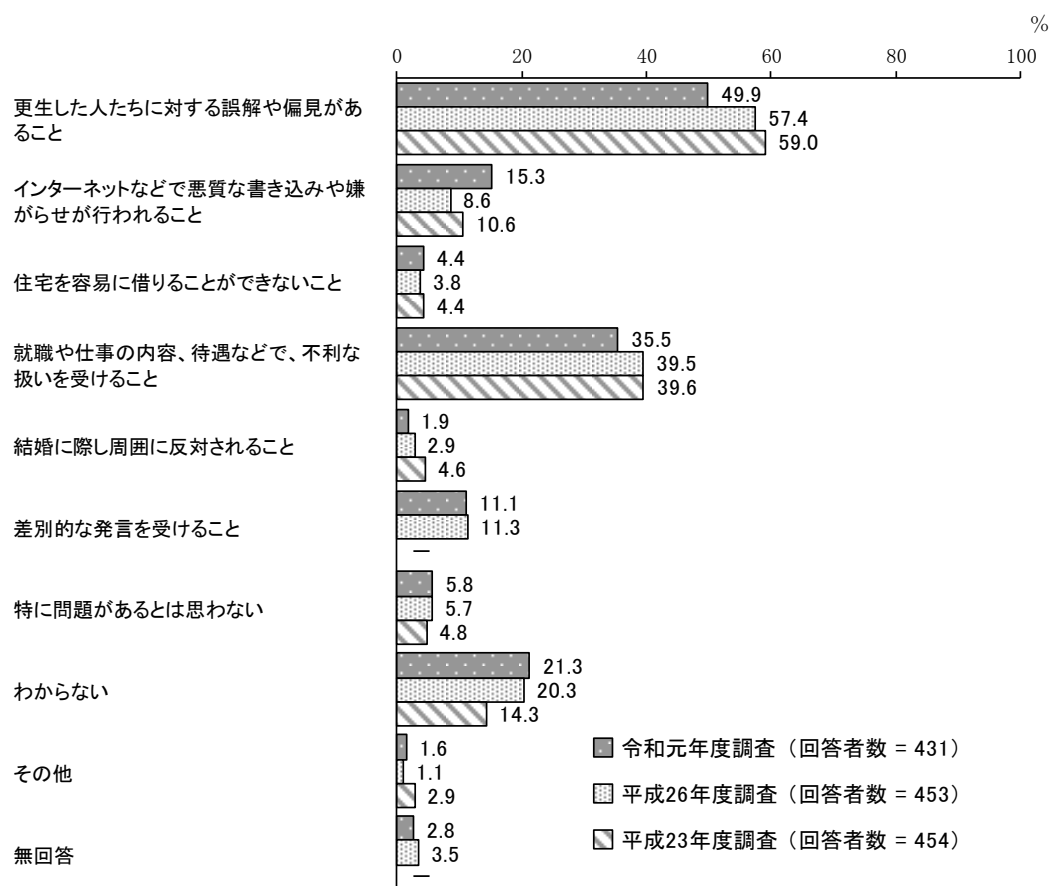
区分	回答者数(件)	感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと	宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること	病院での治療や入院を断られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	45.5	6.1	15.2	12.1	3.0	21.2	—	33.3	—	—
30歳代	51	58.8	7.8	15.7	13.7	2.0	15.7	5.9	17.6	5.9	2.0
40歳代	59	67.8	5.1	11.9	18.6	1.7	15.3	5.1	20.3	—	—
50歳代	81	65.4	1.2	6.2	22.2	1.2	18.5	1.2	18.5	—	4.9
60歳代	96	68.8	9.4	15.6	25.0	1.0	18.8	1.0	13.5	1.0	1.0
70歳以上	107	56.1	7.5	13.1	17.8	3.7	11.2	4.7	21.5	0.9	5.6

(13) 刑を終えて出所した人の人権について

問 30 罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会復帰を図ろうとした場合、どのような問題があると思いますか。《○は2つまで》

「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が 49.9%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が 35.5%、「わからない」の割合が 21.3%となっています。

過去の調査と比較すると、「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合は減少しています。



※「差別的な発言を受けること」の選択肢は、令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	更生した人たちに対する誤解や偏見があること	インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること	住宅を容易に借りることができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	48.5	17.5	4.1	37.6	0.5	11.9	7.2	17.5	2.6	2.6
女性	231	50.6	13.4	4.8	32.9	3.0	10.4	4.8	24.7	0.9	3.0

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、60歳代で「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が高くなっています。また、20歳代、60歳代で「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。

単位：％

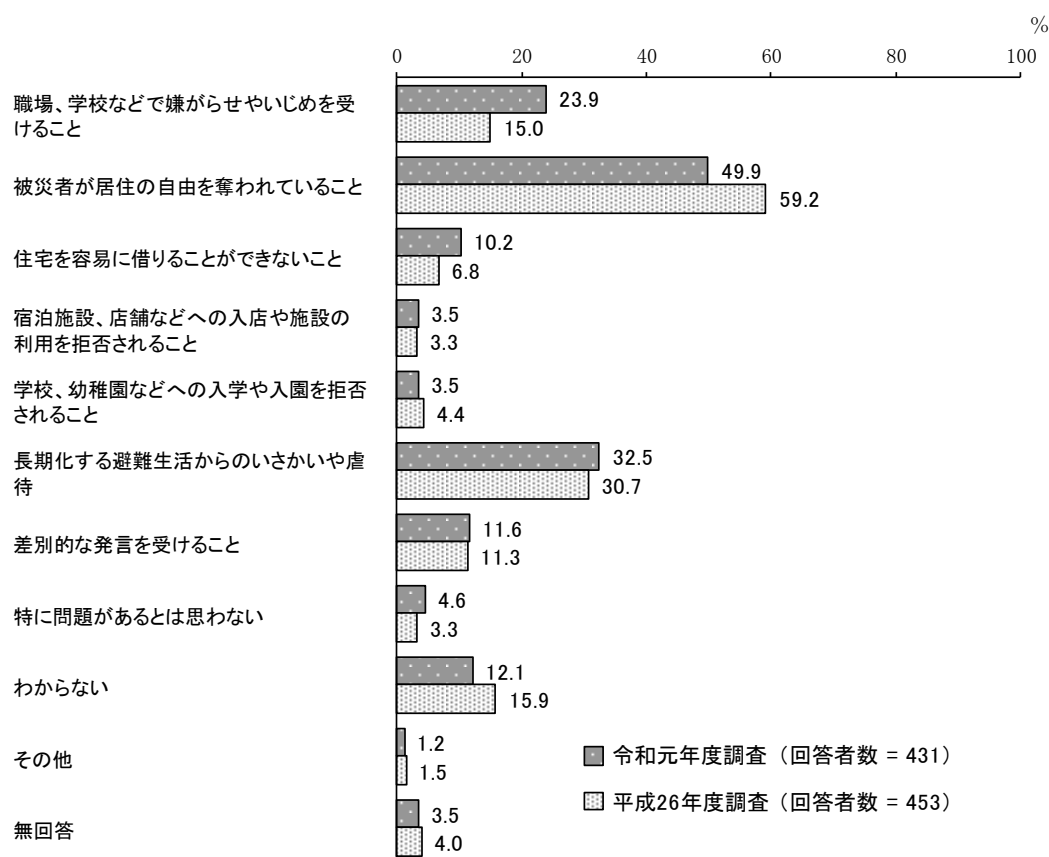
区分	回答者数(件)	更生した人たちに対する誤解や偏見があること	インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること	住宅を容易に借りることができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	51.5	3.0	9.1	42.4	3.0	12.1	9.1	18.2	—	3.0
30歳代	51	43.1	23.5	3.9	29.4	2.0	7.8	13.7	17.6	2.0	2.0
40歳代	59	42.4	23.7	3.4	27.1	1.7	11.9	6.8	25.4	—	—
50歳代	81	46.9	12.3	2.5	30.9	—	12.3	3.7	27.2	4.9	3.7
60歳代	96	58.3	14.6	4.2	43.8	1.0	10.4	6.3	14.6	2.1	1.0
70歳以上	107	51.4	13.1	5.6	37.4	3.7	12.1	1.9	23.4	—	4.7

(14) 災害時の人権問題について

問 31 東日本大震災（原子力発電所の事故も含む）や熊本地震などの大規模災害により被災した人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が 49.9%と最も高く、次いで「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」の割合が 32.5%、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合が 23.9%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合が増加し、「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」「特に問題があるとは思わない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	被災者が居住の自由を奪われていること	住宅を容易に借りることができないこと	宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否されること	学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること	長期化する避難生活からのいさかいや虐待	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	23.7	47.9	7.7	4.6	2.6	36.1	11.3	8.2	11.3	1.0	2.1
女性	231	23.8	51.1	12.1	2.6	4.3	29.9	12.1	1.7	12.6	1.3	4.8

【年代別】

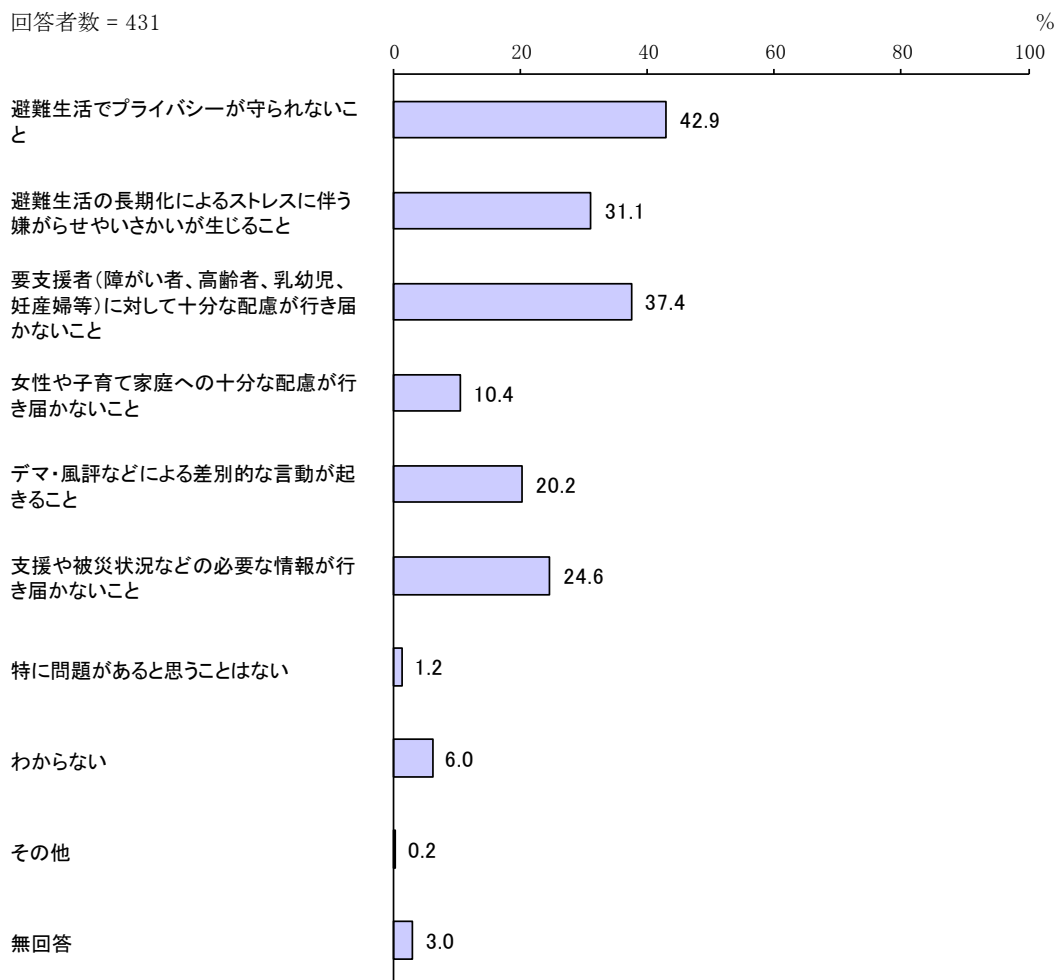
年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で「被災者が居住の自由を奪われていること」「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」の割合が高くなっています。また、40歳代で「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	被災者が居住の自由を奪われていること	住宅を容易に借りることができないこと	宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否されること	学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること	長期化する避難生活からのいさかいや虐待	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	27.3	39.4	9.1	6.1	9.1	36.4	6.1	—	15.2	—	6.1
30歳代	51	17.6	49.0	7.8	5.9	9.8	41.2	17.6	5.9	7.8	—	—
40歳代	59	37.3	49.2	5.1	3.4	—	28.8	16.9	6.8	8.5	3.4	—
50歳代	81	16.0	58.0	7.4	—	—	44.4	8.6	1.2	11.1	1.2	4.9
60歳代	96	33.3	47.9	15.6	4.2	4.2	28.1	11.5	5.2	9.4	2.1	2.1
70歳以上	107	15.9	49.5	12.1	3.7	2.8	25.2	10.3	6.5	17.8	—	5.6

問 32 東日本大震災、熊本地震などの大規模災害が起きた場合、どのような人権問題が起きると思いますか。《○は2つまで》

「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が42.9%と最も高く、次いで「要支援者（障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等）に対して十分な配慮が行き届かないこと」の割合が37.4%、「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じること」の割合が31.1%となっています。



※令和元年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「避難生活でプライバシーが守られないこと」「支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと」「デマ・風評などによる差別的な言動が起きること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかが生じること	十分な配慮が行き届かないこと	要支援者(障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等)に対して十分な配慮が行き届かないこと	女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと	デマ・風評などによる差別的な言動が起きること	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	37.1	32.0	37.1	13.4	24.2	19.6	2.6	6.2	—	3.1	
女性	231	47.2	30.3	37.7	7.8	17.3	29.4	—	5.6	0.4	3.0	

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、40歳代で「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が高くなっています。

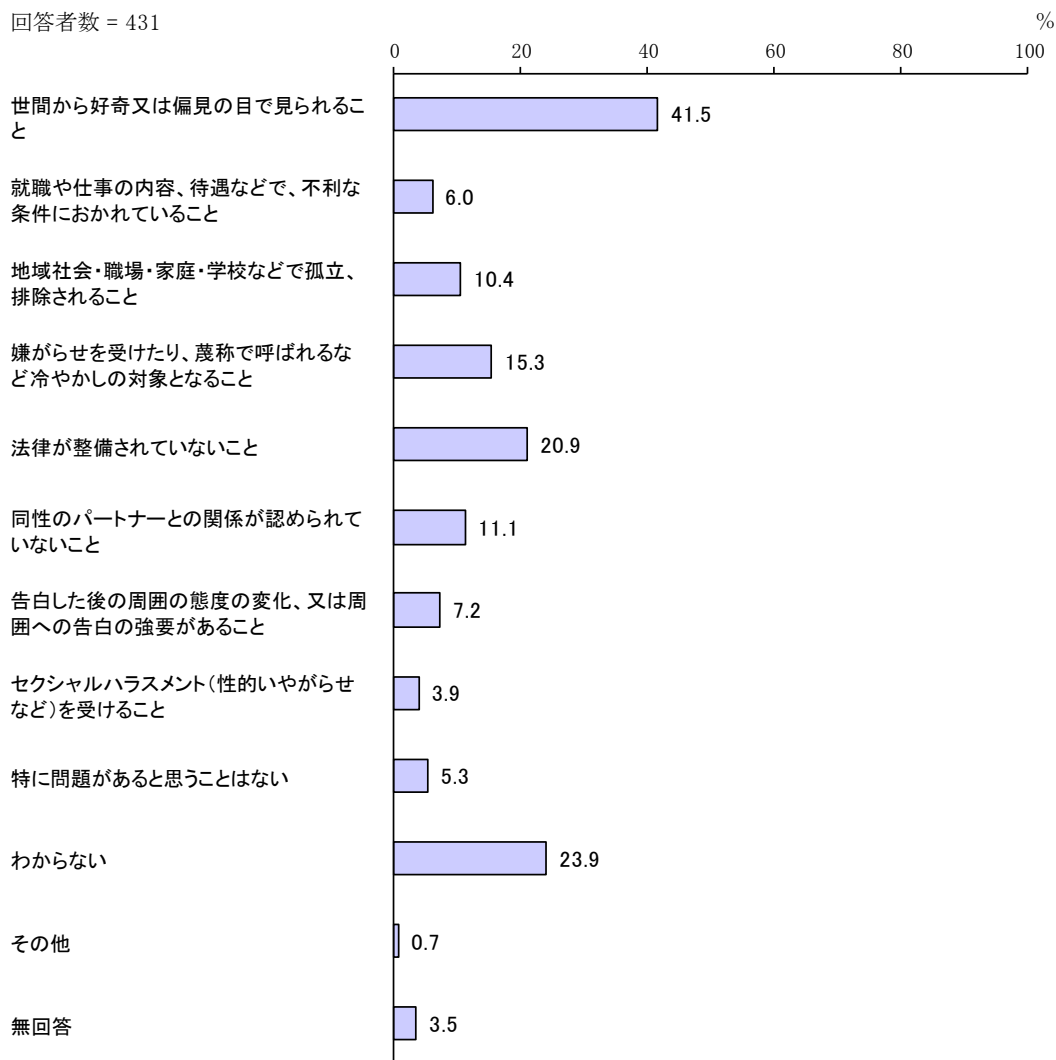
単位：％

区分	有効回答数(件)	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかが生じること	十分な配慮が行き届かないこと	要支援者(障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等)に対して十分な配慮が行き届かないこと	女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと	デマ・風評などによる差別的な言動が起きること	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	54.5	24.2	27.3	21.2	27.3	30.3	—	3.0	—	3.0	
30歳代	51	39.2	29.4	39.2	11.8	23.5	35.3	2.0	5.9	2.0	—	
40歳代	59	50.8	23.7	35.6	13.6	30.5	20.3	1.7	5.1	—	—	
50歳代	81	44.4	32.1	29.6	9.9	21.0	19.8	—	6.2	—	7.4	
60歳代	96	40.6	37.5	40.6	6.3	17.7	29.2	3.1	4.2	—	—	
70歳以上	107	37.4	31.8	44.9	9.3	13.1	20.6	—	8.4	—	4.7	

(15) 性的指向の異なる人（同性愛、両性愛など）の人権について

問 33 性的指向の異なる人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「世間から好奇又は偏見の目で見られること」の割合が41.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が23.9%、「法律が整備されていないこと」の割合が20.9%となっています。



※令和元年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	世間から好奇又は偏見の目で見られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること	地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること	嫌がらせを受けたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること	法律が整備されていないこと	同性のパートナーとの関係が認められていないこと	告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること	セクシャルハラスメント(性的いやがらせなど)を受けること	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	42.3	5.2	11.3	16.5	18.6	11.3	5.2	4.6	7.7	24.2	1.0	2.6
女性	231	40.7	6.9	10.0	13.0	22.9	11.3	9.1	3.5	3.5	23.8	0.4	3.9

【年代別】

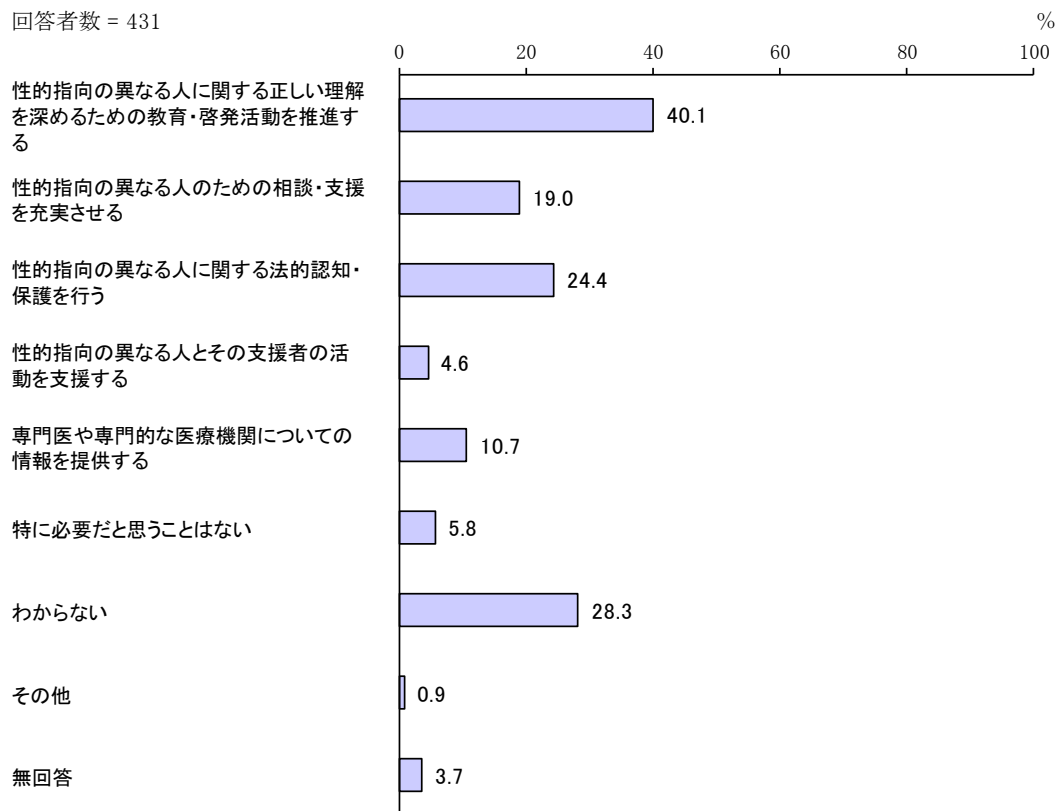
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「嫌がらせを受けたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること」の割合が、40歳代で「世間から好奇又は偏見の目で見られること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	世間から好奇又は偏見の目で見られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること	地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること	嫌がらせを受けたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること	法律が整備されていないこと	同性のパートナーとの関係が認められていないこと	告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること	セクシャルハラスメント(性的いやがらせなど)を受けること	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	36.4	3.0	6.1	39.4	18.2	30.3	15.2	—	3.0	15.2	—	3.0
30歳代	51	43.1	5.9	11.8	15.7	19.6	21.6	13.7	5.9	9.8	11.8	2.0	2.0
40歳代	59	57.6	8.5	11.9	16.9	25.4	8.5	6.8	5.1	6.8	11.9	—	—
50歳代	81	43.2	7.4	12.3	9.9	21.0	2.5	4.9	1.2	4.9	30.9	1.2	3.7
60歳代	96	41.7	8.3	12.5	15.6	26.0	14.6	5.2	4.2	4.2	17.7	1.0	1.0
70歳以上	107	32.7	2.8	7.5	10.3	15.9	5.6	5.6	5.6	4.7	39.3	—	6.5

問 34 性的指向の異なる人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。《○は2つまで》

「性的指向の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」の割合が40.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.3%、「性的指向の異なる人に関する法的認知・保護を行う」の割合が24.4%となっています。



※令和元年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「性的指向の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」「性的指向の異なる人のための相談・支援を充実させる」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「性的指向の異なる人とその支援者の活動を支援する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	性的指向の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	性的指向の異なる人のための相談・支援を充実させる	性的指向の異なる人に関する法的認知・保護を行う	性的指向の異なる人とその支援者の活動を支援する	専門医や専門的な医療機関についての情報を提供する	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答
男性	194	36.1	16.0	26.8	8.2	9.3	8.2	28.4	1.5	3.6
女性	231	43.3	21.6	22.5	1.7	11.7	3.9	28.6	0.4	3.5

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、40歳代で「性的指向の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」の割合が高くなっています。また、30歳代で「特に必要だと思わない」の割合が高くなっています。

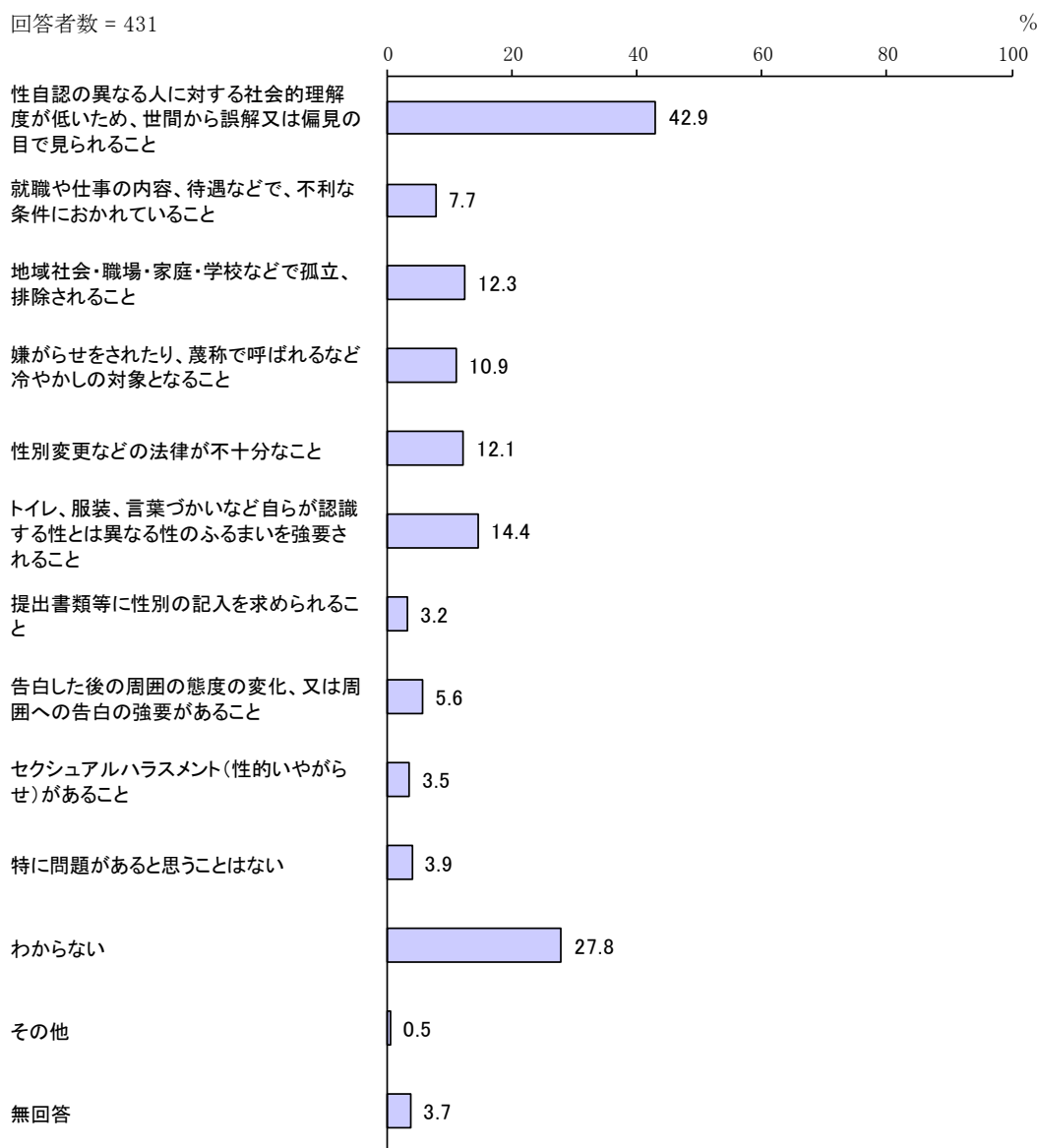
単位：％

区分	有効回答数（件）	性的指向の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	性的指向の異なる人のための相談・支援を充実させる	性的指向の異なる人に関する法的認知・保護を行う	性的指向の異なる人とその支援者の活動を支援する	専門医や専門的な医療機関についての情報を提供する	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	48.5	27.3	33.3	6.1	15.2	—	15.2	—	3.0
30歳代	51	41.2	17.6	29.4	3.9	19.6	11.8	15.7	2.0	3.9
40歳代	59	49.2	27.1	27.1	5.1	11.9	6.8	16.9	—	—
50歳代	81	39.5	11.1	22.2	3.7	9.9	3.7	34.6	2.5	3.7
60歳代	96	44.8	17.7	31.3	7.3	6.3	6.3	22.9	1.0	2.1
70歳以上	107	29.0	20.6	14.0	2.8	9.3	5.6	44.9	—	5.6

(16) 性自認の異なる人(「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態)の人権について

問 35 性自認の異なる人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「性自認の異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は偏見の目で見られること」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 27.8%、「トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること」の割合が 14.4%となっています。



※令和元年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「特に問題があると思うことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	性自認の異なる人に対する社会的理解度が低い目で見られること	性自認の異なる人に対する社会的理解度が低い目で見られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること	孤立、排除されること	地域社会・職場・家庭・学校などで	嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること	性別変更などの法律が不十分なこと	トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること	提出書類等に性別の記入を求められること	告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること	セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)があること	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	41.2	6.2	14.4	12.9	10.8	12.4	2.6	4.6	2.6	6.7	27.8	1.0	3.6		
女性	231	44.2	8.7	10.4	9.5	13.0	16.5	3.9	6.5	4.3	1.7	28.1	—	3.5		

【年代別】

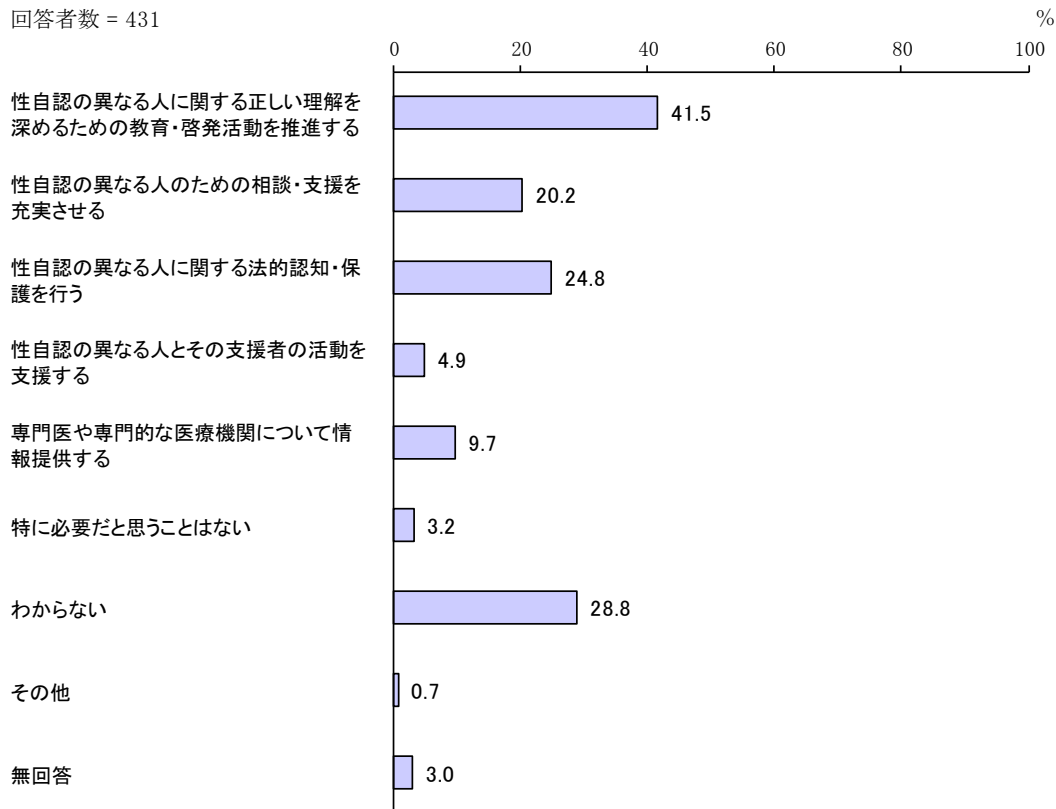
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「性自認の異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は偏見の目で見られること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	性自認の異なる人に対する社会的理解度が低い目で見られること	性自認の異なる人に対する社会的理解度が低い目で見られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること	孤立、排除されること	地域社会・職場・家庭・学校などで	嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること	性別変更などの法律が不十分なこと	トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること	提出書類等に性別の記入を求められること	告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること	セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)があること	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	57.6	—	9.1	24.2	15.2	24.2	3.0	12.1	6.1	—	6.1	—	—		
30歳代	51	37.3	2.0	13.7	19.6	23.5	23.5	3.9	3.9	5.9	7.8	13.7	2.0	2.0		
40歳代	59	42.4	10.2	11.9	15.3	11.9	20.3	6.8	10.2	3.4	6.8	18.6	—	1.7		
50歳代	81	46.9	11.1	9.9	6.2	7.4	11.1	2.5	3.7	1.2	2.5	32.1	1.2	4.9		
60歳代	96	53.1	11.5	14.6	10.4	11.5	16.7	4.2	5.2	5.2	3.1	20.8	—	1.0		
70歳以上	107	29.9	5.6	13.1	4.7	10.3	4.7	0.9	3.7	1.9	3.7	49.5	—	6.5		

問 36 性自認の異なる人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思えますか。《○は2つまで》

「性自認の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」の割合が41.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.8%、「性自認の異なる人に関する法的認知・保護を行う」の割合が24.8%となっています。



※令和元年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「特に必要だと思うことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	性自認の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	性自認の異なる人に関する相談・支援を充実させる	性自認の異なる人に関する法的認知・保護を行う	性自認の異なる人とその支援者の活動を支援する	専門医や専門的な医療機関について情報提供する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	40.2	22.2	26.3	4.6	8.8	6.2	28.4	1.0	2.6
女性	231	42.9	18.2	23.4	5.2	10.8	0.9	29.4	0.4	3.0

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「性自認の異なる人に関する法的認知・保護を行う」の割合が高くなっています。

単位：％

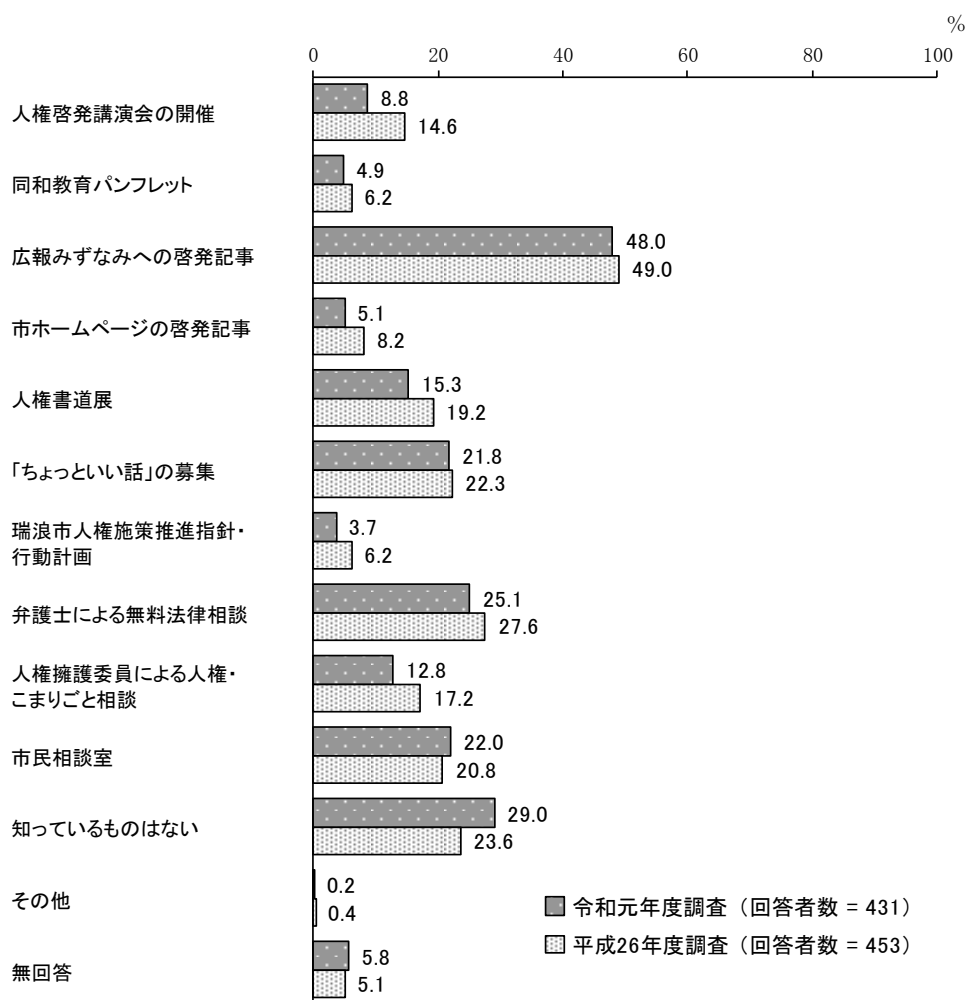
区分	有効回答数（件）	性自認の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	性自認の異なる人に関する相談・支援を充実させる	性自認の異なる人に関する法的認知・保護を行う	性自認の異なる人とその支援者の活動を支援する	専門医や専門的な医療機関について情報提供する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	51.5	18.2	60.6	3.0	12.1	—	6.1	—	—
30歳代	51	43.1	23.5	25.5	7.8	11.8	5.9	19.6	2.0	2.0
40歳代	59	45.8	23.7	27.1	8.5	15.3	5.1	18.6	—	—
50歳代	81	44.4	16.0	17.3	2.5	9.9	2.5	32.1	1.2	3.7
60歳代	96	45.8	24.0	30.2	7.3	7.3	3.1	22.9	1.0	1.0
70歳以上	107	29.9	17.8	14.0	1.9	7.5	2.8	48.6	—	5.6

(17) 人権教育・人権啓発の方法について

問 37 瑞浪市が行っている人権に関する取り組みについて、あなたが知っているものはどれですか。《○はいくつでも》

「広報みずなみへの啓発記事（ちょっといい話・人権書道展・人権週間など）」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「知っているものはない」の割合が 29.0%、「弁護士による無料法律相談」の割合が 25.1%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「知っているものはない」の割合が増加しているとともに「人権啓発講演会の開催」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「知っているものはない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「広報みずなみへの啓発記事」「人権書道展」「ちよっといい話」の募集」「弁護士による無料法律相談」「人権擁護委員による人権・こまりごと相談」「市民相談室」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	人権啓発講演会の開催	同和教育パンフレット	広報みずなみへの啓発記事	市ホームページの啓発記事	人権書道展	「ちよっといい話」の募集	瑞浪市人権施策推進指針・行動計画	弁護士による無料法律相談	人権擁護委員による人権・こまりごと相談	市民相談室	知っているものはない	その他	無回答
男性	194	7.7	4.6	40.2	6.7	9.3	17.0	3.1	18.0	7.2	16.0	39.7	0.5	5.7
女性	231	10.0	5.2	55.4	3.9	20.8	26.4	4.3	31.6	17.3	27.3	19.9	—	5.2

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「市民相談室」の割合が、年代が低くなるにつれ「知っているものはない」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、50歳代、60歳代で「広報みずなみへの啓発記事」の割合が高くなっています。

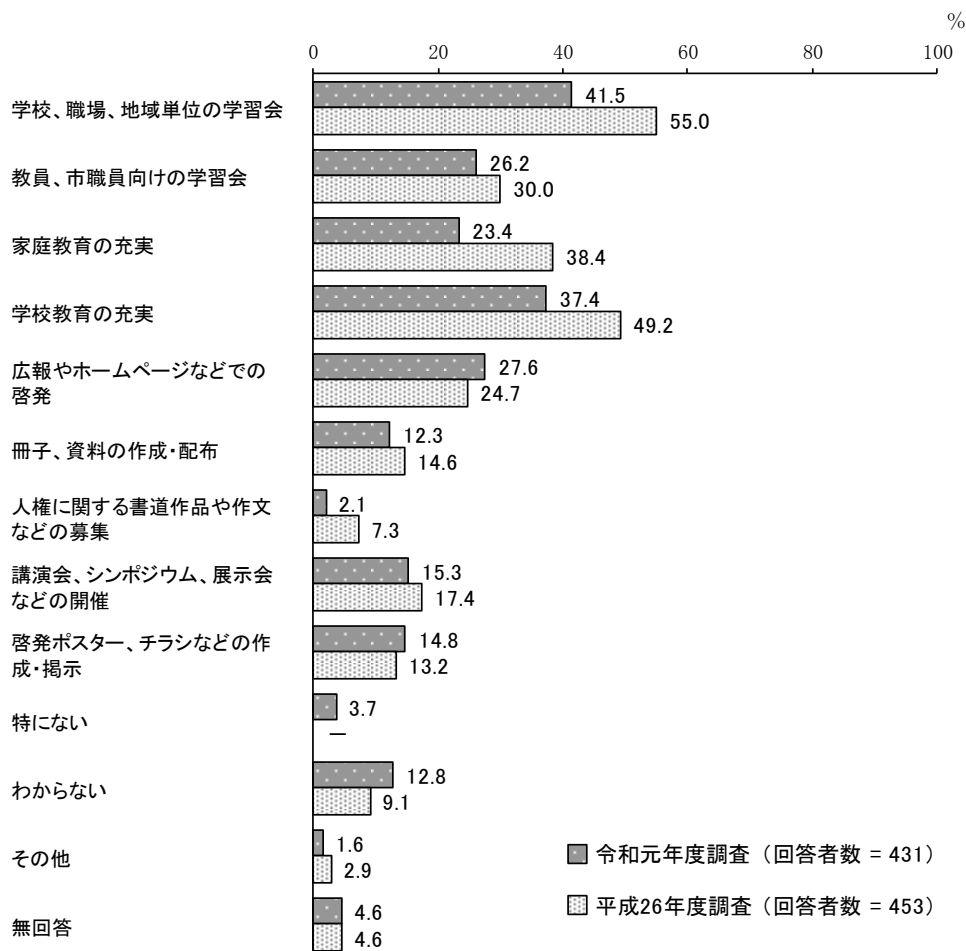
単位：％

区分	回答者数(件)	人権啓発講演会の開催	同和教育パンフレット	広報みずなみへの啓発記事	市ホームページの啓発記事	人権書道展	「ちよっといい話」の募集	瑞浪市人権施策推進指針・行動計画	弁護士による無料法律相談	人権擁護委員による人権・こまりごと相談	市民相談室	知っているものはない	その他	無回答
20歳代	33	6.1	3.0	33.3	6.1	12.1	15.2	3.0	9.1	6.1	15.2	45.5	—	—
30歳代	51	3.9	5.9	35.3	3.9	7.8	21.6	—	19.6	5.9	7.8	49.0	—	—
40歳代	59	10.2	1.7	50.8	1.7	16.9	32.2	—	25.4	10.2	15.3	32.2	—	—
50歳代	81	7.4	8.6	55.6	7.4	22.2	18.5	3.7	24.7	17.3	17.3	32.1	—	2.5
60歳代	96	13.5	3.1	55.2	7.3	16.7	20.8	4.2	29.2	10.4	29.2	16.7	1.0	11.5
70歳以上	107	8.4	5.6	45.8	3.7	13.1	22.4	7.5	29.9	17.8	31.8	22.4	—	9.3

問 38 人権教育・啓発を推進するためには、どのような方法が効果的だと思いますか。
 ≪〇はいくつでも≫

「学校、職場、地域単位の学習会」の割合が 41.5%と最も高く、次いで「学校教育の充実」の割合が 37.4%、「広報やホームページなどでの啓発」の割合が 27.6%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「学校、職場、地域単位の学習会」「家庭教育の充実」「学校教育の充実」「人権に関する書道作品や作文などの募集」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

※「特にない」の選択肢は、令和元年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学校教育の充実」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「教員、市職員向けの学習会」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校、職場、地域単位の学習会	教員、市職員向けの学習会	家庭教育の充実	学校教育の充実	広報やホームページなどの啓発	冊子、資料の作成・配布	人権に関する書道作品や作文などの募集	講演会、シンポジウム、展示会などの開催	啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示	特にない	わからない	その他	無回答
男性	194	40.7	22.7	21.1	41.8	26.3	11.9	1.5	17.0	13.4	4.6	11.9	2.1	3.6
女性	231	43.3	29.9	25.1	34.2	29.0	13.0	2.6	14.3	16.0	3.0	13.4	1.3	4.8

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代、50歳代で「学校、職場、地域単位の学習会」の割合が、30歳代で「学校教育の充実」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「広報やホームページなどでの啓発」の割合が、20歳代で「冊子、資料の作成・配布」の割合が高くなっています。

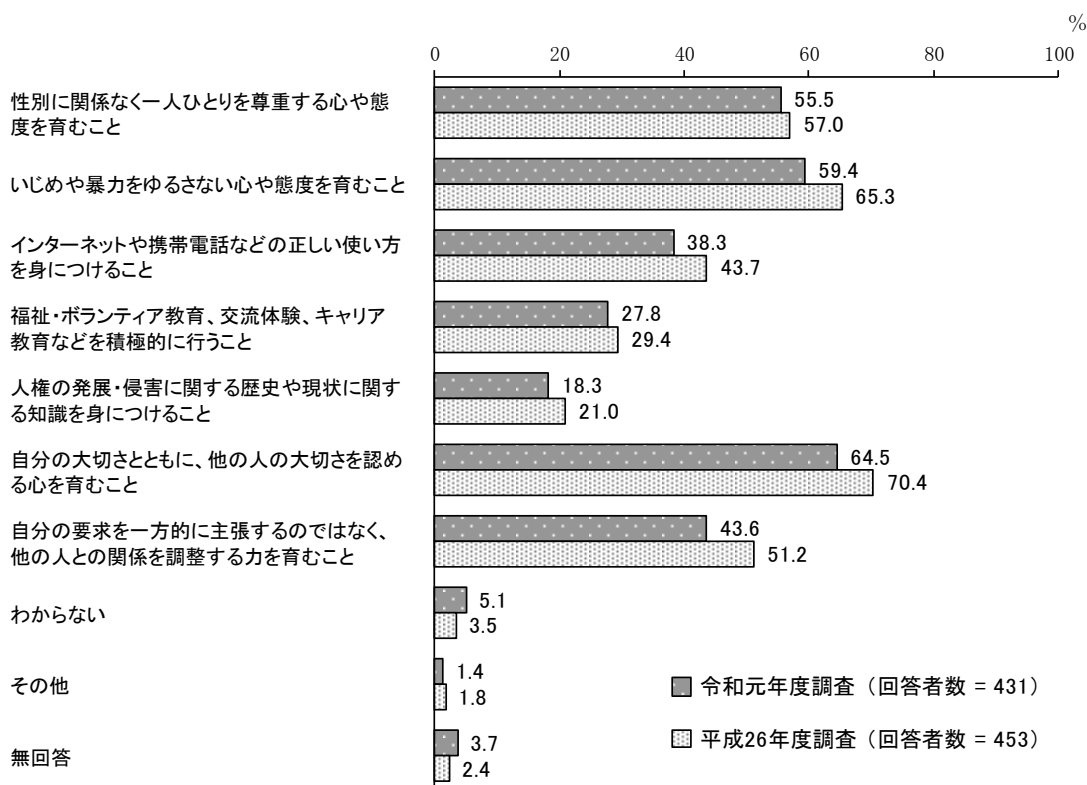
単位：％

区分	回答者数(件)	学校、職場、地域単位の学習会	教員、市職員向けの学習会	家庭教育の充実	学校教育の充実	広報やホームページなどの啓発	冊子、資料の作成・配布	人権に関する書道作品や作文などの募集	講演会、シンポジウム、展示会などの開催	啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示	特にない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	51.5	27.3	24.2	36.4	24.2	27.3	3.0	15.2	21.2	—	12.1	—	—
30歳代	51	39.2	29.4	23.5	47.1	23.5	13.7	—	11.8	15.7	3.9	11.8	2.0	—
40歳代	59	45.8	20.3	20.3	37.3	23.7	13.6	3.4	18.6	20.3	3.4	8.5	1.7	—
50歳代	81	49.4	28.4	25.9	37.0	24.7	6.2	3.7	14.8	13.6	2.5	11.1	1.2	2.5
60歳代	96	36.5	26.0	20.8	38.5	29.2	13.5	—	17.7	12.5	6.3	12.5	3.1	8.3
70歳以上	107	37.4	27.1	25.2	32.7	33.6	10.3	2.8	14.0	13.1	3.7	17.8	0.9	7.5

問 39 学校における人権教育について、どのようなことが重要だと思いますか。
 《○はいくつでも》

「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」の割合が 59.4%、「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」の割合が 55.5%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」「インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること」「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」「自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」「インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること」「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心や態度を育むこと」「自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと	いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと	インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること	福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育などを積極的に行うこと	人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと	自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと	わからない	その他	無回答
男性	194	50.5	53.6	31.4	26.3	17.5	55.7	40.2	7.7	1.0	4.1
女性	231	60.2	64.9	44.6	29.9	19.5	73.2	47.2	3.0	1.7	2.6

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること」の割合が、20歳代で「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」「インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること」の割合が高くなっています。

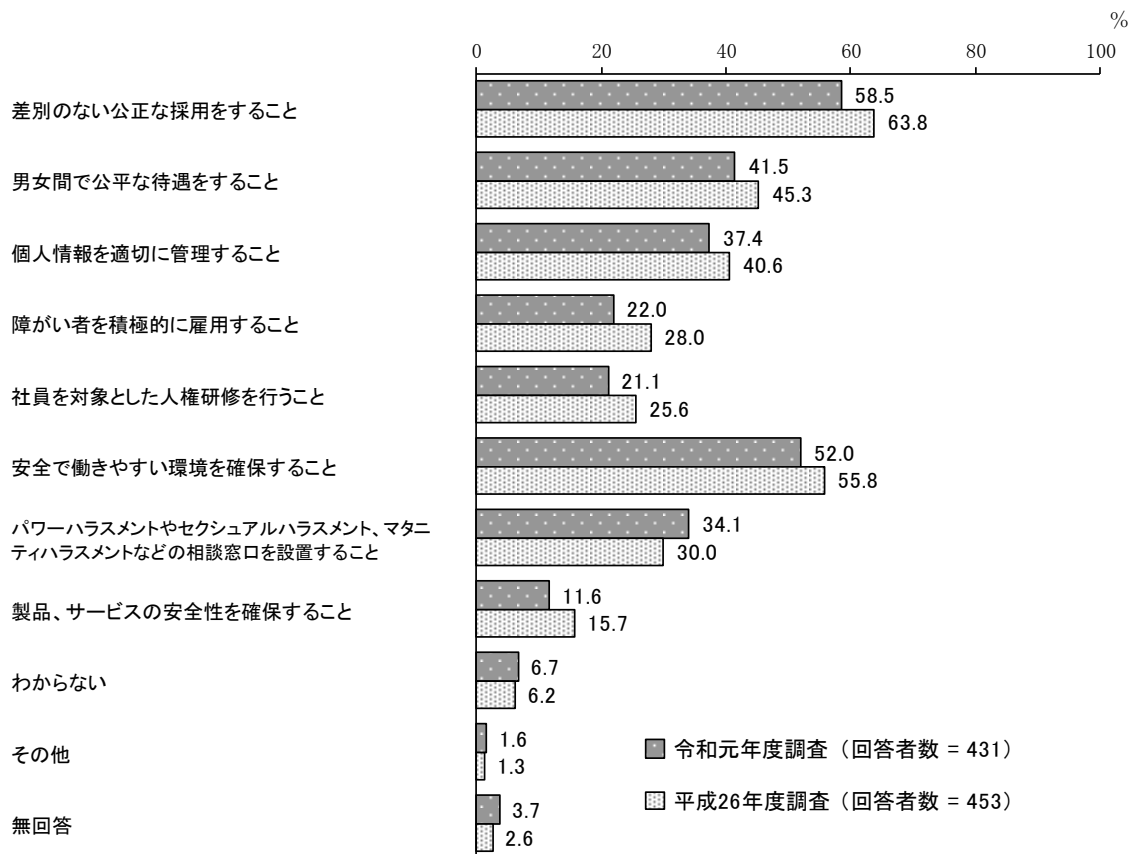
単位：％

区分	回答者数(件)	性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと	いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと	インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること	福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育などを積極的に行うこと	人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと	自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと	わからない	その他	無回答
20歳代	33	66.7	57.6	60.6	24.2	18.2	66.7	51.5	—	—	—
30歳代	51	54.9	66.7	45.1	35.3	35.3	64.7	45.1	3.9	—	—
40歳代	59	54.2	61.0	28.8	23.7	16.9	71.2	44.1	5.1	3.4	—
50歳代	81	56.8	63.0	44.4	27.2	19.8	74.1	35.8	4.9	—	1.2
60歳代	96	56.3	60.4	36.5	32.3	16.7	55.2	43.8	3.1	1.0	7.3
70歳以上	107	52.3	53.3	31.8	25.2	12.1	63.6	46.7	9.3	2.8	5.6

問 40 人権に関する企業の取り組みとしてどのようなことが重要だと思いますか。
 ≪〇はいくつでも≫

「差別のない公正な採用をすること」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「安全で働きやすい環境を確保すること」の割合が 52.0%、「男女間で公平な待遇をすること」の割合が 41.5%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「差別のない公正な採用をすること」「障がい者を積極的に雇用すること」の割合が減少しています。



※令和元年度調査、平成 26 年度調査のみ。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「差別のない公正な採用をすること」「男女間で公平な待遇をすること」「個人情報適切に管理すること」「安全で働きやすい環境を確保すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	差別のない公正な採用をすること	男女間で公平な待遇をすること	個人情報を適切に管理すること	障がい者を積極的に雇用すること	社員を対象とした人権研修を行うこと	安全で働きやすい環境を確保すること	パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること	製品、サービスの安全性を確保すること	わからない	その他	無回答
男性	194	55.7	37.1	29.9	21.1	20.6	42.3	32.5	10.3	8.8	3.1	3.6
女性	231	61.5	45.0	43.7	23.4	22.1	60.2	36.4	12.1	5.2	0.4	3.0

【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、20歳代で「男女間で公平な待遇をすること」「個人情報を適切に管理すること」「パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること」の割合が高くなっています。

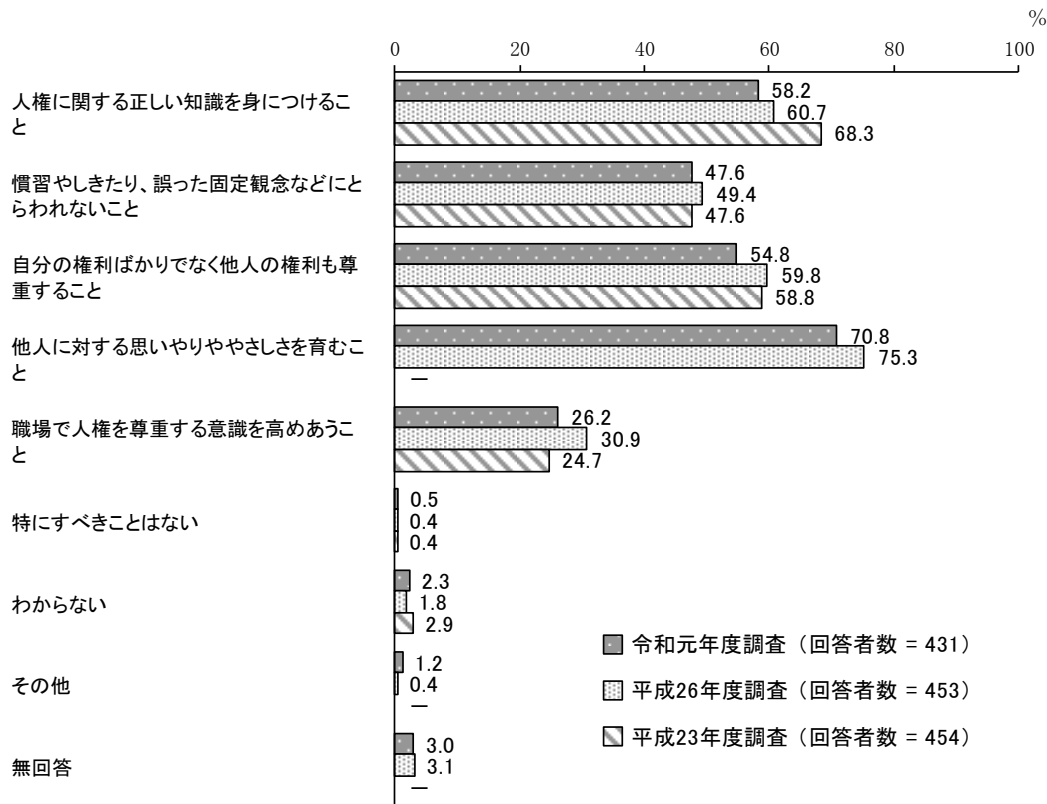
単位：％

区分	回答者数(件)	差別のない公正な採用をすること	男女間で公平な待遇をすること	個人情報を適切に管理すること	障がい者を積極的に雇用すること	社員を対象とした人権研修を行うこと	安全で働きやすい環境を確保すること	パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること	製品、サービスの安全性を確保すること	わからない	その他	無回答
20歳代	33	63.6	63.6	60.6	21.2	15.2	60.6	54.5	15.2	3.0	3.0	3.0
30歳代	51	45.1	45.1	41.2	19.6	27.5	62.7	33.3	21.6	3.9	2.0	—
40歳代	59	47.5	30.5	23.7	20.3	18.6	57.6	39.0	10.2	5.1	1.7	—
50歳代	81	65.4	38.3	43.2	23.5	24.7	51.9	30.9	8.6	6.2	—	1.2
60歳代	96	58.3	38.5	39.6	19.8	24.0	55.2	34.4	9.4	4.2	1.0	5.2
70歳以上	107	65.4	44.9	30.8	26.2	16.8	38.3	29.0	10.3	13.1	2.8	6.5

問 41 あなたは、市民一人ひとりが互いの人権を尊重するために心掛けたり、行動すべきことはどのようなことだと思いますか。《○はいくつでも》

「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」の割合が70.8%と最も高く、次いで「人権に関する正しい知識を身につけること」の割合が58.2%、「自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること」の割合が54.8%となっています。

過去の調査と比較すると、「人権に関する正しい知識を身につけること」の割合は減少しています。



※「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」「その他」の選択肢は、令和元年度調査、平成26年度調査のみ。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「慣習やしきたり、誤った固定観念などにとらわれないこと」「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」「職場で人権を尊重する意識を高めあうこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	人権に関する正しい知識を身につけること	慣習やしきたり、誤った固定観念などにとらわれないこと	自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること	他人に対する思いやりやさしさを育むこと	職場で人権を尊重する意識を高めあうこと	特にすべきことはない	わからない	その他	無回答
男性	194	55.7	37.6	55.2	66.5	20.6	1.0	2.6	1.0	4.1
女性	231	60.2	55.8	54.1	74.0	31.6	—	2.2	1.3	2.2

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「職場で人権を尊重する意識を高めあうこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	人権に関する正しい知識を身につけること	慣習やしきたり、誤った固定観念などにとらわれないこと	自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること	他人に対する思いやりやさしさを育むこと	職場で人権を尊重する意識を高めあうこと	特にすべきことはない	わからない	その他	無回答
20歳代	33	66.7	54.5	57.6	66.7	36.4	—	—	—	3.0
30歳代	51	60.8	47.1	51.0	70.6	25.5	—	2.0	2.0	—
40歳代	59	59.3	39.0	50.8	62.7	28.8	3.4	—	5.1	1.7
50歳代	81	64.2	44.4	54.3	74.1	25.9	—	3.7	1.2	1.2
60歳代	96	53.1	53.1	51.0	69.8	25.0	—	2.1	—	3.1
70歳以上	107	53.3	48.6	61.7	75.7	24.3	—	3.7	—	5.6

IV 自由意見

人権問題についてご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

*皆さんから寄せられた自由意見については、できる限り原文のとおり記載することとしていますが、意味が通じにくい表現（現在一般的に使われていない表記や句読点の欠落など）の場合は、修正して掲載しています。

人権全般について

性別	年代	内容
女性	20 歳代	人権は一言で言いあらわせないほど複雑です。このようなアンケートで私たちの人権にたいする想いが伝われば幸いです。
女性	20 歳代	あまり人権に対して考える機会がなかったので、良い機会になりました。ありがとうございました。
女性	30 歳代	人権問題についてあまり考えた事はなかったが、今回の意識調査を行ったことで人権問題について考えるいい機会となった。
女性	40 歳代	アンケートを行う事で人権について考えさせられました。
女性	60 歳代	問題点はすべて質問に書かれていると思います。報道、新聞などでは、見聞きしていますが、直面した事はありませんので○付けに困りました。
女性	60 歳代	人はひとりでは生きられない。他者の助け、支援がだれでも必要である事を知る事が大切。
女性	60 歳代	自分が直接関与していない事柄はわからない。
女性	60 歳代	今まで常識的に生きてきたつもりですが、「人権」ということについて意識したことがありませんでした。この調査票を書かせていただき、私自身、改めて意識を持ち考えさせていただく事が出来ました。瑞浪市が人権の啓発・教育に取り組んでみえることがわかり、良い体験となりました。ありがとうございました。
女性	60 歳代	人権問題という日頃使い慣れない言葉と、やや堅苦しい文章に、的外れな回答になっているかもしれない。悩みを持つ人は、まず家族や友人に相談できると良いと思った。いくら体制を整えたとしても、自分の心のうちを話せる人の存在が最も大切と思った。
女性	60 歳代	権利ばかり主張してもだめだと思う。多少の義務も負うべきかとも思う。
女性	70 歳以上	年寄りにはよくわかりません。
女性	70 歳以上	日本人の良さが、だんだん失われていくようでかなしい気持ちでいます。
男性	40 歳代	人権を主張しすぎる社会だと感じています。
男性	40 歳代	私達は簡単に人権人権と言いますが、（人権侵害）された事がある人でないと本当の問題（されたことの苦しみ）は分からないと思う。形だけの取組みはさらなる人権の侵害を生むと感じる。
男性	40 歳代	会社でいやな事とかあったら相談してくれる所が市役所にあつたらいいです。この世の中に泣き寝入りする人がいますので、その人たちのためにお願いします。
男性	60 歳代	答えが無いから、大変と思う。
男性	60 歳代	今まで人権問題について考えたことがなかったが、アンケートを記入して、少し考えてみようと思いました。
男性	70 歳以上	人権弱者（例 災害被害者）特権的姿勢を見受ける。自立心向上も必要。
男性	70 歳以上	人権を乱用する人がいることが問題である。

女性の人権（性別差別）について

性別	年代	内容
男性	30 歳代	まずこういった調査（公的なもの）で、男性差別が無い事が前提で話がすすむこと自体が、あからさまな男性差別。男は小さい事でもめたくないから我慢しているが、レディースファースト、力仕事、外に出て働くことを強要されること（もてるためには）すべて男性差別。
男性	60 歳代	市議会、市職員を男女同数。

子どもの人権について

性別	年代	内容
女性	70 歳以上	子供に関する事件が多い昨今です。大人が守るべきだが、世の中が変わってきているのか？何とかしないと思うばかりです。
男性	70 歳以上	親による子供への虐待が報道されるたびに、なぜ子供を守れなかったか、残念な思いが強く感じます。もっと地域・行政が規則にとらわれず、些細な情報でも隠れた大きな危険があると認識し、積極的に保護をする体制が必要ではないか。

高齢者の人権について

性別	年代	内容
女性	40 歳代	認知症を患う方の人権についても、考えさせられる事が多くあります。瑞浪市は高齢者が多い市です。高齢者や認知症を患う方達が安心して住めるような環境や私達もそれに伴った理解がもっと必要ではないかと思っています。未来ある子供や若者達も大切ですが、もう少し視点を広げてみてもいいような気がします。もしやっているとしたら、それがあまり知られていないかもしれません。
女性	50 歳代	市民が働きやすい職場環境のとりくみ。 高齢者の働ける機会の確保。地域貢献につながるボランティア活動の促進。

障がい者の人権について

性別	年代	内容
男性	60 歳代	障がい者雇用率の義務化。

パワーハラスメント（職場でのいじめ・いやがらせ）について

性別	年代	内容
女性	20 歳代	プライベートの事まで休みを頂く時間かれるんですが答えないとダメですか？
男性	40 歳代	正社員じゃ無いくせに・・・とか、下請けのくせに・・・とか社会に出てからこんなことで差別を受けるとは思わなかった。同じ仕事なのに賃金格差も大きい。
男性	60 歳代	年配者によるパワハラや不平等な事が多々有り、困る事がまだまだ有る。

人権教育・人権啓発について

性別	年代	内容
不明	70歳以上	日本国民としてお互いに思いやり、助け合いの気持ちをもって毎日の生活に努力すること。
女性	30歳代	自治会において、意見を出しても聞き入れてもらえなかった。若者の意見が聞けない。寄付金徴収が強制だと言われたことなど、これでは若い人は出て行ってしまうと思う。
女性	40歳代	難しい問題だとは思いますが、市の職員の方々が、仕事だと割り切らず、人の話に耳を傾ける時も必要だと感じます。
女性	40歳代	人権侵害をされている人は、人に相談する気力も失っている事もあると思います。窓口を作るだけでなく、それに気づける様な役の方があって良いです。相談して、報復があるのかなかなか踏み出せないと思います。
女性	50歳代	相手に対する気持ちが重要だと思います。
女性	60歳代	教育がとても重要だと考えます。社会全体で教育する機会を多くすることが始まりになると思います。
女性	60歳代	「いのち」を大切に、人と比べない。自分に自信を持ち、相手を思いやる。
女性	60歳代	けんめいに生きること、まじめに生きること、この努力のお陰で何事も自力になると啓発下さい。
女性	70歳以上	感謝することを忘れず生活していくことが大切だと思います。
男性	30歳代	人を想うことが大事だと。
男性	30歳代	学校での教育は、とても大切であるが、教員の負担にもなる。外部の専門の講師による参画をすすめていくことも重要だと思う。
男性	50歳代	相談体制・啓発活動は現在もあるが、いたましい事件は減りません。法律を作り、違反者は逮捕するくらいでないと人権問題は永遠になくなりません。
男性	50歳代	「ちょっといい話」など心温まる話を多くの人に広め、皆が思いやりをもって生活できるように啓発するとよい。
男性	60歳代	親が、子供にしっかり、手本を、しめすことが大事。まず、相手の話を、よく聞くこと。
男性	70歳以上	いつも思う事は立場を相手の気持ちに置換えて考える。人間全て平等であり、同等の権利そして思いやりのある人間社会と人の交流を多く持つ事！特に思いやり、配慮に欠けている。感謝の心を持つ！

アンケートについて

NO	年代	内容
女性	40歳代	アンケートの内容がとても答えにくいと感じました。被災者の方への人権問題を2つまでの解答枠にすることなど、質問の内容がかたよってしまうと思います。
女性	60歳代	大変難しいアンケートでした。
女性	60歳代	考える機会を頂きありがとうございました。○印をつけるのが難しかったです。
女性	60歳代	とても難しい問題が多く市民対象にアンケートしてよりよい方向に向けて対応ができるのか、問題の提示が問題となる方々にとってどの程度浸透し解決に向けてとられているのか全く知らないし、分からない。アンケートの結果も報告・公表もなされていないので市民として考えていく意識につながるのでしょうか疑問です。
男性	50歳代	内容に関係ありませんが、回答用紙に対し封筒が小さいと存じます。
男性	60歳代	この項目で何かわかるのでしょうか。

その他

NO	年代	内容
女性	40 歳代	町を発展させたいと思うのであれば、基本的なこの地域の考え方を見直されることが大事なのでは??!!
女性	50 歳代	夜歩くと少し暗いので照明を増やしてほしい。
女性	60 歳代	別にありません。
男性	60 歳代	独居老人を少しでも少なくしてほしい。一軒の家を何人でも住めるように共同生活の場を市の援助で進めてもらえないでしょうか。(空き家対策)
男性	70 歳以上	日本一の住みよいまちづくり繁栄して欲しい。全国に発信できる。 山椒は小粒でもピリリと効く。 すばらしい瑞浪市へ希望します。ご苦労様です!感謝!

V 参考資料（調査票）

人権に関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

日頃より、市政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

瑞浪市では、平成28年1月に策定した「瑞浪市人権施策推進行動計画（後期）」に基づき、市民一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指し、各種の取り組みを進めています。

つきましては、今後の人権啓発・人権教育の参考とさせていただくため、市民の皆さまに人権についてのお考えを聞かせていただくことといたしました。

この調査は、瑞浪市在住の20歳以上の方の中から無作為に1,000名を選び、アンケートにお答えいただく方法により実施いたします。その一人として、あなたにお願いすることになりましたが、あなたのお名前やご回答の内容が公表されることは決してございません。また、調査目的以外には絶対に使用しませんので、日頃のお考えを率直にお聞かせください。

ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和元年9月

瑞浪市長 水野 光二

ご記入にあたってのお願い

1. アンケートには、封筒の宛名の方ご本人がご回答ください。記入が困難な場合は、ご家族が代わりにご記入いただいても結構です。
2. 回答は選択方式です。あてはまる番号を○印で囲んでください。
3. 記入後は無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、**9月30日（月）**までにポストに投函してください。（切手は不要です）

■調査に関する問い合わせ

瑞浪市役所 まちづくり推進部 生活安全課
☎0572-68-9748（直通）

あなた自身について

問1 あなたの性別を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | |
|------------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
| 3 その他※ () | |

※性別の「3. その他」とは、性的マイノリティ（性のあり方が多数派とは異なる人、性的少数者）を考慮した選択肢です。戸籍上の区分とは別に、ご自身の主観によりご記入ください。

問2 あなたの年齢を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳以上 |

問3 あなたの職業を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | |
|--|-------------------|
| 1 自営業、経営者（農林水産業・商工・サービス業自由業等個人事業主と家族従業員、会社経営者など） | |
| 2 正規の職員、従業員（会社員・公務員など） | 3 パート、アルバイト（内職含む） |
| 4 学 生 | 5 家事専業（主婦・主夫） |
| 6 無 職 | |
| 7 その他（具体的に： _____） | |

問4 あなたの家族構成を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 一世代世帯（夫婦のみ） |
| 3 二世代世帯（親とその子ども） | 4 三世代世帯（祖父母と親とその子ども） |
| 5 その他（具体的に： _____） | |

人権全般について

問5 あなたの人権に対する考えに最も近いものはどれですか。

《○は1つだけ》

- | |
|---|
| 1 一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない |
| 2 一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない |
| 3 人権の名のもとに権利の濫用 ^{らんよう} が見られるので、むしろ制限すべきだ |
| 4 その他（具体的に： _____） |

問6 あなたは、次の人権問題に、どの程度関心を持っていますか。

次にあげる①～⑰のすべてにお答えください。

《各項目の「1 2 3 4」のうち1つに○》

	非常に 関心 がある	多少 関心 がある	あまり 関心 がない	全く 関心 がない
① 女性の人権問題	1	2	3	4
② 子どもの人権問題	1	2	3	4
③ 高齢者の人権問題	1	2	3	4
④ 障がい者の人権問題	1	2	3	4
⑤ 同和問題	1	2	3	4
⑥ アイヌ* ¹ の人々の人権問題	1	2	3	4
⑦ 外国人の人権問題* ²	1	2	3	4
⑧ 感染症患者など* ³ の人権問題	1	2	3	4
⑨ 刑を終えて出所した人の人権問題	1	2	3	4
⑩ 犯罪被害者とその家族の人権問題	1	2	3	4
⑪ インターネット* ⁴ を悪用した人権侵害	1	2	3	4
⑫ ホームレス* ⁵ の人権問題	1	2	3	4
⑬ 性的指向* ⁶ を理由とする人権問題	1	2	3	4
⑭ 性自認を理由とする人権問題* ⁷	1	2	3	4
⑮ 北朝鮮による拉致問題	1	2	3	4
⑯ 人身取引* ⁸ に関する人権問題	1	2	3	4
⑰ 災害時の人権問題	1	2	3	4

*1 主に北海道に居住している先住民族

*2 ヘイトスピーチ（特定の国の出身者であることのみを理由に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなどの一方的な内容の言動）を含む

*3 エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病患者など

*4 パソコン、スマートフォンなど

*5 定まった住居を持たず、公園・路上を生活の場とする人

*6 異性愛、同性愛、両性愛など

*7 「からだの性」と「こころの性」が一致しないことを理由とする人権問題

*8 性的搾取や強制労働、臓器売買を含む

問7 あなたは、過去5年間に、「差別をされた」と思ったことがありますか。また、それはどのような内容でしたか。

1	ある	2	ない
---	----	---	----

↓「〇はいくつでも」 → 問8へ

1	年齢について	2	学歴・出身校について	3	職業について
4	収入・財産について	5	家柄について	6	性別について
7	出身地について	8	容姿について	9	思想・信条について
10	宗教について	11	人種・民族・国籍について	12	病気・心身障がいについて
13	家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）				
14	その他（具体的に： _____）				

問8 あなたは、過去5年間に、「人権を侵害された」と感じたことがありますか。また、それはどのような内容でしたか。

1	ある	2	ない
---	----	---	----

↓「〇はいくつでも」 → 問9へ

1	あらぬ噂、他人からの悪口、陰口	2	名誉・信用のき損、侮辱
3	他人からの暴力、脅迫、強要	4	プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）
5	虐待	6	いじめ
7	地域での差別待遇	8	家庭での差別待遇
9	学校での差別待遇	10	職場での差別待遇
11	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）		
12	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）		
13	ストーカー（つきまとい）行為		
14	その他（具体的に： _____）		

問9 もし差別や人権侵害を受けた場合、あなたはどのような対応をしますか。

「〇はいくつでも」

1	黙って我慢をする → 問10へ	2	相手に抗議をする
3	家族に相談をする	4	友人に相談をする
5	職場の人や学校の先生などに相談をする	6	区長や民生委員などに相談をする
7	弁護士に相談をする	8	法務局や人権擁護委員に相談をする
9	県や市役所などに相談をする	10	警察に相談をする
11	新聞やテレビなどマスコミに訴える		
12	その他（具体的に： _____）		

問10 問9で「1 黙って我慢をする」を選択した方にお尋ねします。それはなぜですか。

《○は1つだけ》

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 相談できる相手がいない | 2 どこに相談したらよいのかわからない |
| 3 相談しても解決しないと思う | 4 相談費用がない |
| 5 相談する勇気がない | 6 特に理由はない |
| 7 その他 | 【具体的に： |

女性の人権について

問11 女性の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- | | |
|---|--------|
| 1 「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること | |
| 2 役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること | |
| 3 商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをむやみに使用していること | |
| 4 方針や意思決定の場に女性が十分参画していない、または参画できないこと | |
| 5 セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ） | |
| 6 配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス） | |
| 7 売春・買春、援助交際などがあること | |
| 8 家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと | |
| 9 職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること | |
| 10 差別的な発言を受けること | |
| 11 マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ） | |
| 12 特に問題があるとは思わない | |
| 13 わからない | |
| 14 その他 | 【具体的に： |

問12 女性の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- 1 女性の人権に関する相談体制を充実させる
- 2 男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する
- 3 学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる
- 4 家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す
- 5 方針や意思決定の場への女性の参画を促進する
- 6 女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する
- 7 仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る
- 8 男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する
- 9 職場において、採用や昇進、昇格などの男女の待遇の差をなくす
- 10 特に必要だと思うことはない
- 11 わからない
- 12 その他 (具体的に:)

子どもの人権について

問13 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- 1 暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと
- 2 いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること
- 3 暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること
- 4 進路や就職先の選択などにおいて、保護者が子どもの意見を聞かないこと
- 5 教師が体罰や差別的な扱いを行うこと
- 6 成績や学歴だけで子どもを判断すること
- 7 暴力や性などの有害な情報（出会い系サイト、ポルノ雑誌など）がたくさんあること
- 8 児童買春、援助交際などの犯罪があること
- 9 特に問題があるとは思わない
- 10 わからない
- 11 その他 (具体的に:)

問14 子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- 1 子どもの人権に関する相談体制を充実させる
- 2 子どもの人権を守るための啓発活動を推進する
- 3 保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる
- 4 学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める
- 5 学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する
- 6 子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む
- 7 インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする
- 8 児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する
- 9 特に必要だと思うことはない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： }

問15 あなたが児童虐待を発見したらどうしますか。

《○はいくつでも》

- 1 学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる
- 2 民生委員・児童委員に知らせる
- 3 警察に知らせる
- 4 家族や友人、近所の人に相談する
- 5 虐待をしている人に注意する
- 6 虐待を受けている子どもに声をかける
- 7 法務局や人権擁護委員に知らせる
- 8 どうしたらよいかわからない
- 9 何もしない
- 10 その他（具体的に： }

高齢者の人権について

問16 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- 1 経済的に自立が困難なこと
- 2 働く能力を発揮する機会が少ないこと
- 3 悪徳商法や詐欺の被害が多いこと
- 4 病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること
- 5 家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること
- 6 高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること
- 7 高齢者の意見や行動を尊重しないこと
- 8 食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと
- 9 道路の段差や駅の階段など外出に支障があること
- 10 特に問題があるとは思わない
- 11 わからない
- 12 その他（具体的に：）

問17 高齢者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- 1 高齢者の人権に関する相談体制を充実させる
- 2 高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する
- 3 高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する
- 4 高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす
- 5 年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する
- 6 高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる
- 7 高齢者と他の世代との交流を促進する
- 8 高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する
- 9 特に必要だと思うことはない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に：）

障がい者の人権について

問18 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- 1 障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること
- 2 生活を支援する福祉サービスが十分でないこと
- 3 スポーツ活動や文化活動などへの参加に配慮がされていないこと
- 4 就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること
- 5 悪徳商法や詐欺の被害が多いこと
- 6 障がい者の暮らしに適した住宅が少ないこと
- 7 道路の段差や駅の階段など外出に支障があること
- 8 結婚に際し周囲に反対されること
- 9 差別的な発言を受けること
- 10 特に問題があるとは思わない
- 11 わからない
- 12 その他 (具体的に:)

問19 障がい者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- 1 障がい者の人権に関する相談体制を充実させる
- 2 障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する
- 3 福祉サービスの拡充や入所施設を整備する
- 4 障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する
- 5 障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する
- 6 障がい者の就労機会を確保する
- 7 障がいがある人とない人との交流を促進する
- 8 障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する
- 9 特に必要だと思うことはない
- 10 わからない
- 11 その他 (具体的に:)

インターネットによる人権侵害について

問20 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 他人への誹^{ひぼう}謗中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること
- 2 出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること
- 3 犯罪捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などを掲載すること
- 4 インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること
- 5 個人情報などが流出していること
- 6 ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在していること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他〔具体的に： 〕

問21 インターネットによる人権侵害を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- 1 インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる
- 2 個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する
- 3 企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる
- 4 プロバイダ*1などに対し、情報の停止・削除を求める
- 5 違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する
- 6 学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる
- 7 特に必要だと思うことはない
- 8 わからない
- 9 その他〔具体的に： 〕

*1 インターネットへの接続サービスを提供する会社

同和問題について

問22 同和問題について、あなたはどう考えますか。

《○は1つだけ》

- 1 問題の解決のために努力したい
- 2 とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい
- 3 同和地区の人々の問題であり、自分には関係ない
- 4 あまりさわがず、そっとしておけばよい
- 5 特に関心はない
- 6 わからない
- 7 その他 (具体的に:)

問23 同和問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 2 誤った偏見から交際を避けること
- 3 えせ同和行為^{*1}があること
- 4 結婚に際し周囲に反対されること
- 5 結婚や就職の際に身元調査をすること
- 6 差別的な発言を受けること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

*1 同和問題を口実として行われる不法、不当な要求や行為

問24 あなたのお子さんが(いらっしゃらない場合は、いると仮定してお考えください)、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか。

《○は1つだけ》

- 1 同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する
- 2 自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める
- 3 家族・親戚などの反対があれば、認めない
- 4 自分は反対であり、絶対に認めない
- 5 わからない
- 6 その他 (具体的に:)

アイヌの人々の人権について

問 25 アイヌの人々の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと
- 2 独自の文化や伝統の保存、伝承が図られていないこと
- 3 住宅や生活環境などの生活水準が低いこと
- 4 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 5 結婚に際し周囲に反対されること
- 6 差別的な発言を受けること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

外国人の人権について

問 26 日本に居住する外国人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- 1 外国人についての理解や認識が十分でないこと
- 2 住宅を容易に借りることができないこと
- 3 言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと
- 4 外国人の子どもに対し、自国の言葉での教育が行われていないこと
- 5 日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと
- 6 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 7 結婚に際し周囲に反対されること
- 8 差別的な発言を受けること (ヘイトスピーチを含む)
- 9 特に問題があるとは思わない
- 10 わからない
- 11 その他 (具体的に:)

犯罪被害者とその家族の人権について

問 27 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 犯罪行為によって、精神的なショックを受けること
- 2 犯罪行為によって、経済的な負担を受けること
- 3 事件に関して、周囲にうわさ話をされること
- 4 警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと
- 5 捜査や刑事裁判において、精神的な負担を受けること
- 6 刑事裁判手続きに、必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと
- 7 取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること
- 8 特に問題があるとは思わない
- 9 わからない
- 10 その他 (具体的に:)

問 28 犯罪被害者とその家族の人権を尊重するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- 1 犯罪被害者とその家族の人権を守るための教育・啓発活動を推進する
- 2 犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる
- 3 犯罪被害者とその家族のために経済的な支援を行う
- 4 精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う
- 5 捜査や刑事裁判において犯罪被害者等に配慮した施策を講じる
- 6 犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う
- 7 特に必要だと思うことはない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

感染症患者などの人権について

問 29 感染症患者などの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと
- 2 宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること
- 3 病院での治療や入院を断られること
- 4 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 5 結婚に際し周囲に反対されること
- 6 差別的な発言を受けること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

刑を終えて出所した人の人権について

問 30 罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会復帰を図ろうとした場合、どのような問題があると思いますか。

《○は2つまで》

- 1 更生した人たちに対する誤解や偏見があること
- 2 インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること
- 3 住宅を容易に借りることができないこと
- 4 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 5 結婚に際し周囲に反対されること
- 6 差別的な発言を受けること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

災害時の人権問題について

問 31 東日本大震災（原子力発電所の事故も含む）や熊本地震などの大規模災害により被災した人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
- 2 被災者が居住の自由を奪われていること
- 3 住宅を容易に借りることができないこと
- 4 宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否されること
- 5 学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること
- 6 長期化する避難生活からのいさかいや虐待
- 7 差別的な発言を受けること
- 8 特に問題があるとは思わない
- 9 わからない
- 10 その他 （具体的に：

問 32 東日本大震災、熊本地震などの大規模災害が起きた場合、どのような人権問題が起きると思いますか。

《○は2つまで》

- 1 避難生活でプライバシーが守られないこと
- 2 避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じること
- 3 要支援者（障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等）に対して十分な配慮が行き届かないこと
- 4 女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと
- 5 デマ・風評などによる差別的な言動が起きること
- 6 支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと
- 7 特に問題があると思うことはない
- 8 わからない
- 9 その他 （具体的に：

性的指向の異なる人（同性愛、両性愛など）の人権について

問 33 性的指向の異なる人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 世間から好奇又は偏見の目で見られること
- 2 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること
- 3 地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること
- 4 嫌がらせを受けたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること
- 5 法律が整備されていないこと
- 6 同性のパートナーとの関係が認められていないこと
- 7 告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること
- 8 セクシャルハラスメント（性的いやがらせなど）を受けること
- 9 特に問題があると思うことはない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： _____）

問 34 性的指向の異なる人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- 1 性的指向の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する
- 2 性的指向の異なる人のための相談・支援を充実させる
- 3 性的指向の異なる人に関する法的認知・保護を行う
- 4 性的指向の異なる人とその支援者の活動を支援する
- 5 専門医や専門的な医療機関についての情報を提供する
- 6 特に必要だと思うことはない
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に： _____）

**性自認の異なる人（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）の
人権について**

問 35 性自認の異なる人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 性自認の異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は偏見の目で見られること
- 2 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること
- 3 地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること
- 4 嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること
- 5 性別変更などの法律が不十分なこと
- 6 トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること
- 7 提出書類等に性別の記入を求められること
- 8 告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること
- 9 セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）があること
- 10 特に問題があると思うことはない
- 11 わからない
- 12 その他 （具体的に：

問 36 性自認の異なる人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- 1 性自認の異なる人に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する
- 2 性自認の異なる人のための相談・支援を充実させる
- 3 性自認の異なる人に関する法的認知・保護を行う
- 4 性自認の異なる人とその支援者の活動を支援する
- 5 専門医や専門的な医療機関について情報提供する
- 6 特に必要だと思うことはない
- 7 わからない
- 8 その他 （具体的に：

人権教育・人権啓発の方法について

問37 瑞浪市が行っている人権に関する取り組みについて、あなたが知っているものはどれですか。

《○はいくつでも》

- 1 人権啓発講演会の開催（平成30年度講師：藤田敬一氏、サニー・フランシス氏）
- 2 同和教育パンフレット（小学校で配布）
- 3 広報みずなみへの啓発記事（ちょっといい話・人権書道展・人権週間など）
- 4 市ホームページの啓発記事
- 5 人権書道展
- 6 「ちょっといい話」の募集
- 7 瑞浪市人権施策推進指針・行動計画
- 8 弁護士による無料法律相談*1
- 9 人権擁護委員による人権・こまりごと相談
- 10 市民相談室（市役所1階 市民相談室 及び 3階 生活安全課内）
- 11 知っているものはない
- 12 その他（具体的に： _____）

*1 毎月第1火曜・第3木曜日（予約制）

問38 人権教育・啓発を推進するためには、どのような方法が効果的だと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 学校、職場、地域単位の学習会
- 2 教員、市職員向けの学習会
- 3 家庭教育の充実
- 4 学校教育の充実
- 5 広報やホームページなどでの啓発
- 6 冊子、資料の作成・配布
- 7 人権に関する書道作品や作文などの募集
- 8 講演会、シンポジウム、展示会などの開催
- 9 啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示
- 10 特にない
- 11 わからない
- 12 その他（具体的に： _____）

問39 学校における人権教育について、どのようなことが重要だと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと
- 2 いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと
- 3 インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること
- 4 福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育*1などを積極的に行うこと
- 5 人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること
- 6 自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと
- 7 自分の要求を一方向的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

*1 社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身につける教育

問40 人権に関する企業の取り組みとしてどのようなことが重要だと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 差別のない公正な採用をすること
- 2 男女間で公平な待遇をすること
- 3 個人情報を適切に管理すること
- 4 障がい者を積極的に雇用すること
- 5 社員を対象とした人権研修を行うこと
- 6 安全で働きやすい環境を確保すること
- 7 パワーハラスメント*1やセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること
- 8 製品、サービスの安全性を確保すること
- 9 わからない
- 10 その他 (具体的に:)

*1 職務上の地位や優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為

問41 あなたは、市民一人ひとりが互いの人権を尊重するために心掛けたり、行動すべきことはどのようなことだと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 人権に関する正しい知識を身につけること
- 2 慣習やしきたり、誤った固定観念などにとらわれないこと
- 3 自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること
- 4 他人に対する思いやりややさしさを育むこと
- 5 職場で人権を尊重する意識を高めあうこと
- 6 特にすべきことはない
- 7 わからない
- 8 その他 （具体的に：

人権問題についてご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケートは、返信用封筒に入れ、**9月30日（月）**までに
ポストに投函してください。なお、切手を貼る必要はありません。

■調査に関する問い合わせ

瑞浪市役所 まちづくり推進部 生活安全課
☎0572-68-9748（直通）

人権に関する市民意識調査
報告書

発行 令和2（2020）年1月

瑞浪市役所 まちづくり推進部 生活安全課
〒509-6195 岐阜県瑞浪市上平町1丁目1番地
TEL 0572-68-2111 FAX 0572-68-8749
